メガドライブ冒険ゲームブック

ファンタシースターII

還らざる時の終わりに

大出光貴　橋爪　啓　著

双葉文庫　ゲームブックシリーズ

ファンタシースターII

還らざる時の終わりに

大出光貴　橋爪　啓　著

FUTABASHA GAME BOOK

双葉文庫

冒険ゲームブック

ファンタシースターII/還らざる時の終わりに

大出光貴・橋爪 啓／S・ハード



双葉社

PHANTASY STAR II /The Last Battle

by Studio Hard Co., Ltd. and

Mitsutaka Ode Akira Hasizume

Copyright © 1989 Studio Hard Co., Ltd.

Illustrations by Hirosi Yakumo Ken Tokunaga

Character and Licenser

© SEGA Enterprises

First Published by Futaba-sha Books Co., Ltd.

3-28 Higashi-Gokencho, Shinjuku, Tokyo, Japan

ファンタシースターII／還らざる時の終わりに

CONTENTS

プロローグ……4

この本の遊び方…10

パセオシティ……14

登場人物……16

ゲーム……20

エピローグ……282

行動記録紙……284

あとがき……286

プロローグ

闇と混沌の力によってアルゴルを支配していたラシークを、アリサ、ミャウの4人の戦いによって倒してから、およそ千年の月日が流れた……。

その間アルゴル太陽系2番目の星、モブレインの作った計画によって、砂漠ばかりの星から緑いっぱいの星にするにいたった。アルゴル太陽系で豊かな生活を築き上げるにはさらに発展し続け、巨大なコンピュータ・マザーブレインによって管理されたドームファームでは、あふれんばかりの作物が作られていた。

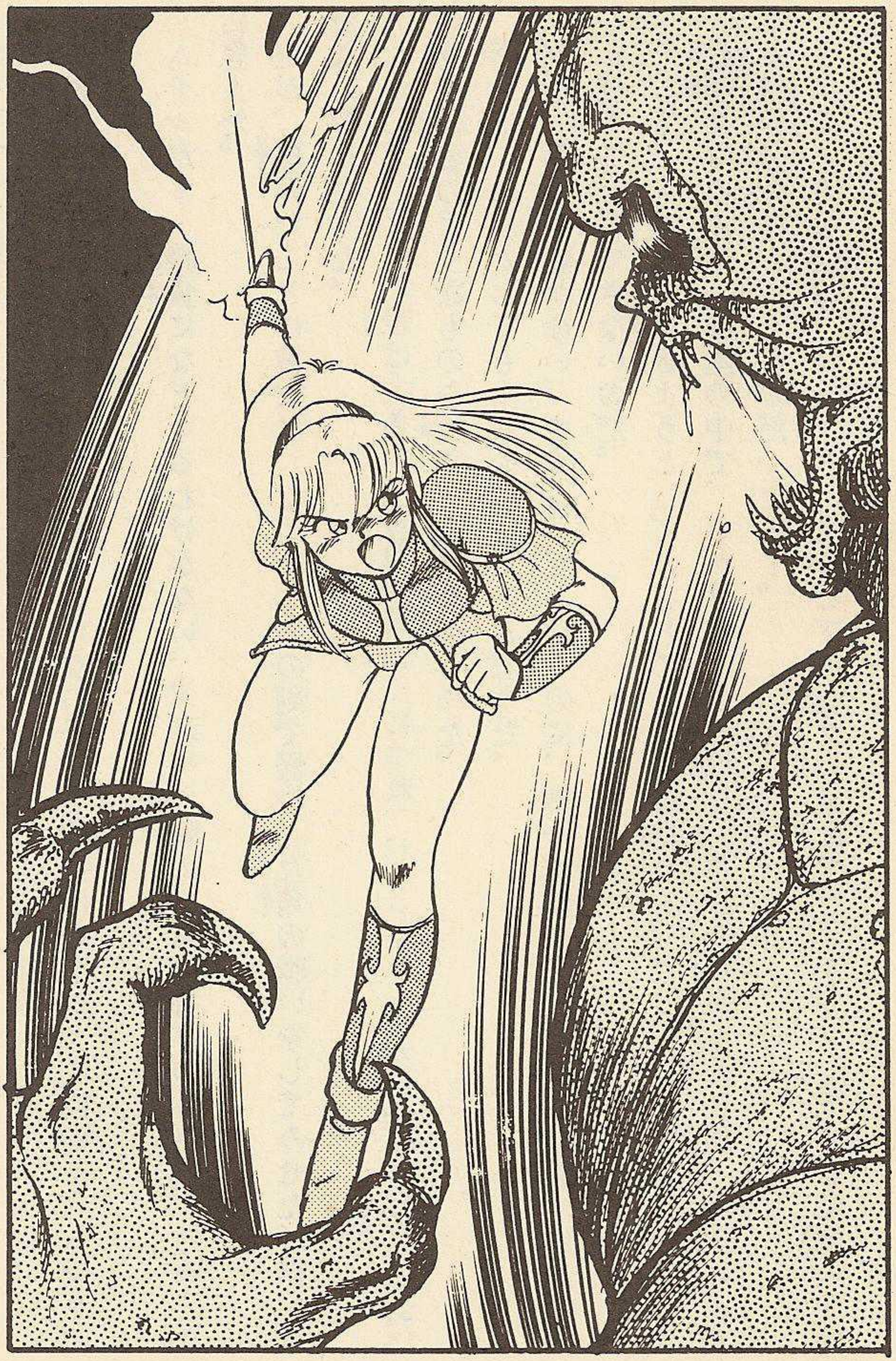
人々は平和な生活のなかで、戦いを忘れてしまったかに見えた。アリサたち、アルゴルを救った勇者たちの戦いの記憶までを……。

——だが、再びアルゴルに闇が押し寄せる！　アルゴルに隠された運命の謎を解きあかすのは、いったい誰なのか？

そのころボクは、毎晩のように悪夢にうなされていた。

怪物が——それもこの世のものとは思えないような怪物が、暗闇の中から浮かび上がってくるのだ。機械と筋肉をからみ合わせたような不気味な姿からボォーと浮か

プロローグ



そして、そ
まだ15、16
た。
ムチャだ！
に思えた。
だが、驚
れない戦いだ
しかし、パ
怪物が稲妻
ボクは、な
だが、手足
をかけること
そして、少
夜明けのほ
くる涙を必死
――ボクの
る。
の悪魔のような怪物と戦うのは、たったひとりの少女。
歳くらいの、栗色の髪をした女の子だ。彼女は剣を持って怪
勝負になどなるわけがない。少女は一瞬のうちに握りつぶされてしまうか
たことに彼女は、たった1本の剣で怪物と互角の戦いをしてみせた。信じら
本の差は大きい。勝負が長引くにつれ、じりじりと少女は押されていった。
ようなものを吐き、少女を苦しめた。
んとしても少女を助けたいと思った。
が動かない。すぐ近くだというのに、指一本動かすことができず、少女に声
もできないのだ。
女が力尽きようとしているところで目が覚める。
の暗い部屋の中で、ボクは言いようのない悲しみにとらえられ、こみあげて
にこらえるのだった……。
名前は、ユーシス。モタビアの首都パセオで、エージェントとして働いてい

プロローグ

ボクは首を振り、頭からいやな夢を追い払おうとした。
ナンセンスだ。マザーブレインという巨大なコンピュータが、世界を支配する現代において、夢などというのに。
べてデジタルなデータに置き換えられるなんて……。世の中のあらゆるものは、すボクは窓を開け、朝の空気を吸いこんだ。曖昧なものに感傷的になるなんて。
とらわれていた自分が洗い流されていくような気がした。

「おはよう、ユーシス君。元気かね。私のもとで、キミが働いてもう2年近くになるかな」
と、総督は改まったような口調で言った。
パセオの中心にある政府のセントラルタワー。いつものように出勤したボクは、いきなりモタビア総督の部屋に呼び出されたのだ。
「そうですね。ちょうど、バイオモンスターどもが現われたころだから、もう2年くらいになりますか」
「うむ。今日ここに来てもらったのは、ほかでもない。そのバイオモンスターに関係することなのだ」
バイオモンスターとは、バイオシステムが遺伝子を改造して作り出した悪性動物のことだ。何百という種類があって、みんな凶暴な性質の持ち主。最初は、数もたかが知れてい

て、恐ろしいものではなかった。腕自慢の連中が、狩りの獲物にしてきたところが最近は様子が変わってきた。バイオモンスターの被害がひどくなってしまったものもあるという。バイオモンスターの戦闘力が上がり、数もいっきに増えたのだ。いまや、モタビアのどこに行っても、バイオモンスターストタウンのようになってしまったものもあるという。バイオモンスターの被害がひどい所では、街中の人が殺されたり、逃げだしたりできる。バイオモンスターストタウンのようになってしまったものもあるという。

「キミも知ってのとおり、このモタビアは不毛の地だった。それをこのようなマザーブレインのたてた計画に基づき、灌漑の設備を整え、バイオシステムでモタビアの気候に合った生物を品種改良して作り出してきたからだ」

そんなことは、どの歴史の本にも載っている。モタビアのみならず、アルゴル全体がマザーブレインによって育てられてきたのだ。

「特になにも言っておらん。対策も現状のままだそうだ」

「そんなバカな」

「私の総督としての仕事は、マザーブレインの計画が順調に進むようにすることだった。

私はマザーブレインの行うことには、間違いはないと信じてきた。だが、バイオモンスターによる被害は、あまりにもひどすぎる。こうなればマザーブレインの手を借りず、我々だけの手でなんとかしなくてはならない」

プロローグ

「それが今回のボクの使命というわけですか」
「そうだ。今からキミに頼むことは、これまでで最も大変な仕事になるだろう。バイオモンスターの発生源であるバイオシステムに行き、そこにあるシステム・レコーダーを回収してきて欲しい」
「システム・レコーダーには、バイオシステムで何が起こったかが記録されているわけですね」
「それを分析できれば、バイオモンスター発生の原因や対応策もわかるだろう。頼んだぞ、ユーシス君。このモタビアを救うことができるのは、キミしかいない」
ボクは、総督と握手をして部屋を出た。大変な仕事をもらってしまった。
やれやれ、バイオモンスターなら、ボクも何匹かは退治したことがある。自分で言うのもなんだが、ボクは誰に教わったわけでもないのに、剣の達人なのだ。しかし、バイオシステムにいる怪物は、5匹や10匹ではあるまい。無事にボクは、もどってこられるだろうか？

⇩1へ

この本の遊び方

1 ゲームの進め方

アルゴル太陽系は、突然現われたバイオモンスターによって、破滅の危機を迎えています。はたしてユーシスは事件の謎を解きあかし、謎の敵との戦いに決着をつけることができるでしょうか？

この本では読者の皆さんのために、いろいろな結末が用意されています。そのうち、ハッピーエンドにたどりつける確率はごくわずか。大半の人は、怪物にやられたりして、使命を果たせないまま終わってしまうでしょう。

ユーシスの運命を左右する分かれ道が文章の最後にあります。その方法は単純なルート選択だったり、アイテムの有無による振り分けだったりとさまざまです。そのつど指示に従って、自分の進むべき道を選択していってください。

2 行動記録紙の使い方

ゲームを進めていくうち、ユーシスのポイントや冒険の条件は次々と変化していきます。そのつど、行動記録紙に書き換えていってください。

■バトルポイント

この本の遊び方

はじめにバトルポイント（バトルP）を決めます。このポイントは、ゲーム中に遭遇（そうぐう）するさまざまな敵との戦いに使います。また、運試（うんだめ）しに使用することもあります。

284ページにあるふたつのバトルP表のA〜J欄（らん）にそれぞれ、0〜9までの数字をいれます。続き数字でも、バラバラでもかまいません。ただし、ひとつの表の中で同じ数字をいれないでください。具体的（ぐたいてき）な使用法については戦闘方法（せんとうほうほう）の欄で説明（せつめい）します。

■ユーシスと仲間たちのポイント（各ポイントに上限（じょうげん）はありません）

●戦闘ポイント（戦闘P）

ユーシスたちの、戦闘能力（せんとうのうりょく）を表わします。初期値（しょきち）は0です。武器（ぶき）を入手した時や敵を倒した時などにプラスされ、傷（きず）を負（お）った時にマイナスされます。

●ヒットポイント（HP）

ユーシスたちの体力を表わします。初期値は10です。体力増強剤（ぞうきょうざい）（モノメイトやスターアトマイザーなど）を飲んだり病院に行くとプラスされ、敵にやられるとマイナスされます。0以下になっても死にません。

●テクニックポイント（TP）

ユーシスたちのテクニック（超能力（ちょうのうりょく））の力を表わします。初期値は0です。敵を倒すとプラスされ（されない時もある）、テクニックを使うとマイナスされます。

※テクニックを使うのに必要なポイントと、の指示に従ってください。

●お金（メセタ）

アルゴル太陽系で使用されているお金の単位は、メセタです。敵を倒すと報酬として自動的に振りこまれ、支払いはカードを使っています。

■アイテムリスト

ユーシスは、旅の途中で武器やその他のアイテムを手に入れるもの、交換して手に入れるもの、戦って手に入れるものなどいろいろです。入手したものは、みんなアイテムリストに記入してください。

■A～Fのアルファベット・チェック

ゲーム中、「Aをチェック」など、A～Fのときは、アルファベット・チェック欄のあてはまる記号に印をつけてください。このチェックには、重要なものが多いので、忘れずにやってください。

3 バトルの方法

まず敵の強さを出します。敵キャラクターのポイントに、バトルポイント表の1のAを見てください。仮に3とすると、2＋バトルP（1のA）がありますす）を足した数値がそれです。

次に、ユーシス（と仲間たち）の強さを出します。戦闘Pに、バトルPをあげましょう。

バイテングアント3匹　2＋バトルP（1のA）

この場合、バトルポイント表の1のAを見てください。仮に3とすると、2＋3＝5となり、5がバイテングアント3匹の強さです。

ユーシス　戦闘P＋バトルP（2のF）

このときのユーシスの戦闘Pを見てください。それにバトルP表の2のFの数字を足します。仮に4＋3＝7とします。

5対7でユーシスの勝ち。「敵よりPが上」という項目に進みます。もし、同点の場合は、両者のバトルPをひとつずつずらしてください。AならB、FならGというようにです。もしJのときはAにしてください。

■何度も書いたり消したりしますので、記入は鉛筆で行ってください。また、本に直接書きこむよりも、メモノートなどを使ったほうが遊ぶのに便利です。

パセオシティ

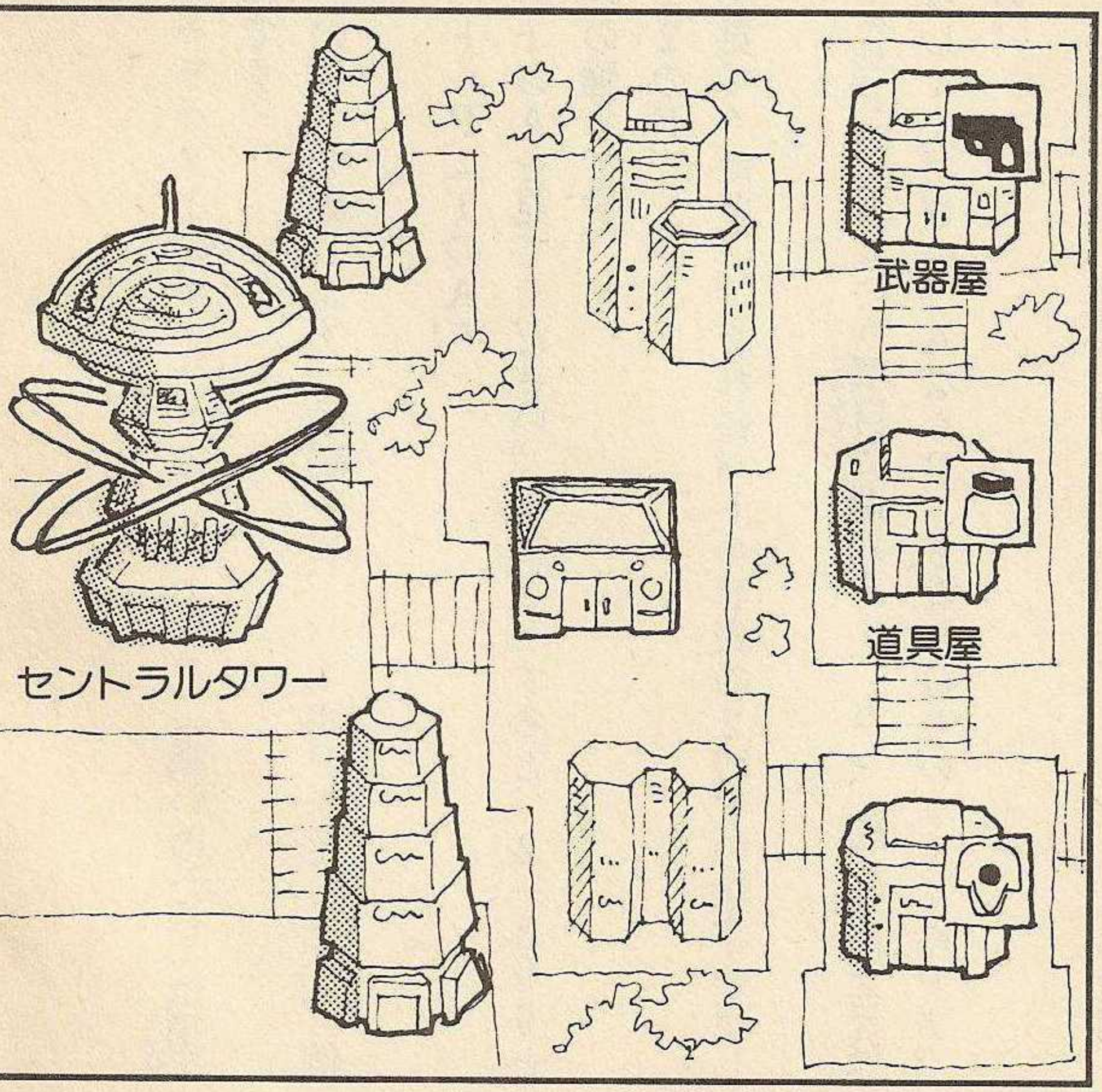
セントラルタワー

パセオの中心にそびえ建つ高層ビル。モタビア星を統治する総督がいる。いわば、首相官邸のようなもの。総督室のほかにライブラリイもあり、屋上にはなぜか宇宙船もあったりする。

ライブラリイ

セントラルタワーの中にある情報センター。モタビア星だけではなく、アルゴル太陽系のあらゆる情報を得ることができる。いろいろと手がかりを得る。もちろん最後の敵などは教えてくれない。

アルゴル太陽系第2惑星――モタビア最大の都市だ。ここで紹介する施設は、パセオだけではなく各都市にもある。



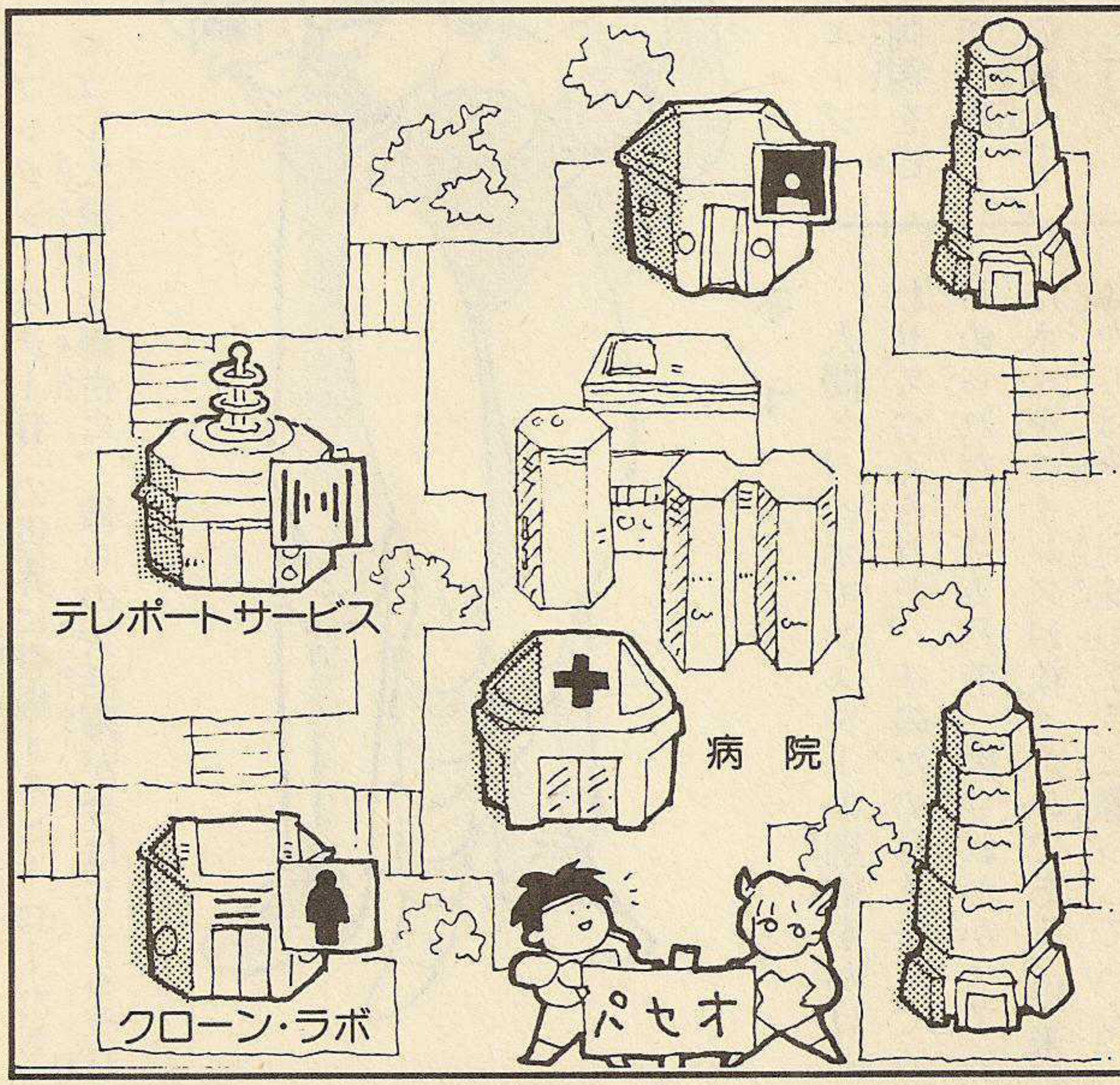
パセオシティ

テレポートサービス

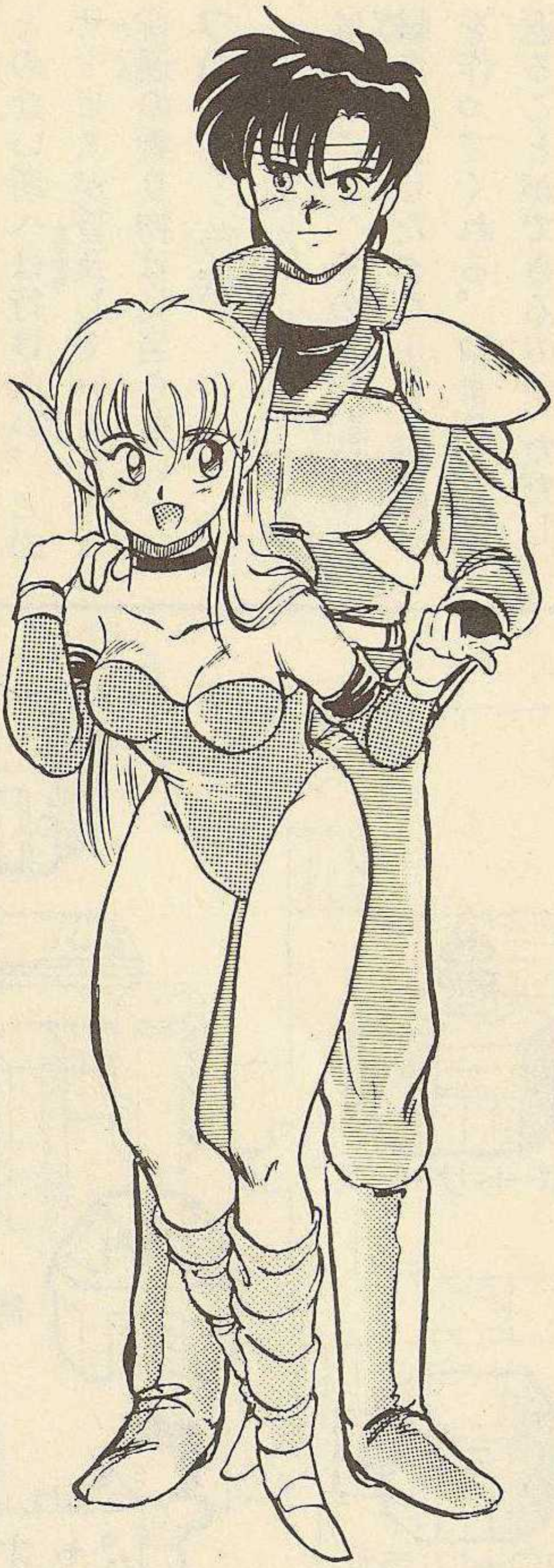
物質転送装置によって、街と街の間をスピーディーに移動できる。なお、この装置は、行き先の光景を思い浮かべることによって作動するため、行ったことのない所へは行けない。このサービスが普及しているため、普通の乗り物は見当らない。

クローン・ラボ

仲間が死んでしまったときは、ここで、その人の記憶や経験を再生したクローン（複製）を作ってくれる。つまり、生き返ることができるのだ。ただし、生きた人間のクローンを作ることは法律で禁止されている。



登場人物



「ファンタシースターII」の世界に登場するヒーローたち。アルゴル太陽系を舞台に、彼らの大活躍が今はじまるぞ!!

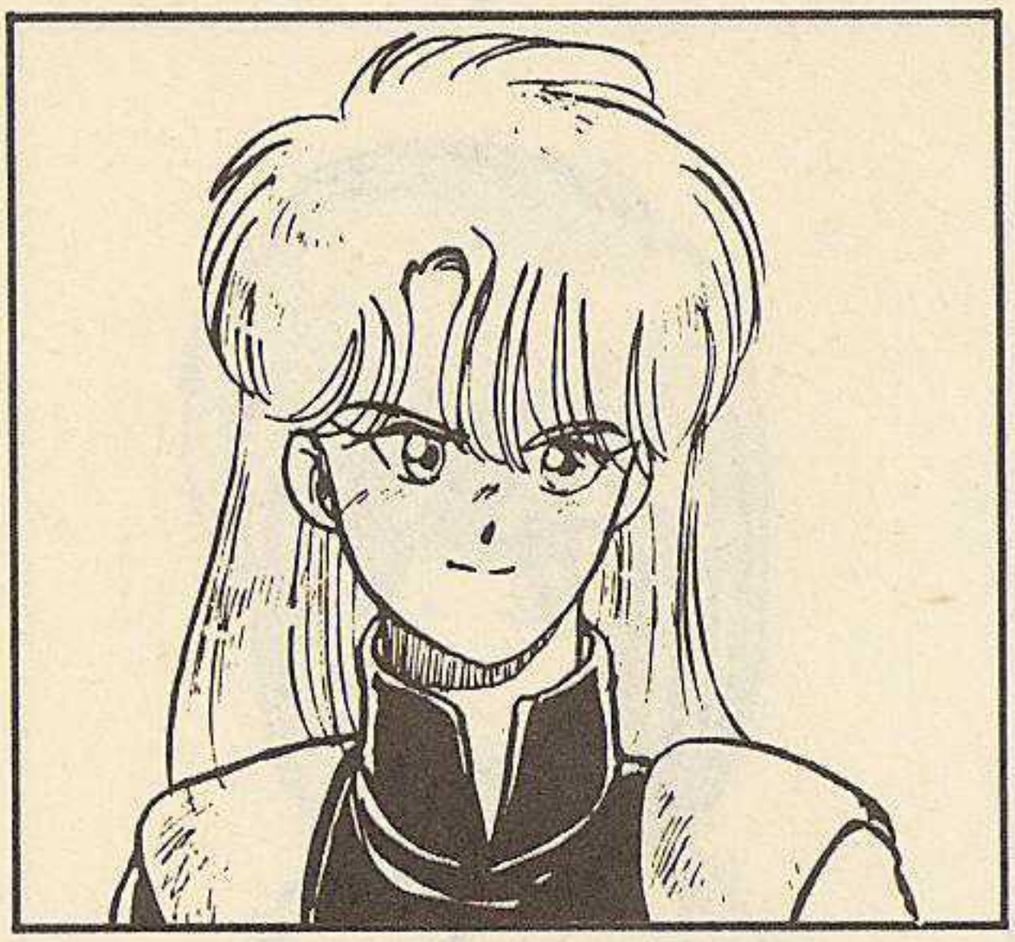
ユーシス

物語の主人公でモタビア政府のエージェント。10歳のとき、宇宙船事故で両親を亡くして、以来たったひとりで生きてきた。誰に教わったわけでもないのに剣の達人である。前世には謎が隠されている……？

ネイ

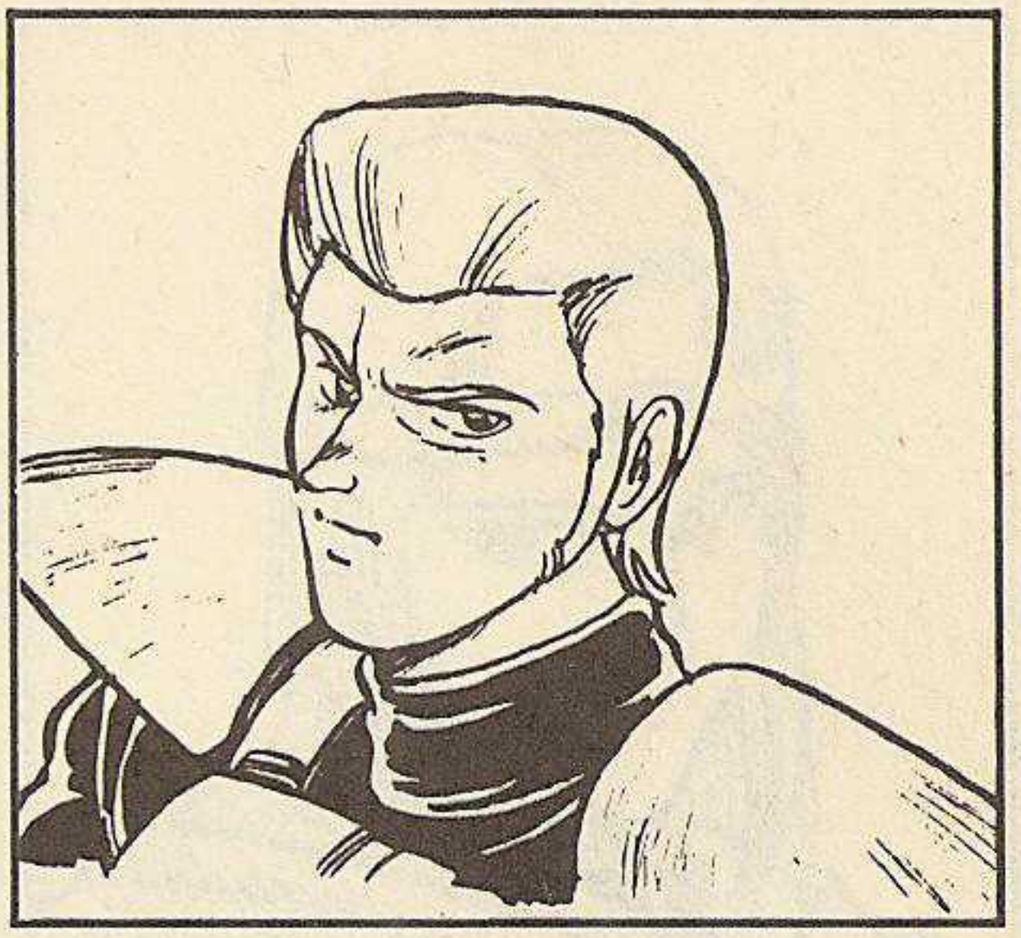
人間とバイオモンスターの細胞をかけあわせてつくられた。そのため行く先々でいじめられた。7カ月前、殺されかかっていたネイをユーシスが救ったのである。以来、ふたりは実の兄妹のように暮らしている。

登場人物



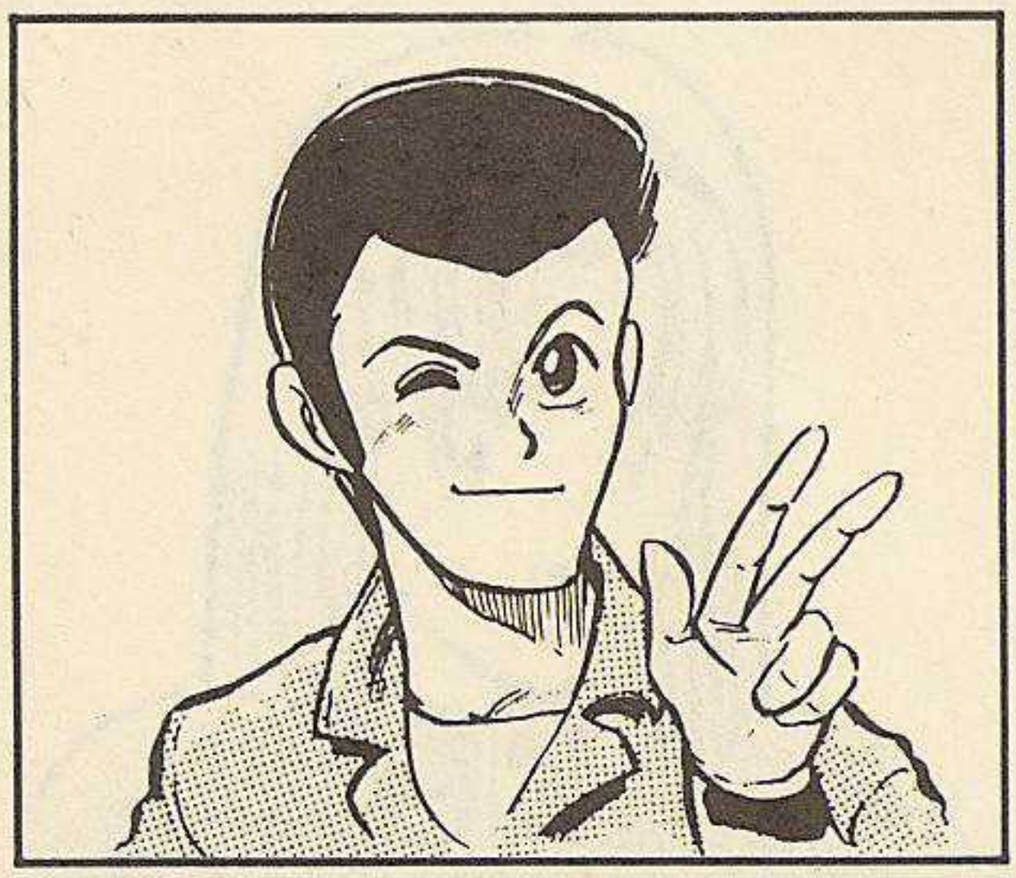
アーミア

悪いハンターを退治するカウンタ・ハンターだ。刃物を使わせたら彼女の右に出る者はいない。年齢不詳の美女。



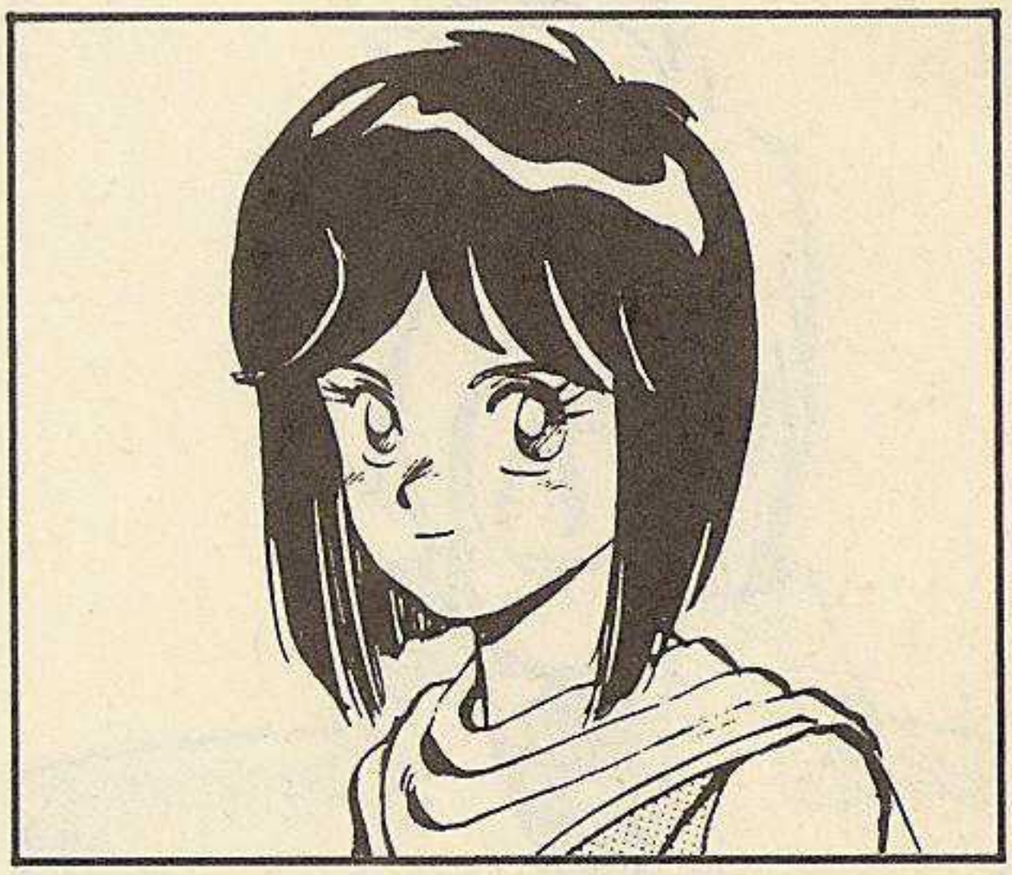
ルドガー

元軍人。バイオモンスターに妻子を殺されてから、ハンターとなった。あらゆる銃器類を使いこなすプロだ。



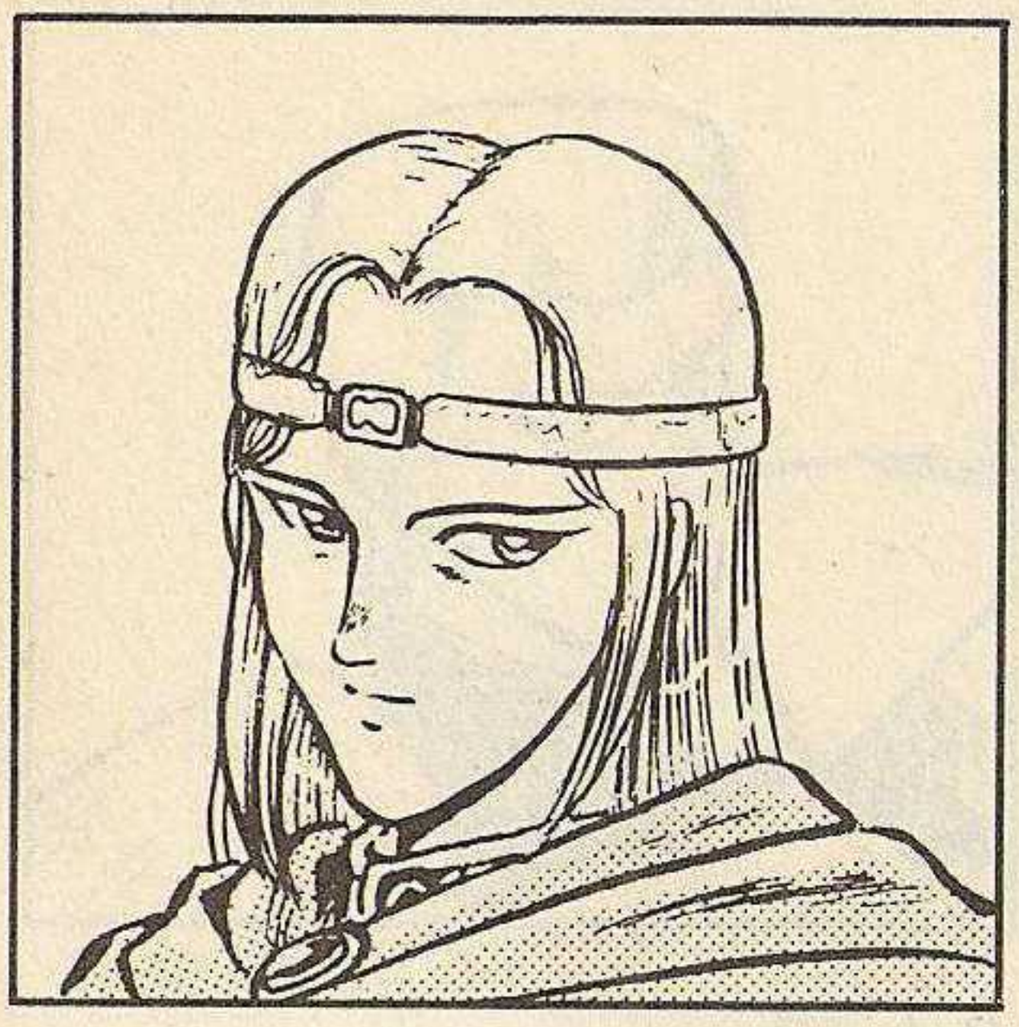
カインズ

メカ壊しの天才。エンジニア志望だけど、その力のためにジャンク屋(クズ屋)を。



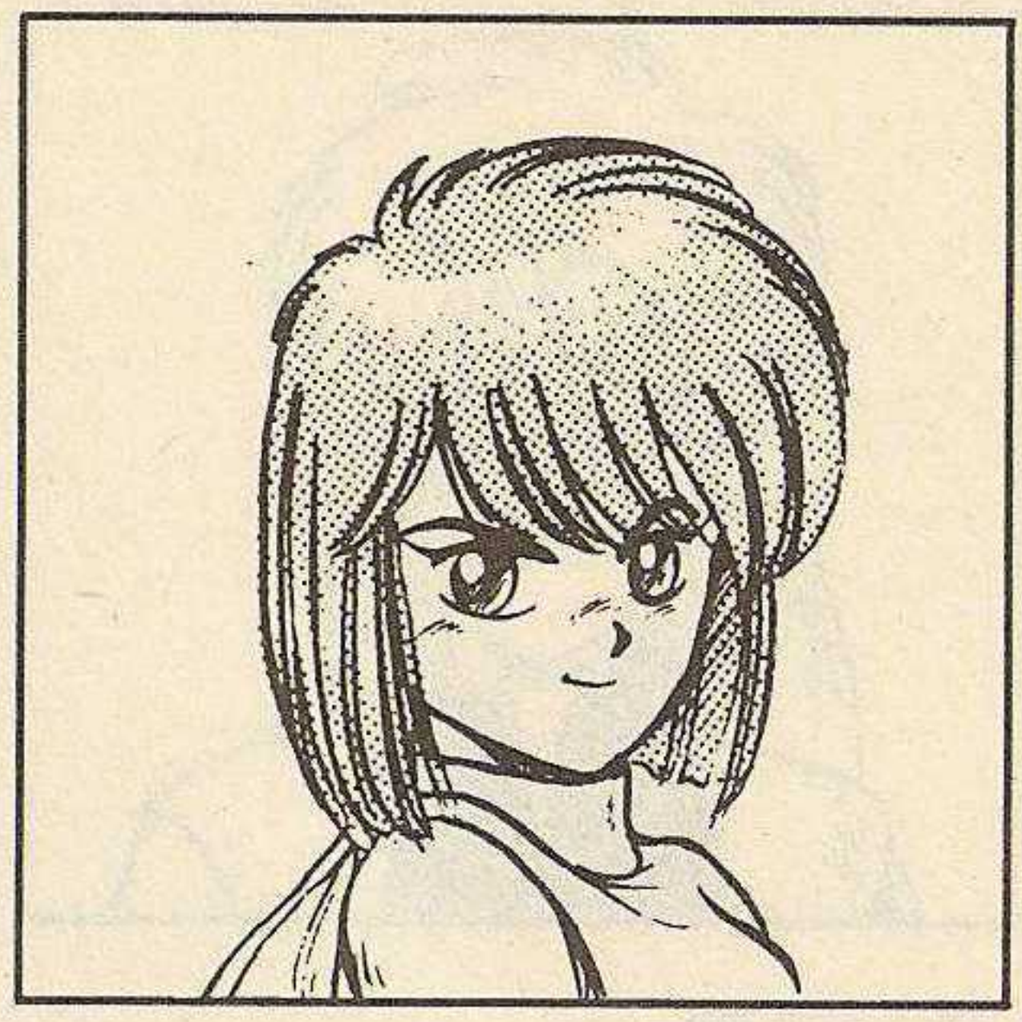
アンヌ

学校を出たばかりの女医さん。心の優しい彼女は、傷の治療や解毒の専門家である。



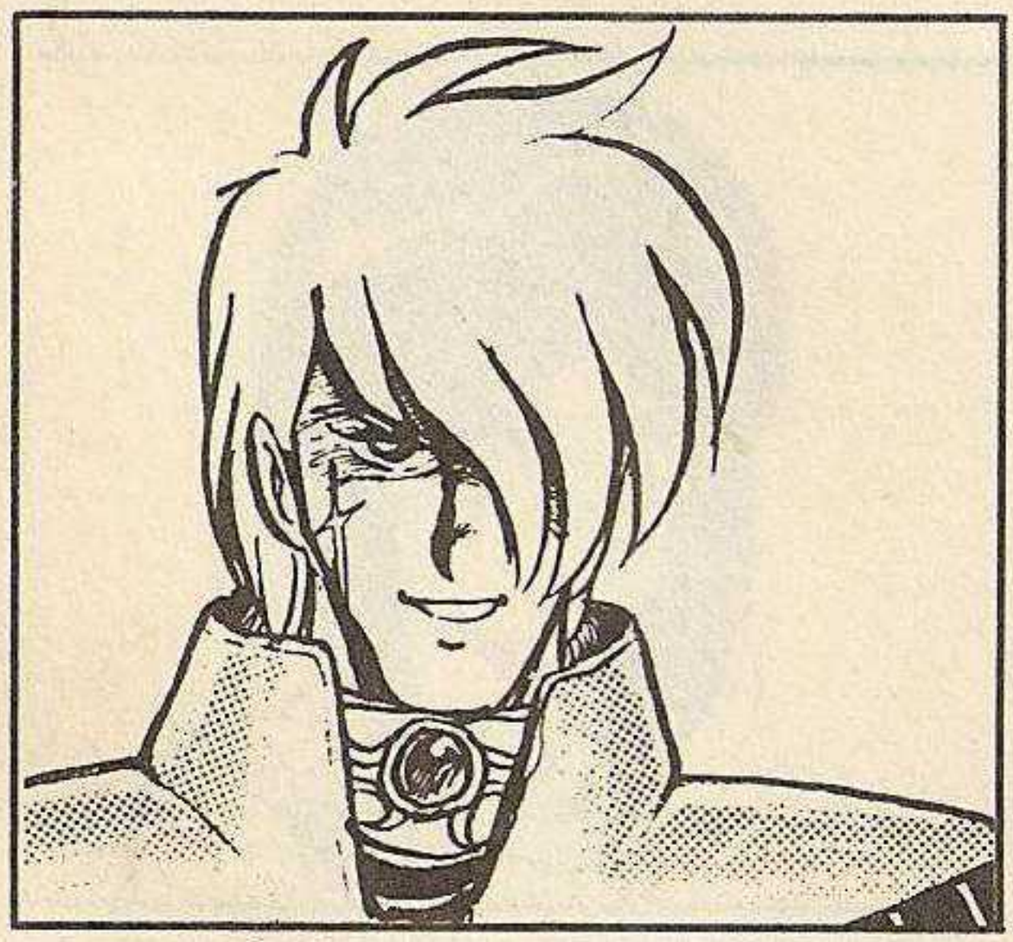
ルツ

アリサに協力してアルゴル太陽系の平和を守った。あれから千年たった今、彼は…？



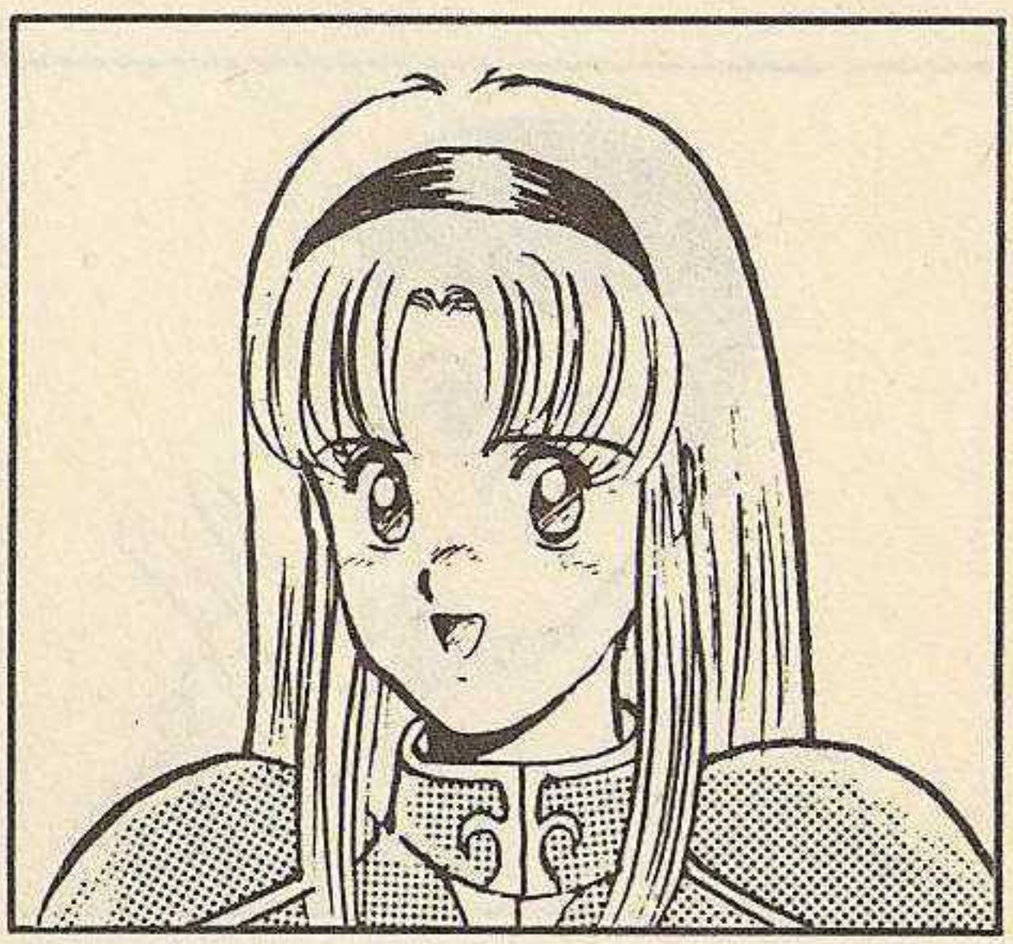
シルカ

「風のシルカ」の異名をもつ女盗賊。勝手気ままな性格で、時々姿を消したりする。



タイラー

宇宙海賊である。マザーブレインに支配されるのが嫌でパルマ星を脱出した。



アリサ

千年前、15歳だった彼女は、悪の怪物の手からアルゴル太陽系を救った。そして、今？

ファンタシースターII

還(かえ)らざる時の終わりに

さて、これからバイオシステムに向かって出発だ。総督の言うとおり、今やあらゆる街のまわりには、バイオモンスターがうようよしている。今回の旅もおそらく、危険なものになるだろう。

家にもどって旅の準備をしていると、奥の部屋からネコのような耳をした女の子が姿を見せた。妹のネイだ。なんだか心配そうな顔をしている。

「ネイ、しばらくの間お別れだ。ボクがいなくても、しっかりやっていくんだよ」

ネイは黙って、その大きな瞳でボクの顔を見つめていた。そういえば、初めてネイと会ったあの時も、こんなふうにボクを見つめていたっけ。あれは、7カ月ほど前のことだったろうか……。

妹といっても、ボクとネイは血がつながっているわけじゃない。バイオモンスターと人間の細胞をかけ合わせることによって生まれたネイは、人々からうとまれ、憎まれたあげく、殺されかかっていたのだった。

「ボクがネイを助けたときは、まだ小さかったけど、今はもうひとりでも大丈夫だろう？それに、この旅はかなり危険なものになりそうだ。キミを危ない目にあわせたくないんだ。少しの間だったけど、キミみたいな妹がいて楽しかったよ」

そう言ってなだめても、ネイはドアの前に立ちはだかって、ボクを行かせまいとした。

「ユーシス、お願い！　ネイも連れてって。ボクが袋を持ち、立ち上がっても、ネイはドアの前を動こうとしなは堅そうだ。しかたがない。ボクは、ネイを連れていくことにした。バイオシステムに行く前に、まだいくつか準備が残っている。まずは、

●ライブラリイに行く……⇨32へ
●武器店に行く……⇨54へ

2

十字路に来た。

●東に進む……⇨100へ
●南に進む……⇨78へ
●西に進む……⇨25へ
●北に進む……⇨59へ

3

モスキートを倒してまもなく、ボクたちはシステムのある湖はもう目と鼻の先だ。だが——その橋でボクらは、とんでもないヤツに会ってしまった。いかつい顔の大男。そいつが大きな刀を持って、橋の真ん中に仁王立ちしている。ここで通行人から金目のものをいただこうと待ち伏せしているんだろう。

さらに都合の悪いことに、ヤツは7カ月前にネイを殺そうとしたヤツだ。これはちょっと厄介なことになりそうだ。ボクたちは、ヤツに見つからないようにそっと引き返していった（**Aをチェック**）。

さっき話を聞いて気になったアリマーヤに向かおう。

⇩98へ

4

「こうなりゃ、こいつを使うまでだ」

少々荒っぽいが、ボクはダイナマイトを使って、機械の残骸を吹っ飛ばした（**ダイナマイトをマイナス1**）。

「強引よ、ユーシス」

「いいからいいから。さあ、行ってみよう」

爆煙とホコリの中でボクたちは、通路にぽっかりと開いた大穴を見つけた。

「ロープがある。反重力を使った昇降リフターじゃなくて、旧式のエレベーターの跡だな。昔、同じ物を見たことがある」と、ルドガー。

「ねえ、このロープを使って地下に降りられるんじゃない」ネイが名案を口にした。

さっそくボクたちは実行に移した。ロープを伝って降りて行くと、真ん中に着いた。

4〜5

●東に進む……⇩76へ
●南に進む……⇩48へ

5

「ここはどこだ……？」
深い眠りからさめたボクの目に、レオター
「良かった。思ったより早く再生したのね。
よ」ネイはボクにしがみつくようにして言っ
そうか。ボクはフェイスリッカーの毒液を
話を聞くと、あの後ネイがフェイスリッカ
て脱出。その足でパセオのクローン・ラボま
正直言ってボクは驚いた。いくら普通の人
あろうとは……。
「ユーシス君も大丈夫そうだな」
一足先に再生したルドガーも、元気な顔を
このモタビア星では、クローン再生技術が
一片の細胞が残っていれば復活できるのだ。

●西に進む……⇩148へ
●北に進む……⇩109へ

（クローン再生の代金で、マイナス70メセタが可能です）

このままやられっぱなしというのはシャクだ。ボクたちは、再びシュレーンの地下工場に潜入した。

⇩60へ

そう言ってテイムは、父親の写真をボクたちに見せた。

「これは！」

見覚えのある顔だった。あの橋の上で野盗をしていた男が、ダラムを憎む人は多いしぐに案内しよう。ただし、ダラムのキミもひどい目にあうかもしれない。人目につかないようにテイムの顔をベールで隠し、これをかぶっていくといい」

ボクたちは、ダラムのいる橋に向かった。

⇩30へ

どこから漏れているのか、ボクたちは水の音を聞きながら進んでいった。やがて、L字形の曲がり角に出た。

●東に進む……⇩116へ

●南に進む……⇩36へ

6〜9

進んでいくと、十字路に出た。

●東に進む……⇨76へ

●南に進む……⇨48へ

●西に進む……⇨148へ

●北に進む……⇨109へ

8

「まだ行っていないけど。野盗に荒らされて何もないんじゃ……？」

「そうかもしれんが、念のため行ってみよう。あそこの武器店の親父は古い知り合いでね」

ルドガーに案内され、ボクたちはアリマーヤにもどった。

やはりめぼしい物はなかったが、店主は残っていたグラスコートをタダでくれた。

「これだって、多少は身を守る役には立つさ」（戦闘Pプラス1）

その後ボクたちは、シュレーンの地下工場跡にたどり着いた。かなり前に廃棄された工場で、中は相当広い。

隠れ家にするには最適の場所だ。

地上の入り口はボロボロになっていたが、まだ昇降リフターは動くようだった。ボクたちは、それに乗って地下に降りた。

いろいろパイプが入り組んだ地下通路は、まるで迷宮のようになっていた。

●西に進む……⇩36へ
●東に進む……⇩36へ

10

ルドガーはショットガンを発射した。2匹のポイズナーが吹っ飛ぶ。
「うっ！」突然の痛みに、ボクは足を押さえた。
ちぎれたポイズナーの首が、牙を突き立ててやがる。そいつを引きはがし、床に叩きつけた。くそ、目まいがしてきた。毒か……!?（戦闘Pマイナス1）
「ユーシス！」ネイは、残っていたポイズナーをやっつけると、こちらに駆け寄ってきた。
「大丈夫。少しクラクラするだけだ」ボクは、心配げなネイにむりやり笑ってみせた。
この後、L字の曲がり角を、
●北に進む……⇩80へ

●南に進む……⇩73へ
●西に進む……⇩80へ

11

ボクたちは、念のため武器店に寄ってみた。
「ひゃー！　いい、命だけはお助けを」じいさんがカウンターの上で拝むような格好をした。
「慌てるな。ボクたちは、ならず者なんかじゃない。なにか、武器はないか？」

●西に進む……⇩273へ

「ほとんど持っていかれて、これくらいしかないだよ」そう言ってじいさんは、グラスコートを差し出した。

○グラスコート　40メセタ

（買う人は値段分を持ち金から引いて、アイテムリストに記入。戦闘Pプラス1）

店を出たボクとネイは、シュレーンに向かった。

12

「パオーン！」

B地区を探索するボクらの前に、巨大なネオ・マンモスが現われた！

戦うか、一瞬の判断ミスが命取りになりかねない。どうする？

●ビルの中に逃げる……⇩266へ

●戦う……⇩241へ

13

パセオを出ると、見渡すかぎりの緑地が広がっていた。千年前、このモタビアが砂漠だったってのは、まるでウソみたいな話だ。

このままのどかな旅が続くと思いきや、すぐに最初の敵が現われた。

緑の地平線の向こうから、蚊が飛んできやがった。もちろん、タダの蚊なんかじゃない。

羽を広げれば2メートルに達するという怪物、モスキートだ！

モスキート　30＋バトルP（1のE）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のB）で戦います。

●敵よりPが上……⇩29へ

●下……⇩56へ

14

ボクたちは、病院に寄った。

治療コースはふたつある。

○20メセタを払って、HPプラス2　○40メセタを払って、HPプラス4

このどちらかが可能。

「ちょうど近くだし、家でちょっと休んでいかないか」ボクとネイは、案内した。

⇩74へ

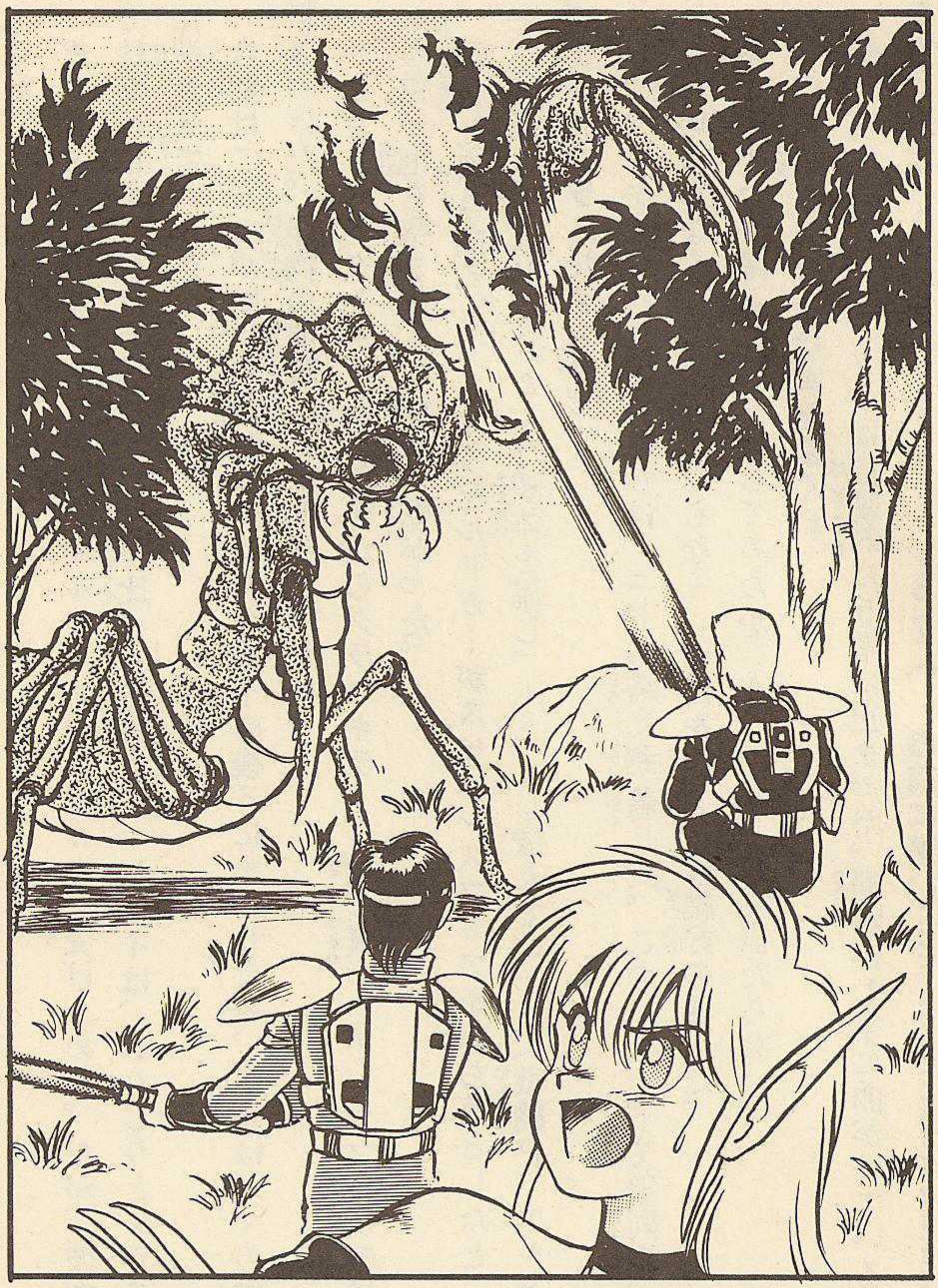
15

スピニンスフィアの体が膨れ上がり、電光のようなものがほとばしった。

ボクは身を投げ出し、それをかわした。

待ちかまえていたように、グラスキラーがカマを振り降ろしてくる。

14〜15



15●ニドの塔に向かう途中、グラスキラーに襲われた。カマキリを大きくしたようなひとつ目のバイオモンスターだ！

「うわっ」

ガシッ！　間一髪、ネイのスチールクローがそのカマを受け止めた。だが、ではは受け止めるだけで精一杯だ。力比べの体勢になったネイは、じりじりとグラスキラーに押されていった。

今度はこっちが助ける番だ。グラスキラーの後ろにまわりこみ、ボクは斬りつけた。怪物の前肢が、ボトリと落ちる。

いまだ！　ボクとネイは、前後からグラスキラーを刺し貫いた！　カマキリの怪物は口から白い泡を吹き出し、地面に転がった。

銃声に振り向くと、ちょうどルドガーがスピニンスフィアを撃ち落としたところだった。球体生物はドロリとした液体を流し、小さくしぼんでいった（**戦闘P、TPともに1プラス。プラス20メセタ**）。

ジャマ者を片づけたボクたちは、ニドの塔に到着した。この塔は地下工場同様、廃棄されて何年にもなる。人の出入りもなく、何かを隠すには絶好の場所だ。

荒れ果てた1階と2階を探してみたが、ネコの子1匹見当たらない。

「この昇降リフターはまだ動くわ」

乗ってみると、リフターは自動的に5階に止まった。通路がL字に曲がっているが……。

●東に進む……⇩82へ

●南に進む……⇩2へ

モタビアンが言っていたロロンに来てみた。
ゴミ捨て場は、海辺に建てられた半地下式の建物だった。中はゴミや壊れた電気製品でいっぱいだ。
「ねえ、ユーシス、なんでこんな所に来たの？」鼻の敏感なネイが、イヤな顔をして言った。
「なんとなく気になっただけ……お！　こんな所にも怪物がいるぞ！」
つぶれたテレビの山の間から、巨大なナメクジどもが現われた。シュライムゼレか。
ユーシスたち　戦闘Ｐ＋バトルＰ（２のＧ）で戦います。
●敵よりＰが上　……⇩１３３へ
●下　……⇩１５８へ

17

昇降リフターのあるＬ字路の所に来た。
「このリフターは、前に使ったのと違うな」とルドガーが言った。
●リフターに乗りこむ　……⇩３８へ
●北に進む　……⇩１００へ
●西に進む　……⇩７８へ

どうもガスというのが気になる。

18

不吉な予感を覚えたボクたちは、早々に外に出た。外は雪がちらつきはじめていた。

「ブルブル、寒いなあ。早いとこ、あっちのビルに入ろうぜ」

カインズに言われるまでもない。一行は駆け出すように、もう片方のノッポビルの中に入った。暖房が効いているわけじゃないが、雪をしのげるだけマシというものだ。

「ここも人がいないようだな」確認するようにルドガーが言う。

⇩280へ

19

通路の暗がりに、男が倒れているのが見えた（**Bをチェック**）。

「死んでいる。この傷は……バイオモンスターにやられたのか」

その死体を調べてみると、ポケットから手紙が出てきた。その内容は――、

『ダラムさんよ、あんたのお嬢さんのティムちゃんは、本当に良い子だねえ。ニドの塔で大切に預からせてもらってますよ。娘を殺されたくなかったら、1カ月以内に5万メセタを持ってくるんだ！　いいな！』

「脅迫状か。ということは、この男はティムをさらったならず者の一味だな。この脅迫状をダラムに届けようとして、ここでバイオモンスターに襲われたんだ」

18〜21

●ニドの塔に行く ……⇩70へ

20

フェイスリッカーは、背中のイボイボをこっちに向けた。そこから、赤い液体を飛ばしてくる。

ボクは、体をそらして液をかわした。なんて、グロイ攻撃なんだ。

「気をつけて、あれは毒液よ！」

ならば近づくのは不利だ。ルドガーもとっさにそう判断したらしく、離れた所からショットガンを撃った。

散弾がフェイスリッカーどものどてっ腹に炸裂した！　動けなくなった怪物ガエルどもにとどめを刺すのは簡単だった。

●まだ地下工場をまわる ……⇩80へ

●東に進む ……⇩93へ

●南に進む ……⇩61へ

●西に進む ……⇩50へ

●北に進む ……⇩116へ

21

フェンサーは、膨れ上がった腹をくねらせると、尻から針を放ってきた。かわしたと思ったとたん、わき腹に鋭い痛みが走った！　ちくしょう、もう1匹のヤツ

が時間差攻撃をしかけてきやがった（HPマイナス1）。

「ユーシス！」ネイはそう叫ぶと、跳び上がりざま、フェンサーの背中を斬り裂いた。一瞬のうちに2匹の羽がちぎれ飛ぶ。

たまらず怪物は地面に転がった。羽のないハチなんか怖くはない。ボクスチールクローてるフェンサーどもにとどめを刺した（**戦闘Pプラス1、プラス10メセタ**）。

「サンキュー、助かったよ」

⇩67へ

22

C地区——高層ビルもなければ、心なごむ自然もない。ただときおり風が吹き抜けていくだけの、さびしいところだ。

「おーい、このリフター、まだ動くぜ！」

カインズが、街はずれにある小さな建物の中で、地下へ降りるリフターを見つけた。

「よし、乗ってみよう」

リフターはガタンッと揺れてから、急降下でボクらを地下へと運んだ。

ガーッとドアが開くと、そこには巨大な地下街が……。

「何かあるかもしれないな。調べてみよう」

●東に進む……⇩247へ

●北に進む……⇩220へ

22〜24

バイテングアントは、口から臭いのきつい液体を飛ばしてきた。ボクはそれをかわし、剣をふるった。

だが、剣は弾かれた！　くそ、なんて硬い体だ。

「ユーシス、ヤツらの関節を狙うのよ！」

言うがはやいか、ネイは戦っていたアントの首を斬り落とした。なるほど、そこなら剣も効くか。弱点がわかればこっちのものだ。残った2匹の首は、ボクがはね飛ばした（**Tプラス10メセタ**）。

「お見事」――再び、さっきの男の声がした。

⇩89へ

24

先制攻撃とばかりに、ルドガーがショットガンを発射した。

だが、キャリアは平気で突っこんでくる。皮膚が硬いのか!?

「なら、そこは！」――アンヌの投げたメスは、もこれにはたまらず、体をのけぞらした。

今だ！　ボクはむきだしになったヤツの腹を狙った。そこだけは柔らかく、剣はずぶりと突き刺さる。キャリアはうめき声をあげると、ひっくり返り動かなくなった。

●北に進む……⇩8へ　●西に進む……⇩8へ

進んでいくと、L字の曲がり角に出た。

●南に進む……⇩41へ　●東に進む……⇩2へ

25

マンカバーとバスカバーは、同時に触手を放ってきた！

すさまじい触手の威力が、ボクたちを地面に叩きつけた。だめだ！

メージで、体がいうことをきかない。

く、くそお！　ここまで来て、こんなヤツらにやられるなんて……。

26

27

ヒルドは、カッと口を開けると、何かを吐き出した。火の玉だ！

いきなりそれを喰らい、ボクたちは吹っ飛ばされた（HPマイナス1）。

「ちっ！」

だが、ヒルドの姿は消えている。

END

「もう逃げたのか。当て逃げみたいなヤツだ」
ボクたちは、さらに通路の奥へと進んでいった。

28

T字路に出た。だが、南側の通路は機械の残骸があって、通ることができない。
どうするか？

●西に進む……⇩134へ
●南に進む（ダイナマイトを持っている人のみ可能）……⇩4へ
●北に進む……⇩65へ

29

甲高いモスキートの羽音は、こちらの耳をくすぐるようだった。ヤツにボクたちの真上に達すると、細長い吸血管を伸ばしてきた。
そうはいくか！　ボクはその管をかわし、モスキートの胴体を斬りつけた。
だらけの脚が何本か吹っ飛んでいった。ヤツのトゲ
すかさず、ネイのスチールクローが、モスキートの頭を引き裂いた。
をとどめなほどに、怪物の体をブーツで踏みにじった。
「なにもそこまでやらんでも」

「ダメよ、このモスキートってヤツは傷の再生能力があるんだからあとで逆襲されるわよ」

「はあ……」美少女がそう言いながら戦うのは壮絶なものがある。てしまった（**戦闘Pプラス1、TPプラス10メセタ**）。

30

ボクたちはティムを連れ、橋の所にやって来た。

こっそりと様子をうかがっていると、橋の向こうから刀を持った「お父さんだわ……。あたしひとりで会ってきます。あなたたちはここで待っていてください」ティムはそう言うと、すたすたと歩きだした。

何か考えがあるんだろうか？　ボクたちは、息をひそめて様子をうかがった。

「おい、そこの女」

刀を持った男――ダラムがティムの前に立ちふさがった。ティムるため、自分の娘とは気づいていないようだ。

「なんでしょうか？」ティムは、フードを取らないまま答えた。

「あり金をみんなここに置いていけ。逆らえば斬るぞ」

「あなたなんかに出す物は、なにもないわ！」

⇩3へ

30



30●ダラムは刀を振り降ろした。血に染まり、倒れるティム。自分の娘を斬り殺してしまったことを知ったダラムは絶叫した。

「なにぃ！」

ダラムが刀をなめた口をききやがって！」

「あっ!!」ダラムが刀を振り降ろした。血に染まり、倒れるティム！

顔があらわになったのだ。

「ティム!!」

「お父さ……ん。もう人殺しは……やめて……」ティムは死んだ。

「ぐわぁぁぁ、な、なんてことを！　待っていろよ、今、父さんも」言うが早いかダラムは爆弾を取り出し、橋のど真ん中で破裂させた。

アッという間の出来事だった。

世の中がすさんでいるから起きたんだ。なんてことだ……。しかし、この悲劇もともとはと言えば

の原因を突き止めなくては……。

⇩52へ

途中、壁の右側に扉が……。この部屋に入るか、それともこのまま進むか？

●南へ進む……⇩249へ
●北へ進む……⇩208へ
●部屋に入る……⇩238へ

31〜33

ボクたちは、街の中心にあるライブラリィに立ち寄った。ライブラリィには、アルゴル太陽系に関するあらゆる情報が集められている。ここでバイオシステムのくわしい位置や最新情報を知っておいたほうが、なにかと便利というものだ。

「なるほど、バイオシステムはこの湖の西か……」

ボクが地図で確認していると、電子新聞を見ていたネイが大きな声をあげた。

「ユーシス、大変よ！　アリマーヤが」

ボクもその新聞を見て驚いた。このパセオからいちばん近い街のアリマーヤが、ならず者の一団の襲撃をうけ、大変な騒ぎになっているという。話には聞いていたが、これほどとは……。

「どうするの、ユーシス？」

●バイオシステムに向かう……⇩13へ

●武器店に向かう……⇩98へ

●アリマーヤに向かう……⇩77へ

32

ルドガーも赤い毒液にやられて、床に転がった。

ちくしょう。毒がまわってきたのか、足がふらついてきた。感覚もマヒしてきて、フェ

33

イスリッカーのゲコゲコというやかましい声だけが耳に響いた。
怪物ガエルが再び毒液を飛ばしてきた。ネイの盾になるように、そ
は倒れた。
「ユーシス！」
「いいから、早く逃げろ！　おまえだけでも助かるんだ！」
ボクは、かすむ目でネイの後ろ姿を見続けた。

END

シュレーンはアリマーヤの東、2キロほどの所にある。それほどの分も行かないうちにバイオモンスターと遭遇してしまった。
地中から2メートル以上のアリが3匹も現われ、ボクたちの前に立
「気をつけな、そいつらはバイテングアントっていうヤツだ」
いきなり、後ろから男の声がした。
前方からはバイテングアントどもがだれだ!?
牙をカチカチ鳴らしながら迫って来る！

●バイテングアントを攻撃する　⇩79へ
●声のしたほうを見る……⇩58へ

「ねえねえ、ユーシス。酸素ガムの研究だって」ネイがボクの袖を引っぱった。

みんなで手分けしてライブラリィ内の情報をあさっていると、さっそくネイがおもしろいものを見つけたようだ。

「なになに、これを噛んでいれば、水の中でも装備なしで潜れるだって。あ、そうか、これを使えばアメダスの中にも入れるんだ。よくやったぞ、ネイ」

さいわい、この変な研究をしているクニヌ博士は、クエリスの人だ。ボクたちは住所を調べると、すぐに彼のもとを訪ねた。

「もともと、この辺の人たちは、酸素ガムを使って海で漁をしてたんですよ。ところが、50年ほど前にマザーブレインがすべての海を立入禁止にしてしまったわけです」

クニヌ博士は予想していたよりずっと若い人だった。彼は親切に答えてくれた。

「それじゃ今はまだ完成していないんですか？」

「うーん、このというのがあるんだ。そこの山のてっぺんに生えているマルエラリーブさえあれば、なんとかなるんだけどねえ。でも、今じゃ誰も舟を持っていないし、行けたとしてもバイオモンスターに襲われちゃイチコロだろうし……」

「大丈夫！　ボクたちがなんとかしますよ」

「えっ、本当かい。でも、ムリしなくていいんだよ。危険だし」なんてことを言いながら、彼は本に載っているマルエラリーブの写真を見せてくれた。

●ボート……⇩154へ

●どちらともない……⇩128へ

L字の曲がり角に出た。

●北に進む……⇩36へ

●東に進む……⇩50へ

36

スピニンスフィアの体が膨れ上がり、電光のようなものがほとばしった。

うわっ！　まともに浴びたボクとルドガーは、武器を取り落とした。体がしびれる。

無防備のボクに、グラスキラーが襲いかかった。必死になってかわすが、体が思うように反応しない。カマがボクの脇腹をかすめていった（HPマイナス1）。

カマキリの怪物は、さらにボクの首を狙った。

「うわっ」

●ジェットスクーター……⇩286へ

●どちらともない……⇩128へ

36〜37

ガシッ！　間一髪、ネイのスチールクローがそのカマを受け止めた。だが、彼女の細腕では受け止めるだけで精一杯だ。ボクは剣を拾うと、グラスキラーに押されていった。力比べの体勢になったネイは、じりじりとグラスキラー

今度は、こっちが助ける番だ。グラスキラーのカマの付け根に斬りつけた。怪物の前肢が、ボトリと落ちる。

いまだ！　ボクとネイは、前後からグラスキラーを刺し貫いた！　怪物は口から白い泡を吹き出し、地面に転がった。

「ルドガーは？」ボクは、振り返った。

ルドガーは落ちていた銃に飛びつくと、起き上がりざまにそれを発射した。（戦闘Pプラス1、。プラス20メセタ）

ったスピニンスフィアは、空中で破裂した！　銃弾をくらジャマ者を片づけたボクたちは、ニドの塔に到着した。この塔は地下工場同様、廃棄されて何年にもなる。人の出入りもなく、何かを隠すには絶好の場所だ。

荒れ果てた1階と2階を探してみたが、ネコの子1匹見当たらない。

「この昇降リフターはまだ動くわ」

乗ってみると、リフターは自動的に5階に止まった。通路がL字に曲がっているが……。

●東に進む……⇩82へ

●南に進む……⇩2へ

ズウウウウ……。

「この階は1本道か……。あれ、すぐ行き止まりだ」

ボクたちの乗りこんだリフターは、自動的にふたつ上の階で停止した。

引けどもびくともしない。しっかりロックされていて、押せども

●ダイナマイトがある……⇨57へ

●ない……⇨87へ

39

カギを使ってコンテナを開けた。中に入っていたのは、ダイナマイトだった（工場のダイナマイト入手。ただし、この項目に来るのが2回目の人は関係ありません）。

●東に進む……⇨61へ

●北に進む……⇨50へ

40

先手必勝！

ズバッ。ミキサメーベは、真っ二つになった。

「やったか!?……――うわっ！」

怪物がカプセルから出たところを狙って、ボクは斬りつけた。

ふたつになった怪物は、それぞれもとの形に復元した。ヤツはボクに斬られたんじゃな

38〜41

い、ただ分裂しただけなんだ！

2匹になったミキサメーベは、いっきに飛びかかってきた！

「危ない！」

とっさにアンヌがメスを投げた。ミキサメーベに命中！　おかげで怪物どもの攻撃のタイミングが狂った。

「今だ！」

ボクはさらに剣をふるった。その後すぐに、ルドガーがショットガンを撃ちこむ。バラバラになったミキサメーベは、白い煙をシュウシュウとあげて消えていった。

「今度こそくたばったか」

怪物を倒した後、L字路を、

●西に進む……⇩209へ

●北に進む……⇩83へ

41

ボクたちは、角の所で白い大きなコンテナを見つけた。

（工場で手にいれたカギを持っている人のみ、コンテナを開けて塔のダイナマイトを入手することが可能。ただし、この項目に来るのが2回目の人は関係ありません）

●東に進む……⇩78へ

●北に進む……⇩25へ

フェイスリッカーどもは、口から長い舌を伸ばしてきた。そのスピードたるや、まともに動きが見えなかったほどだ。たちまちボクたちは、舌に捕らわれてしまった。

「やん、こんなことを言っているが、こちらネイはそれどころじゃない。フェイスリッカーは、本気で締めつけてきやがった。男女差別だ（HPマイナス1）。

お、おのれー！　ボクは、むりやり腕を舌から抜きだし、剣で斬りつけた。ほかのふたりも助けだす。怪物ガエルめ、勝負はまだこれからだ。

フェイスリッカー3匹　4＋バトルP（1のA）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のF）で戦います。

●敵よりP値が上　……⇩20へ

●下　……⇩63へ

42

ボクの放った攻撃は、バイテングアントに弾かれた。

「うわっ！」驚いたスキを突かれ、怪物から液体を浴びせられる。毒性のギ酸だ！（HP

43

マイナス1）

「ユーシス、ヤツらの関節を狙うのよ！」

42〜45

言うがはやいか、ネイはアントの首を斬り落とした。なるほど、そこなら剣も効くか。飛んでくるギ酸をかわし、ボクは剣をふるった。残った2匹の首が「お見事」再び、さっきの男の声がした。

（プラス10メセタ）。

44

L字の曲がり角の所に来た。

●東に進む……⇩134へ

●南に進む……⇩84へ

45

フェンサーは、膨れ上がった腹をくねらせると、尻から針を放ってきた。危ない！　とっさにそいつを剣で弾き、ボクはヤツめがけて飛びかかっていった。一撃でフェンサーの羽を切り落とす。

羽のないハチなんか、怖くはない。ボクは地面に転がっているフェンサーにとどめを刺した。もう1匹のほうも、同じ戦法でネイが片づけていた**（戦闘プラス1、プラス10メセタ）。**

⇩67へ

今までの戦いからしても、もっと強力な武器が必要だ。

ボクたちは、パセオ市内にある「イシャー」という名の武器店に寄ってみた。

「よく来たね。何が欲しい」

ライオンのような髪をしたねーちゃんが、奥のほうから面倒くさそうに出てきた。

「その大型バズーカ砲なんかどうかな」

女店員は、鼻で「ふっ」と笑った。

「あんたが使うのかい。お笑いだね」

笑ってから、どーせボクは銃砲類はうまく使えないよ！

「もっとじっくり選ばせてくれよ」

「勝手にどーぞ。決まったら呼んでおくれ」そう言って、店員はまた奥に引っこんでしまった。

○セラミックソード　60メセタ　（普通のソードより威力がある）

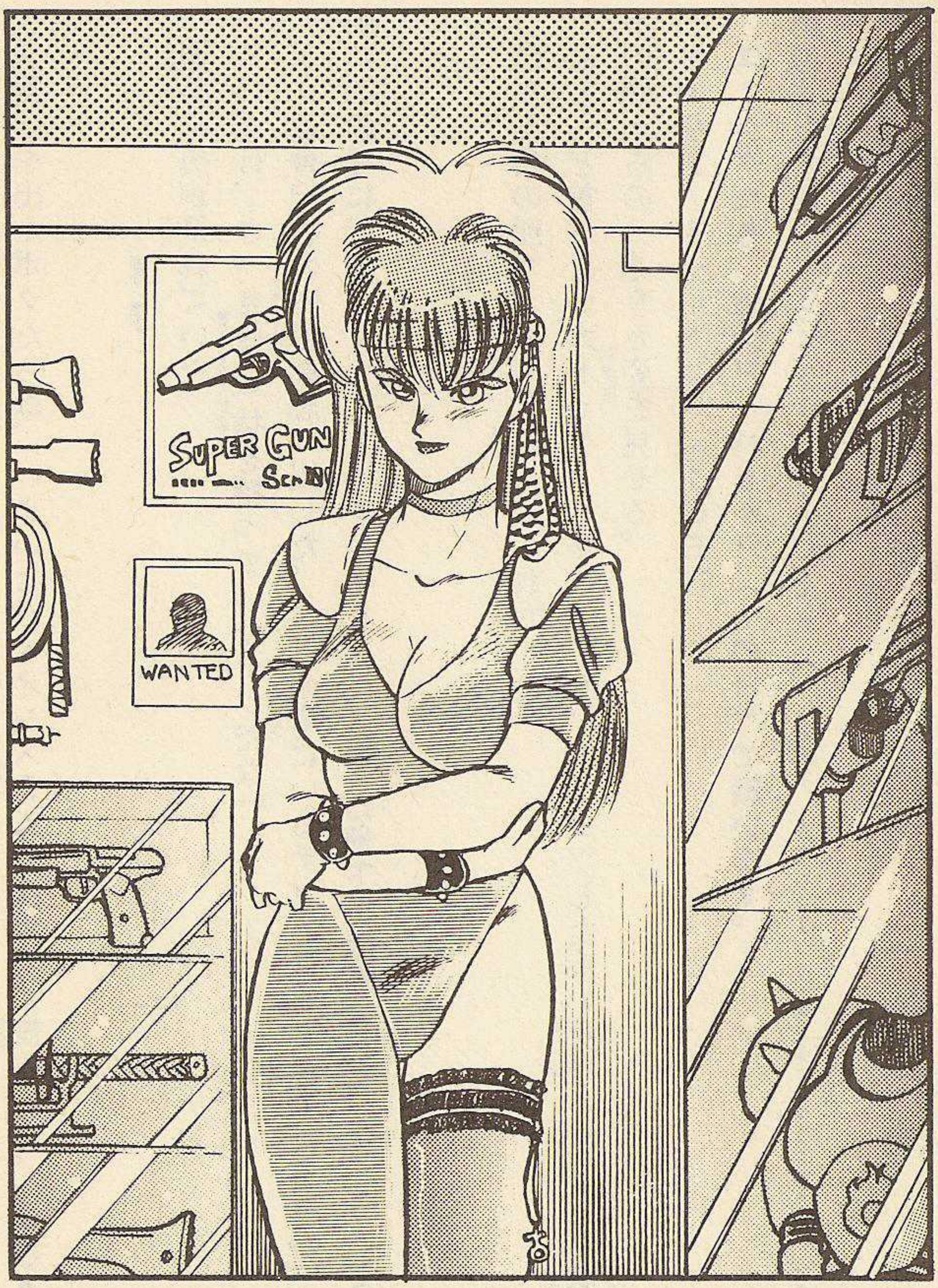
○ポイズンショット　30メセタ　（毒を含んだ弾丸を発射する。アンヌが使う）

○サイレントショット　40メセタ　（薬物を発射し、敵をマヒさせる）

（買った物の値段を持ち金から引いて、アイテムリストに記入。ひとつ買うごとに戦闘P

プラス1）

46



46●イシャーの武器店(ぶきてん)。ワンレグのレオタードがこの店のコスチュームなのか？　しかし、愛想(あいそう)の悪いのが玉にキズ。

武器店を出たボクたちは、いよいよバイオシステムに向かって旅出った。

47

通路に男が倒れていた。

「こいつは、さっき脅迫状を持っていたヤツだな」

ボクは脅迫状の内容を思い出した。ニドの塔にいるティムはまだ無事だろうか。

●ニドの塔に行く……⇨70へ

48

曲がり角の所で、またも敵が現われた。

ほとんど首がない大トカゲ――キャリアだ。

ルの間からのっそりと姿を見せる。

キャリア　8

ユーシスたち＋バトルP（1のE）

●敵よりPが上　戦闘P＋バトルP（2のH）で戦います。

……⇨24へ

●下　……⇨62へ

●まだ地下工場をまわる……⇨80へ

●ニドの塔にいるティムはまだ無事だろうか。

……⇨96へ

フライングペドラが、まっ逆さまに襲いかかってきた。
すかさず剣を抜いて、なぎはらう。ペドラの頭が吹っ飛び、壁にぐしゃりとへばりついた。胴体のほうはしばらく床をはねまわっていたが、やがて動かなくなった。
この後、T字路を、

●南に進む……⇨17へ
●西に進む……⇨49へ
●東に進む……⇨82へ

49

昇降リフターのあるT字路の所に来た。

●西に進む……⇨36へ
●東に進む……⇨82へ
●北に進む……⇨82へ
●南に進む……⇨273へ

50

「さて、これからどっちに行こうか？」

●ゼマの隣りにあるクエリス⇨108へ
●アメダスへ（ボートを持っている場合のみ可能）……⇨144へ
●ロロンのゴミ捨て場……⇨16へ

51

橋での悲劇の後、いったんパセオのライブラリィに寄ってみた。しかし、バイオモンスターに襲われたという事件のニュースばかりで、特に手がかりになるような情報はなかった。

マップでバイオシステムの位置を確認し、ボクたちはライブラリィを出た。

●病院に行く……⇨14へ

●自宅にもどる……⇨74へ

53

T字路に出た。レコーダーは、どこにあるんだ？

「表示板くらいあればいいのに」（ぜいたく）

●東に進む……⇨83へ

●南に進む……⇨163へ

●西に進む……⇨97へ

54

「よく来たね、何が欲しい」

武器店に入ると、すぐにパンクっぽいおねーさんが声をかけてきた。剣や防具の並んでいるショーケースを指さす。

52〜55

○ソード　50メセタ
○カーボンベスト　20メセタ
（買った人は、それぞれの値段を持ち金から引き、アイテムリストに記入。それぞれ戦闘Pプラス1）

「それにしても、ひどい世の中になったねえ。バイオモンスターだけでも迷惑だってのに、アリマーヤじゃ、ならず者どもが街を荒らしまわっているそうだよ」
「アリマーヤが……？」

⇩**98へ**

55

「こんなところで手間どってるわけにはいかないんだ！」
ボクは一歩飛びのくと、ダークサイドの左胸めがけて剣を投げつけた。
剣は、まるで闇を裂くかのように、ダークサイドの体を真っ二つに両断！
シューっと、まるで煙のようにダークサイドは消えてしまった。
ふうっ。今度はどっちに進んだらいいんだろう。

●西に進む……⇩**236へ**

●南に進む……⇩**297へ**

56

モスキートは、アッという間にボクたちの真上に来ると、細長い吸血管を伸ばしてきた。
そうはいくか！　ボクはその管をかわし、モスキートの胴体を斬りつけた。ヤツのトゲだらけの脚が何本か吹っ飛ぶ！　やったぞ！
「危ない！」ネイの声と、それは同時だった。ヤツはまだ生きていて、ボクの腰に吸血管を突き刺してきたのだ！（**HPマイナス1**）
見れば、切ったはずのモスキートの胴体からは新しい小さな脚が生えようとしていた。
「やーっ！」ネイのスチールクローがモスキートの胴体を引き裂いた。さらに原型をとどめないほど怪物の体をブーツで踏みにじった。
「なにもそこまでやらんでも」
「ダメよ、このモスキートってヤツは傷の再生能力があるんだから、徹底的にやらなきゃ」
「はあ……」美少女がそう言いながら戦うのは壮絶なものがある。ボクは思わず見とれてしまった。
⇩3へ

57

よし、こいつを使おう。ボクはダイナマイトを取り出し、ドアの下に置いた。点火すると、できるだけ離れて床に伏せた。心の中で数を数える。5、4、3、2、1……。

56〜58

轟音とともに、ドアが吹っ飛んだ！（ダイナマイト1本マイナス）

「やったぞ……。む、あれは!?」

爆煙の向こうに、何かうごめくものがあった。バイオモンスターか！

そいつは、ヒルドの体をくねらせていた。大蛇の怪物――ヒルドだ。

ヒルドの体には無数のドアの破片が食いこみ、血が流れていた。ドアごと吹っ飛ばされたようだ。

爆発に巻きこまれたようだ。

「気をつけろ、まだヤツはくたばっちゃいないぞ」ルドガーが銃をかまえて言った。

ヒルド　4＋バトルP（1のB）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のG）で戦います。

●敵よりPが上……⇩107へ

●下……⇩27へ

58

とっさにボクは後ろを振り返った。

後ろにいた男は、ショットガンを持っていた。野盗の一味か!?

「伏せろ、ネイ！」

そのとたん、ショットガンが火を吹いた！

起き上がってみると、穴だらけになったバイテングアントどもの死骸が転がっていた。

思わず身を堅くしたが、なにも異常はない。

「驚かして失礼した」と、ショットガンの男が言った。

さっき使ったリフターの所にもどってしまった。

●東に進む……⇩82へ

59

●南に進む……⇩2へ

60

突然、キャリアの背中が裂けて、黄色い触手が何本も飛び出した！

怪物の裂け目はますます広がり、巨大なカサのようなものが突き出してきた。

「こいつは、ただのキャリアじゃない！　ラストロットだ！」ルドガーが叫んだ。

そういえば聞いたことがある。キャリアの体に別のバイオモンスター、こいつだったのトが棲みついて、よりパワーアップしているという怪物のことを。それがか！

「ルドガーさん、こいつの弱点は!?」

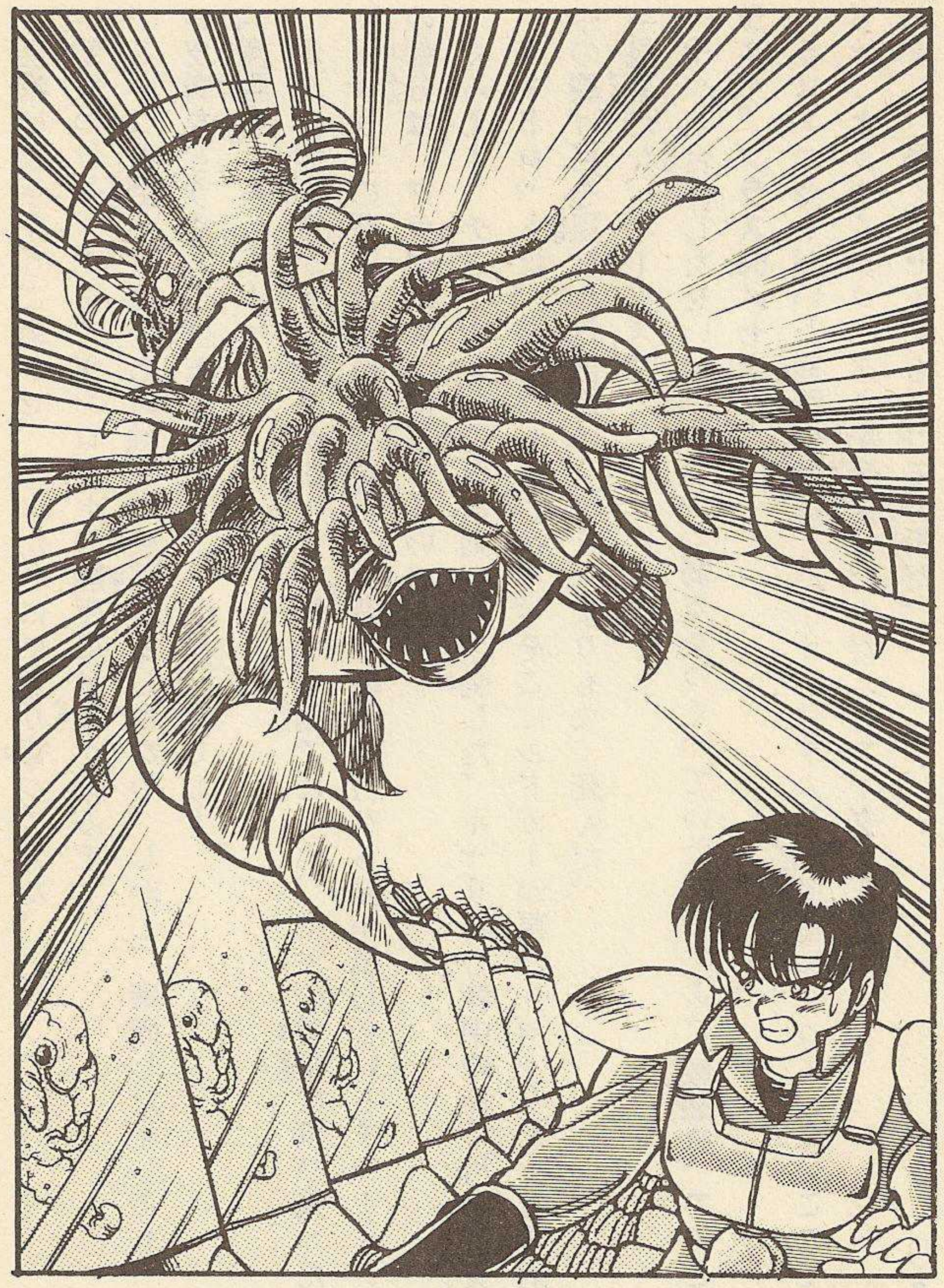
「わからん。私も戦うのは初めての相手だ」

ルドガーはショットガンを発射した。だが、怪物の皮膚は散弾を弾き返す。

「まるでヨロイだな。もともとキャリアの皮膚は硬いが、よけい強化されているようだ」

⇩89へ

59~60



60●キャリアの背中(せなか)が裂(さ)けて、触手(しょくしゅ)が何本も飛び出した！　ただのキャリアじゃない。共生(きょうせい)モンスターのラストロットだ！

怪物は触手をうごめかせ、ボクたちにじり寄ってきた。
「気をつけろ、チョーキンロットの触手には毒があるぞ」
こいつを倒すには、あの触手を突破するしかない。しかし、突破したとしても、待てよ！
い皮膚をどうやって打ち破るか。――いや
「援護をよろしく！」
ボクは怪物めがけて飛びかかった。触手を剣ではらい、ヤツの背中に飛び乗った。確かにキャリアの背中は硬い。だが、その背中の裂け目から顔を出しているチョーキンロットの部分は、クラゲのように柔らかいのだ！
くらえ！　チョーキンロットに剣を突き刺した。キャリアの背中の裂け目まで貫く！
ラストロットは、のたうちまわった。そこにルドガーが再びショットガンを発射！　背中の裂け目から顔を出していた怪物は、ひとたまりもなく死んだ。
「見事だな、ユーシス君」
ラストロットがいた通路の奥は、バイオシステムの制御室になっていた。ここでボクたちは、ようやくレコーダーを発見したのだ。
「ヤツら合体したせいで、かえって弱点をつくっていたんですよ」（**戦闘P50メセタ**）
よし、早くパネルにもどって分析だ。
ラストロット（**レコーダー入手**）。

⇩99へ

61〜62

パイプの陰から、細長い物が飛び出してきた。毒蛇モンスターのポイズナーだ！
「向こうにもいるぞ！」ルドガーの指さすほうからも、2匹が姿を現わした。
ユーシス3匹 3＋バトルP（1のA）
ポイズナー3匹 戦闘P＋バトルP（2のH）で戦います。
●敵より上 ……⇩95へ

61

●下 ……⇩10へ

62

キャリアがいきなり突進してきた。
ルドガーがショットガンを発射したが、ヤツは平気だ。なんて硬い皮膚なんだ。
ボクたちの攻撃はその硬い怪物に、まともに体当りをくらった。うわっ！
床に叩きつけられる。すごい威力だ（HPマイナス1）。
アンヌは、倒れぎわにメスを投げた。キャリアの目に命中！　怪物もこれにはたまらず、体をのけぞらした。
今だ！
ボクは、むきだしになったヤツの腹を狙った。そこだけは柔らかく、剣はずぶりと突き刺さる。キャリアは、うめき声をあげると、ひっくり返り動かなくなった。
●北に進む ……⇩8へ
●西に進む ……⇩88へ

63

フェイスリッカーは、背中のイボイボをこっちに向けた。そこから噴き出す赤い液体！

「なんだ、これは？」

ボクは体に付着した液体の臭いを嗅いだ。

「ユーシス、だめ！　それは猛毒よ！」ネイが叫んだ。

そんなこと言われたって、もう遅い。ボクの目は急速にかすんできた……。

●持ち金が70メセタ以上……⇩5へ

●69メセタ以下　……⇩33へ

64

チョーキンロットが飛び上がり、触手を広げてきた！　その包囲の中に取りこまれたアンヌとネイが倒れた（**HPマイナス1**）。

「どうした!?」

「電流よ、近づかないで」

「そうはいくか」

剣で触手をなぎはらい、ボクは彼女たちに近づいた。触手に触れるたびにビリビリした。ネイたちが軽装すぎるのだ。

が、動きがとれなくなるほどのもんじゃない。ロットの本体めがけ剣をふった。ちょうど彼女たちを助け出すと、ボクはチョーキン

63〜65

急所を貫いたらしく、怪物は動かなくなった。
その後、L字の曲がり角を、
●南に進む……⇩28へ

65

「誰か倒れているぞ！」
通路の奥でボクたちは、女の子を発見した。
「大丈夫、ケガはないみたいよ」ネイが抱き起こすと、その娘の目がゆっくりと開いた。
「あなたはティムね」
「ええ……。どうしたのかしら、あたしをさらった男たちが急にいなくなって……」
「みんな、バイオモンスターに殺されたらしい」ボクは、ならず者が持っていた脅迫状を震えた。
「と、父さんがあたしのために人殺しや強盗を……」脅迫状を持つティムの手がぶるぶる
「早くやめさせなくちゃ。あたしを父さんの所へ連れていって」
●Aにチェックがある……⇩6へ
●ない……⇩85へ
●西に進む……⇩44へ

マンカバーの体から長い触手が伸び、ボクたちをなぎはらった！

「うっ！」見かけによらず、すごいスピードだ！　おまけに電流まで流れてやがる（HPマイナス3）。

マンカバーは、ごろんと転がって位置を変えた。もう1回くるか!?

●HPが8以上……⇩118へ

●7以下……⇩26へ

66

フェンサーを倒してまもなく、ボクたちはアリマーヤに到着した。

街の中に足を踏み入れて、ボクはびっくりした。想像以上のひどさだ。窓はみんな割れ、道路のいたる所に爆発の跡のような穴があいている。それに見かけるのは女、子ども、老人ばかりだ。大人の男は、どこにいったんだ？

「あなたたちはアリマーヤのビルの窓という事情を聞こうと思って声をかけたら、女の人にこう切り返されてしまった。

「いったい、どうしてこの街にきたの？　ここはひどい所よ」

「この街では、どうして？」

若手のグループがダラムというハンターくずれがボスをやっていたんだけど、新しくできたダラムを追い出してしまったのよ。あいつらは、ケダモノだわ。なにか

67

というと街の人に暴力をふるって、略奪を繰り返しているのよ。もうは空っぽ。それに抵抗した人たちはみんな殺されてしまったし……」

「ダラムって「橋の上で野盗をするまでに落ちぶれたみたいよ。もっとも、娘のテイムを人質にとられているんじゃいうのは、今なにを？」

なかなか事態は深刻なようだけどね」

の地下工場跡にあることも聞き出した。ボクは、ならず者のアジトがこの街の東――シュレーン

●シュレーンに向かう……⇩34へ　●武器店に行く……⇩11へ

66～68

フライングペドラが、まっ逆さまに襲いかかってきた。

すかさず剣を抜いて突き上げる。切っ先がもろにペドラの口を貫いた。

だが怪物はすぐに死なず、剣にからみついて暴れまわった。尖った尻尾が、ボクの腕を傷つけた（HPマイナス2）。

くそっ！

68

ボクは、ペドラを思いきり床に叩きつけてやった。怪物はしばらく床をはねまわっていたが、やがて動かなくなった。

この後、T字路を、

●南に進む……⇩17へ

●西に進む……⇩2へ

●北に進む……⇩82へ

69

「さっき寄ったばかりですよ。野盗に荒らされていて、めぼしい物はなかったけど」

「そうか……。あそこの親父は古い知り合いでね。なにか武器を調達しようと思ったのだが、それならば仕方あるまい」

ボクたちは、シュレーンの地下工場跡にたどり着いた。もうかなり前に廃棄された工場で、中は相当広い。隠れ家にするには最適の場所だ。

地上の入り口はボロボロになっていたが、まだ昇降リフター（エレベーター）は動くようだった。

いろいろボクたちは、それに乗って地下に降りた。

●西に進む……まるで迷宮のようになっていた。

●東に進む……⇩36へ

●南に進む……⇩273へ

●北に進む……⇩80へ

69〜71

地下工場を出たボクたちは、その足でニドの塔に向かった。あのことが本当だとしたら、ティムという娘がいるはずだ。

「急ごう。ニドの塔も工場のようにバイオモンスターが入りびたっているかもしれない」

「ティムさえ無事もどれば、ダラムも野盗をやめるでしょうね」

「だと良いが……。む、あれは！」

ルドガーが叫ぶのと、怪物どもが現われたのは同時だった。木の陰から現われたひとつ目のカマキリのようなバイオモンスター、グラスキラー。そして、空中を漂う球体生物スピニンスフィア。

「来い、怪物め！」

グラスキラーとスピニンスフィア　5＋バトルP（1のH）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のC）で戦います。

●敵よりPが上　……⇩15へ

●下　……⇩37へ

「錠がかかっているな」ルドガーがいろいろやってみたが、コンテナは開かなかった。

「どこかにカギがあるに違いないわ」

71

「とにかく、もう少しまわってみよう」

●東に進む……⇩61へ

72

「い、いえ、けっこうです」アーミアは断わった。

残ったボクたちも首を振った。

「なら、わてが食うで。こんなにおいしいのケーキを食べてしまった。

73

ゼマを出るわけだが、Cにチェックは？

●ある……⇩51へ

74

あー、やっぱり家は落ちつくなあ。

おや、だれかがドアをノックしている。

「失礼します。ユーシスさんですね」

●北に進む……⇩50へ

●ない……⇩179へ

72〜75

入ってきたのは、茶色の髪をした小柄な女性だった。
「はじめまして。わたしの名前は、アンヌ・サガ。学校を卒業したてですが、バイオモンスターの謎を探っていると聞いて、おじゃましました。ぜひ、仲間に加えてください」
「でも危険な旅になりますよ」
「かまいません。わたしは、人々がこれ以上いられないんです。武器を持って戦うのは苦手ですが、戦いで傷ついた人をいやすことならできます。ぜひ」
「そこまで言うのなら、わかりました、仲間に加えましょう。ちょうど、傷の手当てができる人が欲しかったし……」
（アンヌは、傷の治療とHP回復のテクニックを使える。まだ病院に行っていない場合に限り、今回だけタダでHPプラス4）
これからボクたちは、
●バイオシステムへ直行……⇩96へ
●武器店へ行く……⇩46へ
ルドガーがパンツァアントに向けて銃を発射した。銃声とともに、土ぼこりが舞う。怪



75●アーミアの手から、スライサーが飛んだ！　その必殺(ひっさつ)の武器(ぶき)は、一撃(いちげき)でグラスアサッシンの首を切り落としてしまった。

物アリの姿は消えていた。

「地中に潜ったか！」

グラスアサッシンのほうは、ボクめがけてまっしぐらに襲いかかってくる。

ルもの高さから巨大なカマを振り降ろしてくる。

ガチッ！　ボクは、その攻撃を剣で受け止めた。

しめた。こいつ、大きさのわりにパワーがないぞ。

ボクは、グラスアサッシンのカマをはねのけ、胴体を斬りつけた。

げて飛びすさったグラスアサッシンはカマを投げてきた！

後退しながらも刃が、ボクの頭をかすめるように飛んでいった。

うわっ！　鋭い！　出たところを狙って、怪物はもうひとつのカマを投げてきた。

アーミアが前にっと首をそらすだけで、その攻撃をかわした。

「危ない！」

だが、彼女はすでに、そんな技を使うのは、10年早くてよ」

「わたくしの前で、三日月型をした刃物が飛んだ！　スライサーだ！　その必殺の武器は、一撃でグラスアサッシンの首を斬り落とし、彼女の手にもどってきた。

アーミアの手から、振り向けば、ちょうどルドガーとネイが地中からパンツァアントを引きずり出し、しと

めたところだった（戦闘Pプラス1、TPプラス2、プラス50メセタ）。

L字路の所で、ピシャッと何かが落ちてきた。首の後ろに手をやると、赤い液体がついていた。ヒリヒリと痛みはじめる。

いきなり、その液体が天井からボタボタと降りはじめた。

「いけない！　ボクたちは慌てて、何かの廃液だ。毒だぞ、これは！」（戦闘Pマイナス1）

●北に進む……⇩176

●西に進む……⇩132へ

装備をもっとマシなものにしようと、ボクは武器店に入った。ところが、めぼしい物はすべて売り切れ。残っているのは、実戦でほとんど役に立たないものか、高くて手が出せない物ばかり。

「おあいにくさま。いい物はすぐに売り切れちゃうのよ。こんな物騒な世の中だからね。また、武器店のおねーさんは言った。

しかたがない。武器は旅の途中でなんとかするさ。

●北に進む……⇩177

●西に進む……⇩132へ

●南に進む……⇩8へ

●東に進む……⇩190へ

76〜80

●バイオシステムに向かう……⇩13へ

78

注意して進んでいくと、T字路に出た。
「ティムはどこにいるのかしら」ネイが心配そうにつぶやいた。
●東に進む……⇩17へ
●北に進む……⇩12へ
●西に進む……⇩11へ

79

まずはモンスターどもを片づけるのが先だ。
バイテンアント3匹　2＋バトルP（1のI）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のF）で戦います。
●敵より上……⇩23へ
●下……⇩43へ

80

薄暗い所から、ゲコゲコいう不気味な声が聞こえてくる。
巨大なカエルどもが、ノドを鳴らしながら姿を見せた。
●アリマーヤに向かう……⇩98へ

「リッカー？
フェイスリッカーだ！」ルドガーが叫んだ。
ユーシスたち、モタビアンから漂ってくる。
●敵よりPが上回ったら……戦闘P＋バトルP（1のJ）
……戦闘P＋バトルP（2のC）で戦います。
……⇩20へ　●下回ったら……⇩42へ

81

モタビアンに近づいて、ボクは〝しまった〟と思った。臭い！　鼻が曲がりそうだ。すごく変な臭いがする。
「やあ、あなたたち、ゴミがぎょうさんある所を知りまへんか？」
「ゴミだって」
「そう。ボクたちは、ゴミいじりが大好きなんや。この街の北にあるロロンのゴミ捨て場に行ってみなはれ。ボクたちの仲間がいっぱいいるよって」そう言うと、モタビアンは、またゴミを求めて路地裏に消えていった（Cをチェック）。
●道具屋に寄る……⇩126へ　●武器店に寄る……⇩152へ
●ゼマを出る……⇩73へ

81〜85

L字の曲がり角に出た。

●南に進む……⇩100へ

●西に進む……⇩102へ

●東に進む……⇩59へ

82

L字の曲がり角に出た。

●南に進む……⇩102へ

●西に進む……⇩53へ

●東に進む……⇩28へ

●北に進む……⇩44へ

●リフターに乗る……⇩140へ

83

L字の曲がり角に出た。

●西に進む……⇩53へ

●東に進む……⇩28へ

●北に進む……⇩44へ

84

「また同じ所に来たんじゃない」

ネイの言うとおりだった。入り口近くのリフターの所にもどってしまったようだ。

●東に進む……⇩28へ

●北に進む……⇩44へ

●リフターに乗る……⇩140へ

85

そんなことを言われても、こっちはダラムの居所を知らない。そこでボクたちは、アリマーヤにもどり、そのことを探ってみた。ところが、みんなダラムのことを恐れて、なか

なか教えてくれない。
しかたがない。こうなれば、街の情報屋に金を払って聞くか。
「ダラムか……。たしか、パセオの北側の橋の上で荒稼ぎしているって聞いたな。ほら、湖のそばにある橋だよ。――おっ、その顔を隠している女の子は……」
「よくわかったよ。それじゃ」それ以上詮索されないうちに、ボクたちは金を払って立ち去った（**マイナス20メセタ**）。

⇩**30**へ

86

突然、キャリアは足を止めた。ブルブルとヤツの体が震えはじめる。
「様子が変よ」
「かまうもんか、今のうちに攻撃だ」
ボクはキャリアの顔めがけて斬りかかった。――だが、思わぬ衝撃を受け、逆に吹っ飛ばされる。まるで、ムチで打たれたような感じだ（**HPマイナス2**）。
な、なんだ？　ヤツは1歩も動いていないというのに。
「見て、キャリアの背中を！」アンヌが叫んだ。

●**HPが7以上**……⇩**60**へ　●**6以下**……⇩**142**へ

86〜88

「よし、なんとかぶち破るんだ」

ボクとルドガーが一緒になって、ドアに体当りをした。3回目でついにそれは開いた。

ドアの向こうに突っこんだとたん、そこで思いがけない衝撃を受けた。ムチのようなものが、ボクたちに襲いかかったのだ（**HPマイナス1、戦闘Pマイナス1**）。

バイオモンスターだ！　待ち伏せしていやがった。

そいつは、長い体をくねらせていた。大蛇の怪物――ヒルドだ。ボクたちを打ちすえたのは、ヒルド　6＋尻尾だった。

「気をつけろ、またしかけてくるぞ」ルドガーが銃をかまえて言った。

ヒルド　6＋バトルP（1のD）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のI）で戦います。

●敵よりPが上……⇨107へ

●下……⇨27へ

●東に進む……⇨48へ

進んでいくと、曲がり角に出た。

●北に進む……⇨148へ

「キミがユーシス君だね」
ボクはうなずいた。――この男は何者だろうか？　ボクは、改めてその男の姿を観察した。全身黒ずくめの格好。鋭い目つき。タダ者ではなさそうだ。
「私の名はルドガー・シュタイナー。昔はモタビアの軍人だったが、妻と娘をバイオモンスターに殺されて以来、ハンターをやっている。ユーシス君とネイ君がバイオモンの謎を追っていると、ウワサに聞いた。できれば、探索の旅に参加させて欲しい」
ボクは、すぐにOKした。これで頼もしい仲間ができた。
「ところで、アリマーヤの武器店にはもう行ったかな？」と、ルドガーが言った。

●行った……⇩69へ

●行っていない……⇩9へ

90

アルゴル太陽系の第3惑星デゾリスは、雪と氷に覆われた星だ。
タイラーの船は、この星の首都スクレの郊外に着陸した。
「あんたらの持ち物は、『ガイラ』で取り返しておいた。全部あるだろ？　――それじゃ、気をつけてな。シルカも元気で」
吹雪の中、船は再び飛び立ち、垂れこめた雲の中に消えていった。

89〜91

「デゾリスといっても広すぎるわ。どこから手をつけるの？」
「まず、このスクレからだな。手がかりになりそうなことを聞いてだが、ボクたちは、すぐにそれどころじゃないことに気づいた。人っこひとりいなかったのだ！
「どうなっているんだ？　仮にもここは、デゾリスの首都だろ。こになっているなんて、どこのニュースでもなかったぞ」
「少なくとも、モタビアのニュースではね。ボクたちの知らない裏っているに違いない……」
ボクたちは、スクレの中央広場にやってきた。ガランとした広場どこから探るか？
●A地区……⇩11へ
●B地区……⇩12へ
●C地区……⇩22へ

91

ボクたちは、モタビアンに案内されてゴミの山の中を歩いていっモタビアンが、ゴミを掘り起こしているのが見えた。



91● 「ところで、ケーキ食わんか、ねーちゃん」モタビアンが、
ケーキを差しだした。うーむ、これはいったい……!?

92

「本当にあなたたちは、ゴミが好きなのね」
「もちろんや。こんなにいい臭いがするものはほかにないねん。それに、庫や。わてらの手にかかれば、ゴミから何でも作り出せるんやで。――とこちゃん？」
食わんか、ねー
●もらって食べる……⇨114へ

92

「苦しいときのテクだのみ。よし、プロセダンを使うぞ！」
カインズはそういうと、バンブーとミゾランガンマの前に躍り出て、あらゆるメカを破壊する、プロセダンのテクニックを使った。
GA、GAGA、TYUDOM！
2体のロボットは、狂ったようにのたうちまわると、自爆して果てた（TPマイナス4）。
一刻も早く、コントロール装置を解除したいところだが……。



●カードを持っている……⇨200へ
●持っていない……⇨231へ

Bにチェックがあるか？

●ある……⇩47へ

93

●ない……⇩19へ

94

ヒュンッ！

影のような怪物、ダークサイドが、いきなりライト・セーバーで斬りかかってきた！

「まったく、脅かしやがって。あいさつってもんを知らねえのか！」

カインズの言う通りだぜ！

ダークサイド　20＋バトルP（1のF）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のG）

●敵よりPが上……⇩55へ

●下……⇩262へ

95

ルドガーがショットガンを発射。1匹がズタズタになって吹っ飛んだ。ショックでちぎれたパイプから、猛烈な勢いで水が噴き出す。

2匹目がその水の向こうから、ルドガーに襲いかかった。

「危ない！」
ネイが跳んだ。空中でポイズナーの頭を引き裂く。並の人間では真似のできない技だ。
よーし、こっちも負けちゃいられない。最後に飛びかかってきたポイズナーを、ボクは一刀両断のもとに叩き斬った！
この後、L字の曲がり角を、

●北に進む……⇨80へ　●西に進む……⇨273へ

96

湖のほとりにそびえる白い建物――それが、バイオシステムだ。
かつて砂漠だったモタビア星。それが緑豊かな星になることができたのは、マザーブレインが建造したバイオシステムとアメダスのおかげだった。バイオシステムが作物を作り、アメダスが気候をコントロールすることによって緑を茂らすことに成功したのだ。
ところが、ある日突然、バイオシステムは作物の代わりに怪物（バイオモンスター）を作りはじめた。事故か、それとも何者かのしわざか？　システムは完全自動性で、人間はいないはずだが……。
事件の真相を知るためには、バイオシステムの活動を記録しているレコーダーを分析することが必要だ。ボクの使命は、そのレコーダーを回収することだ。

「さっそくジャマ者が現われたみたいよ」ネイが色違いの巨大な肉塊がふたつ、入り口をふさぐようにしている。バスカバーとマンカバーだ。

ユーシスたち　戦闘Ｐ＋バトルＰ（２のＧ）

バスカバーとマンカバー　７＋バトルＰ（１のＧ）で戦います。

●敵よりＰが上　……⇩１１８へ

●下　……⇩６６へ

この階も培養カプセルが並んでいた。人間の手を借りずに、システムが勝手に動いているというのは不気味だ。ずっと昔からそういう光景は見慣れているはずなのに、そんな気がしてきた。

９７

Ｌ字の曲がり角で、急にネイが跳びすさった。

「ユーシス！　来ちゃだめ」

「なんだって――うっ！」

遅かった。ボクたちは赤い水たまりの上を歩いていたのだ。急に足に痛みが走った。有毒物質だ！（**戦闘Ｐマイナス１**）

急いでボクたちは、

97〜99

●東に進む……⇩53へ　●南に進む……⇩117へ

98

ボクたちは、アリマーヤの街に向かった。ならず者がどんなふうに街を脅かしているか、興味を持ったのだ。

「ユーシスの耳が、何か近づいてくるわ！　ネイの耳が、敵の接近をとらえた。茂みの中から、大きな黒い塊がふたつ飛び出してきた。1メートル以上もある巨大なハチ――フェンサーだ！

フェンサー12匹　1＋バトルP（1のD）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のG）で戦います。

●敵よりPが上……⇩45へ　●下……⇩21へ

99

パセオのライブラリイ。ここで総督とボクたちは、レコーダーの分析結果が出るのを待っていた。

「私は今までマザーブレインの行うことは、絶対正しいと信じていた」と、総督が言った。

「我々の生活はマザーブレインによって守られていると」
「それはモタビア――いや、アルゴル太陽系の大部分の人が思っていることですよ」
「だが、マザーブレインのもとで、我々はなんとひ弱なまけ者になってしまったんだろう。バイオモンスターの前に、ほとんどの人間はただ逃げまどうだけだ……」
総督もこの事態を重く考えているようだ。
「分析が終わりました。こちらへ」メガネをかけた女性技師が、ボクたちをコンピュータ室に案内した。
「バイオシステムの事故の原因は、あまりに多くのエネルギーがシステムに送りこまれたためです。その結果、生物は突然変異を起こしました。生み出された生物は、自然のサイクルからはずれたもので、存在してはならないものです。そして、それらのモンスターを解き放ったために、すべてのサイクルが狂ったのです」
「それでは、そのエネルギーはどこから流れこんだのかね」総督が聞いた。
「おそらくはアメダスでしょう。ここ数年、気温は上昇し、雨の量は低下しています。本来、そういったものの調節に使われるエネルギーが、バイオシステムに流れたんです」
「しかし、アメダスもマザーブレインによって完全にコントロールされている。人間などひとりもおらんはずだが」
「何者かが忍びこんで、工作をした可能性もあります」

「むう……。ユーシス君、悪いが今度はアメグスに行ってくれたまえ」

100

広いT字路に出たとたん、怪物のうなり声が響きわたった。黒く細長いものが、空中で波打っている。

フライングペドラという空飛ぶヘビだ！

●敵よりPが上　戦闘P＋バトルP（2のE）で戦います。……⇩49へ

●下　フライングペドラ　5＋バトルP（1のJ）……⇩124へ

101

L字路に出ると、そこには昇降用リフターがあった。

●西へ進む……⇩263へ

●リフターに乗る……⇩131へ

●南へ進む……⇩202へ

●下……⇩68へ

102

パリーン！　何かが割れる音が響きわたった。

並んでいた培養カプセルのひとつが倒れ、中からドロリとしたものが出てきた。

「誕生したばかりのバイオモンスターってわけか」

「ミキサメーベよ、あれは」

ミキサメーベ　8＋バトルP（1のD）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のA）で戦います。

●敵よりPが上……⇩40へ　●下……⇩138へ

103

チョーキンロットが飛び上がり、触手を広げてきた！　その間をすり抜け、ネイが跳びすさった。

「気をつけて、電気が流れているみたいよ」

「OK！」

ボクは剣で触手をなぎはらい、突っこんだ。それでもからみつこうとする。ビリビリしたが、動きがとれなくなるほどのもんじゃなかった。

「いやーっ！」ボクはいっきに飛び上がって、剣を振り降ろした！　チョーキンロットのカサ頭がぱっかりと割れ、怪物は動かなくなった。やったぞ！

その後、L字の曲がり角を、

●南に進む……⇩28へ　●西に進む……⇩44へ

103〜105

「アメダスについて何か知らないか」

104

「いや、行ったこともないね。あそこで何かあったの？」

だいたいにおいてこんな感じで、住民はあまり関心がないようだ。「すっかりなまけ者になった」という総督の言葉が思い出される。

「あれ？　あそこにいるのモタビアンじゃない」と、アンヌが指さした。

「ホントだ。珍しいな。街の中で見るのは」

モタビアンというのは、何千年も前からこの星に住んでいる原住種族だ。1メートルほどのネズミが、2本足で立っている姿を想像してもらえばいい。

●**道具屋に寄る**……⇩126へ

●**モタビアンに話しかける**……⇩81へ

105

地上と空から攻めてくる2匹の敵に、ボクらは苦戦をよぎなくされた。おまけに、長い急斜面を登ってきたため、ただでさえ疲れきっているってのに。

「くふうっ」突如、アーミアがうめいた。

額には脂汗がにじみ、それは上気した頬を伝い、さらに白い胸元にツウと落ちる。美し

●**武器店に寄る**……⇩152へ

●**ゼマを出る**……⇩73へ



105●「くふぅ」ゴロゴロおなかをこわしたアーミアは、その場にしゃがみこんでしまった。美女だけにこいつは屈辱（くつじょく）だ（？）。

い眉間には苦しげなシワが……。呼吸は乱れ、そして、身をよじるようにしては、

「くうっ」と

「あぶない、またうめく。

バーンウルフの放電からアーミアをかばったっていうんです」

「いったいどうしたっていうんです」

「アーミアさん！」

彼女の体が小刻みに震えている。

「それが……私、下腹部が……ああッ、そんなに！」

赤面しつつ、もじもじするアーミア。いったい彼女になにが起こったというんだ。

「この非常時に……、ハッキリ言ってください！　おなかでもすいたというんですか」

「わ、私、おなかをこわしてしまったみたいですのお」

それだけ言うと、アーミアは、その場にしゃがみこんでしまった（**戦闘Pマイナス1**）。

「つまり下痢でしょうか、例のケーキのせいだ。わかりました、アンヌから薬をもらったら、危険ですからアーミアさんは下さい。こいつらはボクらがなんとかするから」

で休んでいて

うーん、美女だけに、こいつは屈辱だ。

⇩166へ

いきなりドアがひしゃぎ、向こう側から赤い塊が飛び出してきた！

ボクたちはなぎ倒された（HPマイナス2）。

そいつは、トカゲをずんぐりさせたような怪物だった。バイオモンスターのキャリアだ。

キャリア　10＋バトルP（1のA）で戦いたち　戦闘P＋バトルP（2のD）で戦います。

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のD）で戦います。

●敵よりPが上……⇩60へ　●下……⇩86へ

106

ヒルドは、ネイに向かって火の玉を吐き出した。

突然の攻撃だったが、ネイは飛び上がってそれをかわした。彼女はごてごてした装備をきらうかわり、とてつもないスピードをもっている。

ヒルドの後ろにまわりこんだネイは、スチールクローをヤツの頭に突き刺した。またすばやく、そこから飛びすさる。

「よーし、今だ！」ルドガーの銃が火を吹き、ヒルドはズタズタになった（**戦闘P、TPともにプラス1。プラス20メセタ**）。

ボクたちは、さらに通路の奥へと進んでいった。

⇩65へ

107

クエリスの街に到着。ここのライブラリィで、ボクたちは耳よりな情報を得た。アメダスの設備はドーナツ湖の島の内部にある。そこに入るには、水中から行くしかないそうだ。となると、湖に潜れる装備をそろえないとな。

（ここで、この街の病院に行くことが可能です。行く人は、次の2つのコースがあります。）

○30メセタ払って、HPプラス2。○60メセタ払って、HPプラス4）

●道具屋に行く……⇩145へ　●さらに情報を集める……⇩35へ

●南に進む……⇩8へ　●東に進む……⇩132へ

108

L字の曲がり角に出た。さて……。

109

なんとか迷宮をクリア。ボクらは、コントロール装置のある所までたどりついた。

キシーン、キシーン、キシーン、キシーン。

突然、頭が痛くなるような金属音を発し、バンブーが現われた。

まさにその名のとおり、竹を組み合わせてできたようなロボットだ。

110

「さっさとかたずけてコントロール装置を解除するんだ！」

だが、敵はバンブーだけではなかった。戦車のようなボディから円盤状の頭をもたげたミゾランガンマが、巨大なマニピュレーターが、ボクらを狙っている。完全に挟み打ちにされてしまった。

バンブーとミゾランガンマ　16＋バトルP（1のJ）

ユーシスたち戦闘P＋バトルP（2のC）で戦います。

●敵よりPが上……⇩170へ

●下……⇩147へ

A地区に向かうボクらに、大きな影が襲いかかってきた！

毛むくじゃらの体はまるで大ザル。額の3つ目には、邪悪な光が浮かんでいる——ハングリーエイプだ！

ユーシスたち戦闘P＋バトルP（1のA）

●敵よりPが上……⇩210へ

●下……⇩232へ

ネオニルソニアの枝がスルスルッと伸び、ネイを捕らえた！

112

「ネ、ネイ！」

助け出そうにも、敵のビーム攻撃の前に近寄ることができない（HP−1）。

「おしりは触るわ、人質は取るわ、せこいモンスターですこと！　許さないわ！」

ビームなにするものぞと、アーミアが果敢にスライサーでアタック！

次々と敵の枝葉を落とし、ついにはその巨木を、真っ二つに切り倒した。

宙に放りだされたネイを、ボクはがっちりとキャッチ（**戦闘Pプラス1**）。

「さ、まいりましょう」

アーミアが先頭をきって歩きだした。

⇩201へ

113

「なんとか突破するんだ！」

潜水艇は最大スピードを出した。何度もシーシザースのハサミが触れそうになったが、その度に急旋回し、危機を脱出した。

「ふう。なんとか逃げきったな……。ボクたちを乗せた潜水艇は、島の水中部分に開いた洞窟の中に入っていった。その奥は

水中ドックになっていた。
潜水艇を降り、近くにあった昇降リフターで上の階に出た。さっそく通路が2本あるが。
●西に進む……⇨175へ　●南に進む……⇨153へ

114

アーミアは、そのケーキをぺろりと食べた。
「おいおい、大丈夫かい？」ボクは、そっと彼女に耳打ちした。
「平気よ。パセオのケーキ屋にも負けない味だわ」（Dをチェック）
やれやれ。こっちの思い過ごしなのか、それともアーミアの胃が特別製なのか。
⇨137へ

115

T字路に出た。
●南に進む……⇨135へ　●北に進む……⇨153へ
●西に進む……⇨229へ

114〜117

L字の曲がり角に出た。

●東に進む……117

●西に進む……116

116

ボクたちは、思わず立ち止まった。ちょうど曲がり角の所で、男たちが折り重なるように倒れていたのだ。

ならず者どもの死体だった。バイオモンスターにやられて、まだそれほど時間はたっていないようだ。床に流れた血は、まだ半分くらいしか固まっていない。

ルドガーは職業柄そうした死体を見慣れているのか、平然とした顔でそこに近づいていった。頭のつぶれた男のそばで何かを拾うと、こっちに放ってよこした。街のウワサじゃ、こいつらは大事な物をコンテナに入れて持ち歩くっていう「カギだよ。じゃないか」

曲がり角をボクたちは、

●西に進む……7へ

（カギを入手、アイテムリストに記入。ただし、2個目は関係ない）

117

●南に進む……80へ

●北に進む……97へ

いきなりマンカバーが飛び上がった。空中から触手を伸ばしてくる。
ネイもすばやく反応し、跳んだ。触手をかわし、その根元をクローでえぐり取った。
そこが弱点だったらしく、地面に落ちたマンカバーはドロドロに溶けはじめた。
弱点がわかれば怖くはない。残ったバスカバーの触手攻撃を剣で弾き、ボクは突進した。
触手の根元を思いっきり突き刺した！
バスカバーは体をブルブル震わしていたが、やがて仲間と同じように溶けて死んだ（**戦闘P、TPともにプラス1。プラス30メセタ**）。
ジャマ者を片づけたボクたちは、バイオシステムの建物の中に入った。
培養カプセルが両側に並ぶ通路を進んでいく。カプセルの中には、いろいろな生き物の組織が青い液体の中に浮かんでいた。なんか不気味な感じだ。
やがて、昇降リフターのあるL字路に出た。

●北に進む ……⇩44へ
●リフターに乗る ……⇩119
●東に進む ……⇩28へ

「……、……シス。ユーシス！」

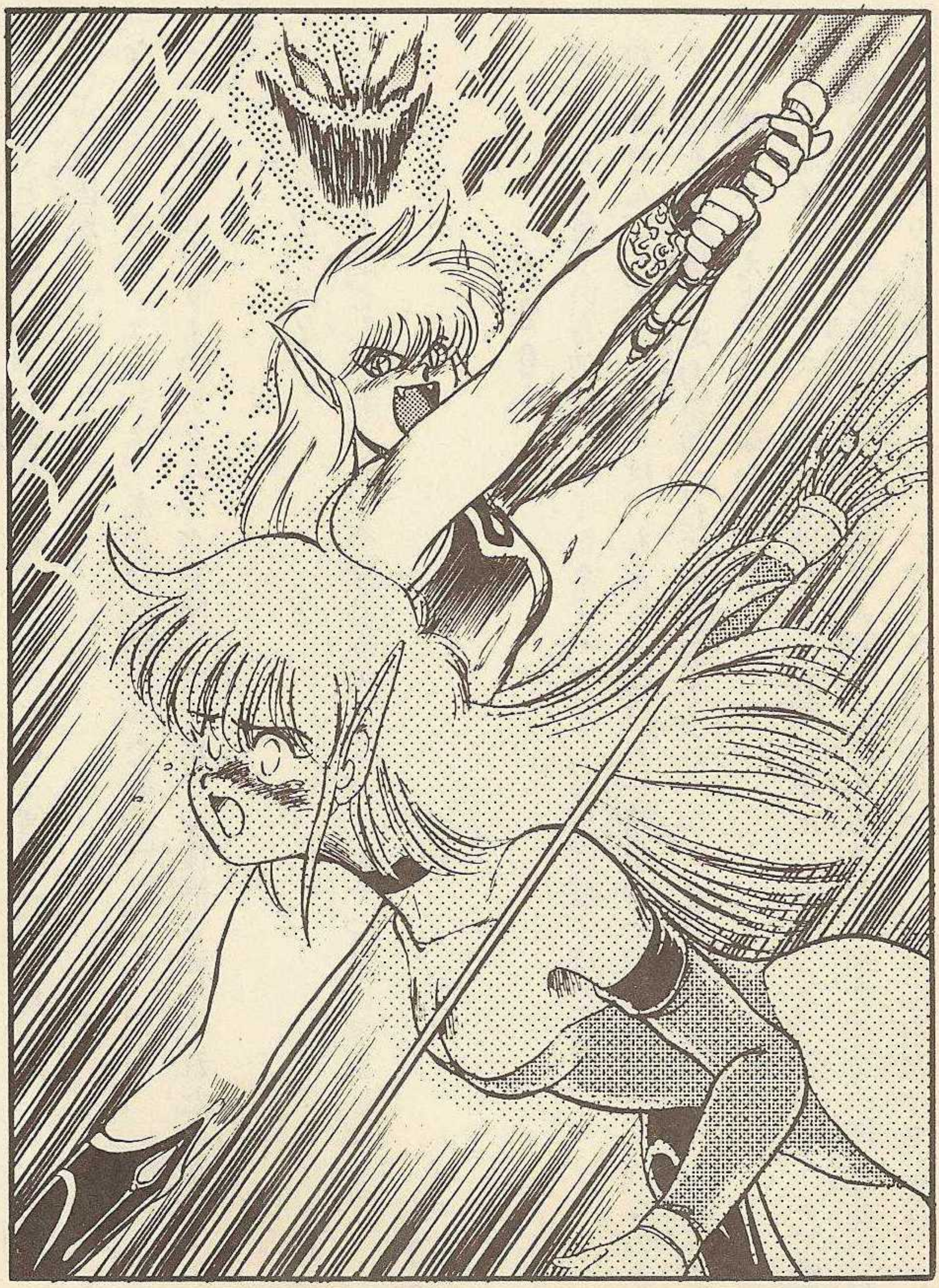
⇩140へ

気がつくと、みんなが心配そうにボクの顔をのぞきこんでいる。
「ここは天国か？」
「なに言ってるの、ユーシス。あなたは助かったのよ」
アンヌがリバーサーのテクニックを使って、ボクを復活させてくれたのか（TPマイナス6）。
「アーキドラゴンは？」
「なんとかやり過ごしたわ。さ、今度は左のクレバスにそって行きましょう」

⇩325へ

118〜120

ボクたちの見ている前で、ネイとネイ・ファーストは戦いはじめたのか！　ボクたちはその異様な迫力を前にして動けなかった。
ね、姉さんだって!?　ネイは、もともと自分と一緒だった姉と戦おうというのか！　ボ
ても、銃をかまえようとしなかった。かたきをやっと見つけたルドガーにし
ネイとネイ・ファーストは、1秒たりとも同じ所にいなかった。猛スピードで跳び、鋭い特製の爪で互いの喉笛を狙う。並の人間では捕らえることができない超高速の戦い！
空中でふたりが激突！　ネイ・ファーストの右手から、クローが弾け飛んだ。さらに着



120●姉妹どうしの恐るべき対決！　ネイ・ファーストは、隠し持っていたライト・セーバーで、ネイを斬りつけた！　ああ！

121

地の体勢をくずすファースト。
チャンスだ！　すかさず、後ろから攻めるネイ！
だが――悲鳴をあげ、倒れたのはネイだった。
振り向いたファーストの右手には、光る剣――ライト・セーバーが握られていた。
「ネイ!!」ボクは、彼女のもとに駆け寄った。
「ユーシス……お願い、姉さんを……」
人間を皆殺しにするまで……バイオモンスターを作り続ける気だわ」
「ふふふふ、その小娘の言うとおりよ。みんな、死ぬがいいわ！」
「おのれ！」ボクはネイ・ファーストをにらみつけた。
ネイ・ファースト　14＋バトルP（1のG）
ユーシスたち　戦闘P（現在の戦闘Pから3を引く）＋バトルP（2のH）で戦います。
●敵よりPが上……⇩121へ　●下……⇩215へ

121

バンブーの殺人ビームの前に、ボクはなすすべを失い倒れた。
ネイ……今……行くから……ね。みんな……、どうか無事で……。
END

進んでいくと、がっちりとロックされたドアにぶちあたった。向こうには、何があるんだ？　調べてみよう。**ダイナマイトは？**

●**ある**……⇩**167へ**　●**ない**……⇩**106へ**

122

ルドガーが銃をかまえたとたん、ボートがぐらりと揺れた。シーシザースの体当たりだ。そのスキにカイトカインドが急降下！　ヤツの鋭い爪が、ボクたちを襲った！（**ＨＰマイナス1**）

くそ、こいつは必死になって泳いで、なんとか岸にたどりついた（**ボートを消す**）。

123

シーシザースの体当たりはさらに続き、ボクらのちっぽけなボートは転覆してしまった。ボクたちは必死になって泳いで、なんとか岸にたどりついた（**ボートを失う。アイテムリストから**）。

⇩**197へ**

124

やれやれ、今度はアメダスか。出発する前にボクは、仲間を連れて自宅にもどった。

家で体を休めていると、だれかが訪ねてきた。

122〜125

「お会いしたかったわ、ユーシスさん」
「わたくしは、アーミア・アミルスキー。ユーシスさんの仲間に加えてくださらない？」
「え？　しかし、危険な旅ですよ」
「大丈夫だよ。彼女は、ただ者じゃない」意外なことにルドガーが口をはさんだ。「彼女は、カウンタ・ハンターだ。――バイオモンスターを狩るはずのハンターが、いつの間にか金目当てで人殺しさえ行うようになってしまう。そういった連中を逆に始末するのが、彼女の仕事さ。〝刃物使いのアーミア〟といえば有名だ」
「そういうあなたはルドガーさんね。お目にかかれて光栄だわ」
どうやら、ふたりともその世界では有名人らしい。新たな旅を前にして、心強い味方ができたというところか。
（出発の前に、病院に行くことが可能。行く場合は、次のどちらかを選ぶこと。
○20メセタを払いＨＰプラス２　○40メセタを払いＨＰプラス４）
さあ、アメダスに向かって出発だ。
「フーッ！」
「ミギャギャギャ！」

⇩146へ

モジックハットをかぶったボクに、ネコたちが襲いかかってきた。顔を引っかくもの、足にかじりつくもの、首筋をなめるもの、シッポで鼻をパフパフするもの……。

「うわあ、助けて……誰かなんとかしてくれ！」

アーミアがモジックハットを取りさってくれて、やっとネコ軍団の攻撃がおさまった。しかし、ボクの体には、無数の傷が……（戦闘Pマイナス1）。

ネコたちをよけるようにして今度は……。

●東に進む ……⇩94へ

●南に進む ……⇩321へ

126

「いらっしゃいませ。何をお求めですか？」

「念のため聞くけど、ボートなんてないだろうね」

「ボートですか。うーん……あ、そういえばほかの物も見ていってくださいよ」

それより、倉庫でひとつホコリをかぶっていたなあ。

○ボート　90メセタ

○モノメイト　50メセタ（HPをアップさせる）

○スターアトマイザー　120メセタ（HPとTPをアップさせる）

（買った物の値段を持ち金から引き、アイテムリストに記入）

126〜127

●武器店に行く……⇨152へ
●ゼマを出る……⇨127

127

●街で聞きこみをする……⇨104へ……⇨73へ

「カン違いしないでね。あなたを警察に売ったりなんかしないわ」彼女は、にっこりと微笑んだ。「わたしは、シルカ。人は、わたしのことを『風のシルカ』と呼ぶわ。マザーブレインに縛られる暮らしが嫌で、このタイラーの所でやっかいになっているのよ」

「はあ……」

「ニュースでは、あなた達がマザーブレインを狂わせた犯人だと言っていたけど、そんなことはできやしないでしょ？」

「もちろん。ボクらには、マザーブレインの本体がどこにあるかもわからないんだ」

「デゾリス星へは行ったかい？」タイラーが口をはさんだ。

「ウワサで聞いたんだが。あそこにはマザーブレインが、もっとも苦手とする力を持った人物がいるそうだ。案外、そいつが真犯人かもしれない」

「タイラー、この人たちをデゾリスに連れていってやりなよ」

「ははは……そうくると思った。実はもうデゾリス行きの軌道に船をのせているのさ。すべては、このタイラー様の予定どおりだ」

――ところがそのタイラーにも計算違いがあったようだ。デゾリスに着いたとたん、シルカが船を降りると言い出したのだ。

「おいおい、どうしたんだい？　せっかく、うまくいっていたのに」

「いつも言っているでしょ。わたしは、なにものにも捕らわれないって。ただ宇宙にいるより、こっちの冒険のほうが刺激的だわ。それに、ユーシス君ってかわいいし……」

⇩90へ

128

ボクたちはボートで出発した。ウーゾ島までは5キロ程度だが、ちょうど中間で敵に捕まってしまった。

ジンの調子が悪く、ちょうど中間で敵に捕まってしまった。

巨大なハチの怪物――エムゴフェンサーが海面すれすれに飛んできた。

「上にもいるわ！」

オレンジ色の光る球体が、その姿をゆらめかせて降下してきた。バトルオンボロボートのエムゴフェンサーとビジョンスフィア　11

ユーシスたち戦闘P＋バトルP（2のD）で戦います。

●敵よりPが上……⇩199へ
●下……⇩173へ

128〜130

なんとかネオ・マンモスをやり過ごしたボクらの前に、ひとつの影が！

自然と剣を持つ手に力が入る。

「アタシよお、アタシ！」

「シルカ！　いったいどこへ行っていたんだぞ」

「チャハハ、メルーンゴ。でも、おみやげ盗んだから許して」

帽子のタグには、魔法の帽子モジックハット入手）。

無事シルカもどってひと安心したところで、地図をたよりに……？

●アウクバルへ行く……⇩300へ

●アルテプラノへ行く……⇩310へ

129

昇降リフターのある曲がり角に出た。リフターは、さっきドックから上がった時に使ったヤツだ。

●南に進む……⇩153へ

130

●西に進む……⇩175へ

リフターでボクらは上の階へ。
リフターを降りると、そこはL字路になっていた。

●西に進む……⇩239へ

●北に進む……⇩224へ

●南に進む……⇩76へ

●西に進む……⇩109へ

また曲がり角に出た。

131

シュライムゼレは、口から毒液のようなものを吐き出してきた。ボクたちは、慌てて近くのガラクタの陰に飛びこんだ。ゴミもたまには役に立つさ。

132

反撃だ！　ボクの剣、ネイのクローが向かってくるヤツを切り裂き、ルドガーの銃が逃げようとするヤツにとどめを刺した（**戦闘P**）。

133

「あんさん方、何やってんのや？」
ゴミの山の上から、モタビアンたちが顔を出した。

⇩91へ

131〜134

「あの角に怪物が待ち伏せているわ……」ネイが立ち止まりつぶやいた。普通の人間より何十倍も優れている。

ルドガーが角に向かって、ショットガンを発射した。

「ぐげえええええええっ！」

怪物が転がるように姿を現わした。カサのような頭と多くの触手を持ったヤツだ。体のあちこちから血が流れていた。

散弾が壁に跳ね返ることを計算したルドガーの射撃。さすがプロのハンターだ。

「チョーキンロットか。気をつけろ、諸君！　これくらいでくたばるような怪物ではないぞ」

そのとおりだった。チョーキンロットは、すぐに体勢を立て直し、襲いかかってきた！

チョーキンロット　7＋バトルP（1のB）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のJ）で戦います。



●敵よりPが上……⇩103へ

●下……⇩64へ

L字の曲がり角に出た。

●東に進む……135
●北に進む……162へ
135
136
……115へ

「ユ、ユーシス……」ネイが消え入りそうな声で言った。

「わたしは、もうダメ……」

「何を言うんだ！　まだ大丈夫さ」

しかし、ネイはこちらの声が聞こえないようだった。目がうつろだ。

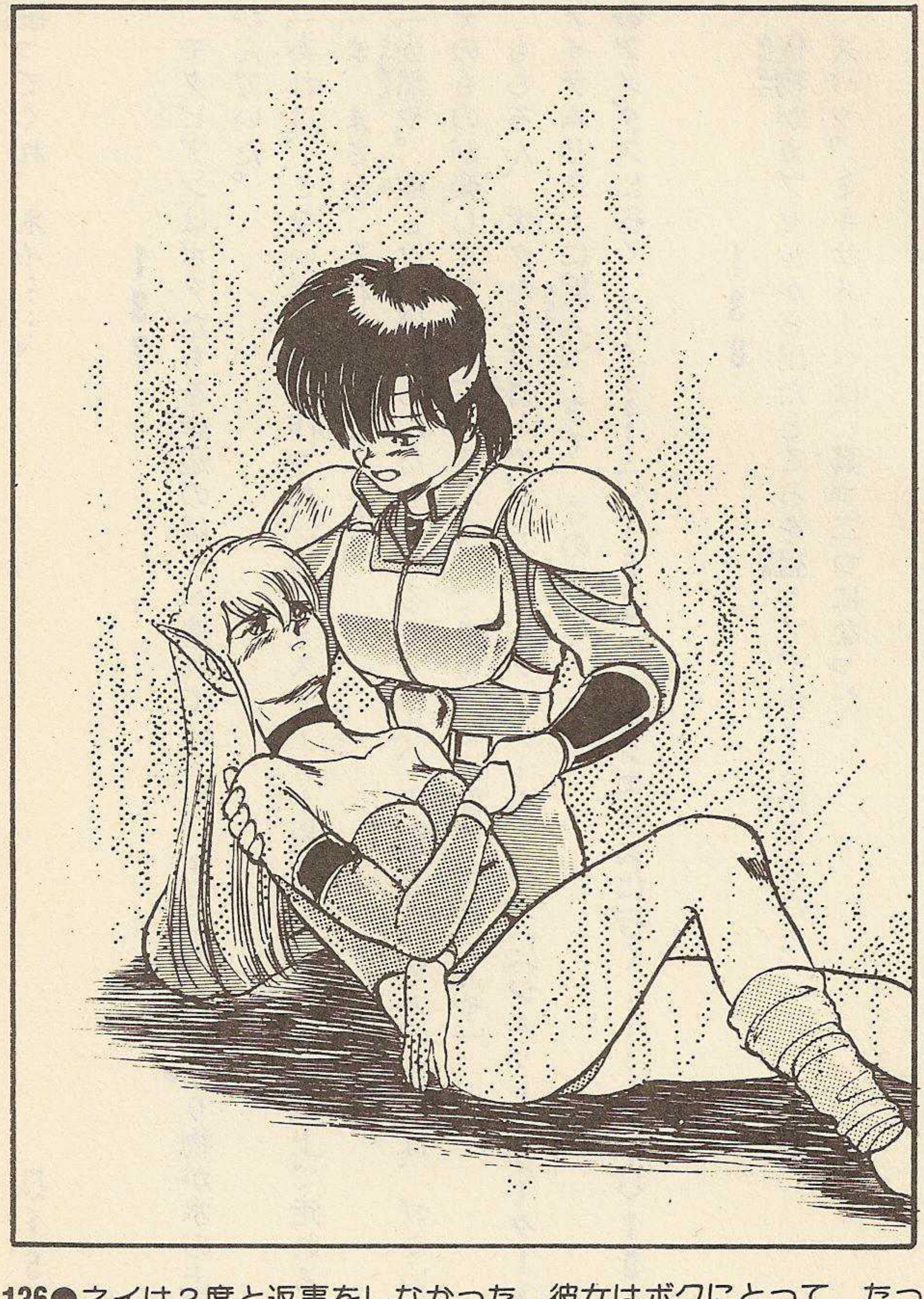
「ユーシス、お願い。わたしたちみたいな悪魔を、二度と作らないって約束して。わたしも姉さんも、自然にはありえない生き物。特殊な細胞のため、クローン再生もできないわ。だから、生き返らそうなんてしないで、このままモタビアの土に埋めてね……。平和なアルゴルで、みんな幸せになってね……」

「ネイ!!」

だが、彼女は2度と返事をしなかった。

ネイ……ネイ。ボクは、何度もその名前を口にした。たった7カ月の間だったけど、彼女はボクの妹だった。家族のいないボクにとって、たったひとりの肉親だった。安らかに

135～136



136●ネイは２度と返事をしなかった。彼女はボクにとって、たったひとりの肉親(にくしん)だった。安(やす)らかに眠(ねむ)ってくれ……ネイ。

眠ってくれ、ネイ……。

モタビアンはボクたちを岸辺のほうへ連れていった。そこには赤い乗り物が水の上に浮かんでいた。

「あれは、こないだわてが作ったジェットスクーターや。水上を100キロ以上で走れるで」

「ま、まさか、あれもゴミで……？」

「当然や。欲しければ、あんたらにやるで。わいは、別に金はいらん。そのものが楽しくてやっているんで、できたらボクたちは喜んでジェットスクーターをもらった（ジェットスクーター入手。**アイテムリストに記入**）。さて、この後は、

●アメダスに行く……⇩156へ

●クエリスに行く……⇩108へ

怪物がカプセルから出たところを狙って、ズバッ。ミキメーベは、真っ二つになった。ボクは斬りつけた。

⇩159へ

137

138

137〜139

「やったか!?　――うわっ！」

ふたつになった怪物は、それぞれもとの形に復元した。ヤツはボクに斬られたんじゃない、ただ分裂しただけなんだ！

2匹になったミキサメーベは、いっきに飛びかかってきた！　うわっ！　毒でもあるのか、こいつらの体に触れたとたん、手足がしびれた（HPマイナス2）。

「ユーシスさん！」

アンヌがミキサメーベにメスを投げた。おかげで怪物どもが離れた。

そこにルドガーがショットガンを発射！　バラバラになったミキサメーベは、白い煙をシュウシュウとあげ消えていった。

「サンキュウ。怪物め、今度こそくたばったかな」

その後、L字路を、

●西に進む……⇩209へ

●北に進む……⇩83へ

139

「おそらく、あそこには」ルドガーが、床に伏せながら銃を撃った。

女神像の背後にある彫刻が砕け散った。女神像の姿が一瞬消え、また姿を現わした。

「やはり、エネルギーの投射装置があったか……。しかし、バックアップがすぐに働くよ

うだな。みんな、あの辺りを攻撃するんだ」

さらにルドガーは、撃ち続けた。

「や、やめろ！　わたしをこれ以上怒らせるな！」

「怒らせると、どうなると言うんだ」

唐突に女神像が、空洞になった。そして、

の惑星の姿があった！

●敵よりPが上　……⇩331へ

マザーブレイン　36＋バトルP（1のJ）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のG）で戦います。

●下　……⇩397へ

アルゴルの3つ

ボクたちの乗ったリフターは、2階で止まった。

「この階止まりか……」リフターを降りると、すぐにL字の曲がり角になっていた。

●東に進む　……⇩140

●北に進む　……⇩97へ

140

●東に進む　……⇩163へ

141

アーミアがスライサーを放った！　宙返りでそれをかわしたネイ・ファーストは、大き

140〜142

く左手を振り上げた。
ヒュッ！　風をきって飛んでくる爪！
ボクたちはバラバラに散って、それをかわした。
だが、敵はそんじょそこらのザコじゃない。すかさず、ボクの真上に飛び上がっていた。
そして、その手には必殺のライト・セーバーが！
「死ね！」
ネイ・ファースト　14＋バトルP（1のB）
ユーシスたち　戦闘P（現在の戦闘Pから3を引く）＋バトルP（2の1）で戦います。
●敵よりPが上……⇩207へ
●下……⇩161へ

142

キャリアの背中が裂け、黄色い触手が何本も飛び出した。それが、いきなりボクたちを捕らえた。さっきボクを打ったのは、この触手か。
「こいつは、ラストロットだったのか！」ルドガーが叫んだ。
そういえば聞いたことがある。キャリアの体に別のバイオモンスター、チョーキンロットが棲みついて、よりパワーアップしているという怪物のことを。それがこいつだったのだ！

いかん、目がまわる！　この触手には毒があるようだ。体の自由を奪われたボクたちは、ラストロットの強力な牙の犠牲になった。

END

ヒュンッ！　**143**　怒りに燃えたアーミアのスライサーが、ネオニルソニアの枝葉を落とす。敵もビームを放ってくるが、アーミアはおかまいなしにスライサーを投げ続ける。彼女、怒らせると結構怖いんだよな。

「とどめよ！」

ついにネオニルソニアの猛攻の前に、ただの木片になってしまった。

Pプラス1、TPプラス1、60メセタ入手）。

「さ、すっきりしたところでまいりましょ」

ボクらは、ちょっとばかりあきれつつアーミアに続いた。

144

ボクたちはボートでドーナツ湖に乗り出した。

ボートは道具屋の言うとおりオンボロだった。スピードは出ないけど、水がもれないだ

⇩201へ

（戦闘

143〜145

けマシっていうところか。

「あの島ですか、アメダスがあるのは？」と、アンヌ。

「そのはずだけど……。変だな、あんな小さな島にアメダスの設備が収まるのかな？　まあ、行ってみればわかるか」

「その前に、あのぶっそうなお迎えをなんとかしなくちゃね」アーミアが空を見上げた。凧のような翼を広げた怪物が、上空をくるまわっていた。カイトカインドというバイオモンスターだ。

水面には、シーシザースというエビの怪物の姿が見える。こいつはまずい。

カイトカインドとシーシザース　12＋バトルP（1のH）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のB）で戦います。

●敵よりPが上　……⇩171へ

●下　……⇩123へ

145

「潜水用具をお探しで？　お客さん方、運が良いですよ。ちょうど昨日、潜水艇が手に入ったばかりでさ」道具屋のお兄さんは、もみ手をして言った。

「潜水艇だって？」

「もちろん本物ですぜ。モタビアンが作ったの150メセ

タ。どうです？　安い買い物だと思いますがね」

●買う……⇩168へ

●買わないで、ほかに情報を集める……⇩35へ

146

テレポート・センターを利用して、パセオからゼマ郊外に飛んだ。

こっちが近道だ。もっとも、アメダスの正確な位置はわからないけど、それはゼマ市内のライブラリイで調べられるはずだった。

ボクたちはテレポート・センターのある緑地帯を抜け、市内に通じる小道を進んだ。

ちょうど橋を渡った所で、またしてもバイオモンスターが現われた。

地面の中から、巨大な灰色のアリ――パンツァアント。立ち木の間から、やはり2メートルを超すカマキリ――グラスアサッシンが姿を見せた。

パンツァアントとグラスアサッシン　10＋バトルP（2のF）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（1のJ）で戦います。

●敵よりPが上……⇩175へ

●下……⇩169へ

146〜148

「まるで栄養失調だな」
カインズが言ったように、バンブーはヒョロ長いだけで、強そうには見えない。よし、まずはこいつから片づけよう。
ボクは全身に力をみなぎらせると、バンブーの胴体めがけて斬りこんだ。
ところが、思ったより強敵だ。ヤツはその体に似合わず、何度打ちかかっても、ビクともしない。
ぎらり。ヤツの目が赤く光ったかと思うと、殺人ビームが飛び出した！
「くわあっ」全身に衝撃が走る！（HPマイナス2）
●TPが9以上ある……⇩92へ　●8以下……⇩121へ

147

また分かれ道だ。
●南に進む……⇩122へ　●北に進む……⇩8へ
●東に進む……⇩8へ　●西に進む……⇩8へ

148

「長引けば不利だ、テクニックを使おう！」

ボクはシビレる体をなんとか立て直すと、ギグラブトを使った。

メキメキメキ！　異常な重力を生み出すギグラブトに耐えきれず、地面にめりこむ。

ぼてっ！　アッという間にレプタイルカイトも地面に叩きつけられぬ、押し翼竜ができあがった（**TPマイナス2、戦闘Pプラス1、60メセタ入手**）。さあ、博士のもとへ急いで帰ろう！

⇩243へ

149

デホがビームを放ってきた。

ボクたちの周囲に、何本ものビームが降りそそいだ。

1発でも当たれば命はない。どうする？

⇩150

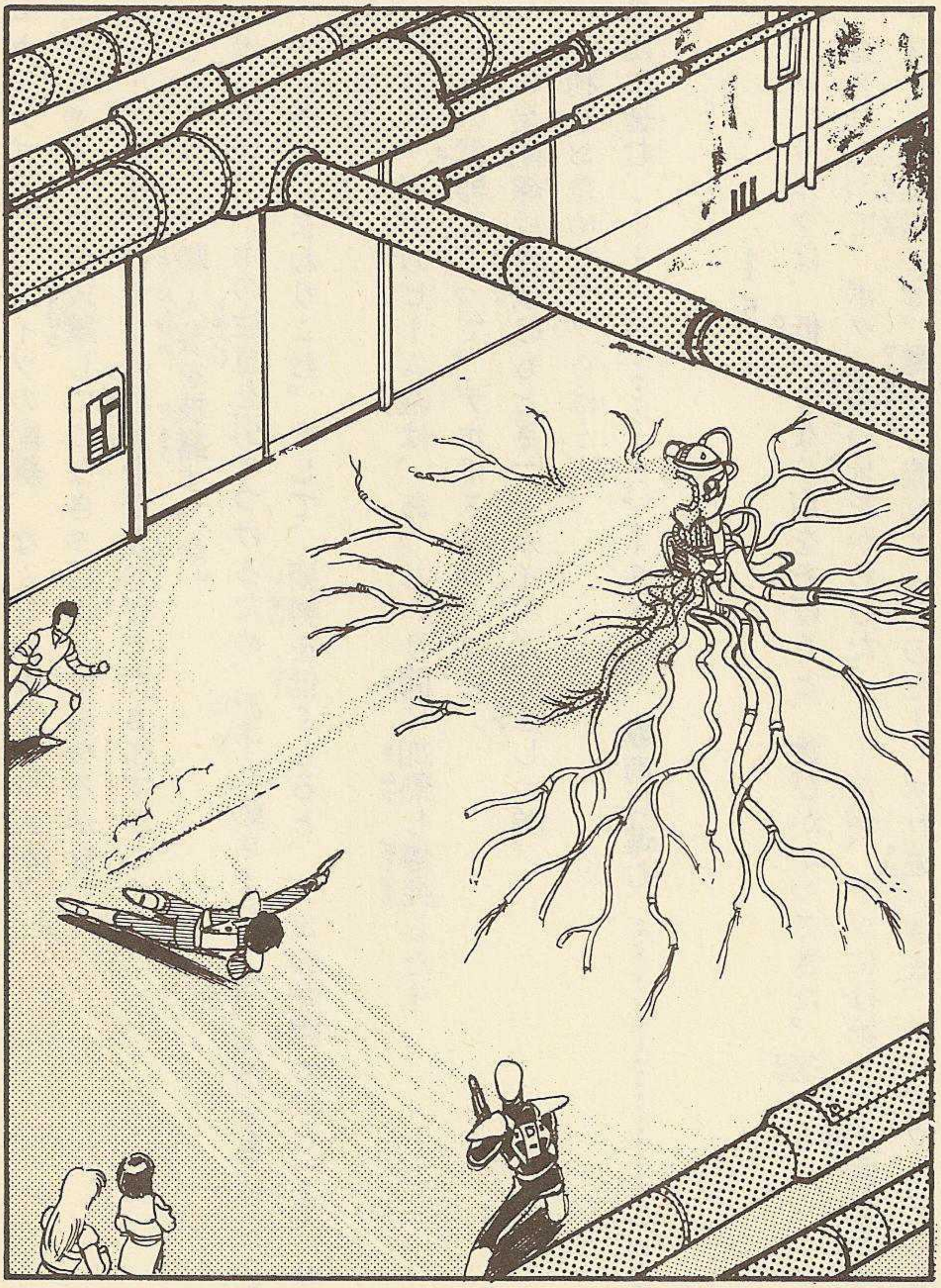
150

『ユーシス……』

ネイの顔がよぎった。そうだ、彼女の死をムダにしないためにも、ぐずはしてられない。

あのヤツの配線さえ切ってしまえば……そうだ！

149～150



150●デホが放ってきたビームを、横っ飛びでかわした。ヤツの注意をそらしているうちに、カインズが近づいていく。

「カインズさん、アイツの配線、なんとかなりませんか？」
「そりゃ、ヤツが攻撃してこなきゃなんとでもなるがな」
「……できるだけヤツの注意をひきつけておきますから」
「しゃーない。職人芸を披露すっか」
ボクらは、デホの注意を引きつけるため、派手に動きまわった。そのヤツの後ろにまわりこむ。そして、姿勢を低くとると、デホの配線のすきにカインズは、なぎかえた。
すると、デホのビーム砲は、あっという間に加熱し爆発した！
自らの武器によって、デホはスクラップに。
「タコ足配線は事故のもとさ」とカインズは涼しい顔。
勝利をおさめたボクらは……。

●西に進む……151

●南に進む……198⇩

フレアウルフは、低いうなり声をあげると、跳びかかってきた。速い！
身をひねって、ボクは鋭い牙をかわした。――だが、ヤツには第2の武器があった。フサフサした尻尾には、電流が流れていたのだ！　すれ違いざま、フレアウルフはそれを叩

278⇩へ

151〜152

きつけてきた（ＨＰマイナス１）。
「うわっ！」
倒れたボクめがけて、怪物がまた跳んだ。
「ユーシス、危ない！」ネイも跳んで、空中で怪物を捕らえた。フレーを突き刺すが、体重差で弾き飛ばされる。
「来い、おまえの相手はボクだ！」
立ち上がるや、ボクはフレアウルフの頭を叩き斬った！　ヤツの場にくずれ落ちた。
「大丈夫かい、ネイ」ボクは妹を抱き起こした。
「ええ」彼女はにっこりと微笑んだ。
この先、ボクたちは、

●西に進む……⇩193へ

●北に進む……⇩223へ

「いらっしゃい。何が欲しいの？」
○レーザークロー　60メセタ（ネイ用の武器）
○レーザースライサー　80メセタ（アーミア用の武器）

⇩152

○レーザーショット　80メセタ（ルドガー用の武器）
（買った物の値段を持ち金から引くこと。ひとつ買うごとに戦闘Pプラス1）
●道具屋に行く……⇨126へ
●ゼマを出る……⇨153
進んでいくと、T字路に出た。
●南に進む……⇨115へ
●北に進む……⇨154
●東に進む……⇨174へ
●街で聞きこみをする……⇨104へ
●ゼマを出る……⇨73へ

ウーゾ島はクエリスの沖、約5キロにあった。ジェットスクーターのスピードをもってすれば、目と鼻の先だ。
途中、海と空からバイオモンスターの襲撃があったが、なんなくそれらを突破し、ボクたちはウーゾ島に上陸した。
⇨227へ

T字路に出た。

●東に進む……⇩155

●北に進む……⇩180へ

155

●南に進む……⇩217へ

156

それから間もなく、ボクたちはドーナツ湖の中央にある島に到着した。途中でバイオモンスターの攻撃があったが、ジェットスクーターは矢のようなスピードで走り、軽くヤツらをぶっちぎってしまった。とてもゴミからできた代物とは思えない性能だ。

「ねえ、本当にこの島にアメダスがあるの？」

「そのはずだけど……おかしいな」

ボクたちは、それらしきものを探しまわった。しかし、建物はおろか、洞穴ひとつ見つからない。

「これは目ざすものが見つからないだけならいいが、その島にいたバイオモンスターの奇襲を受けて、ボクたちはダメージをくらってしまった（HPマイナス2）。

今度は、ゼッタイずい。いったんもどろう」ボクたちは、再びジェットスクーターに飛び乗った。

マの隣にあるクエリスに向かう。

⇩108へ

体力アップの薬を買うため、道具屋に立ち寄った（なぜか道具屋でも薬を売っているのだ）。

○モノメイト　20メセタ（HPをアップさせる）

○スターアトマイザー　50メセタ（HP、TPをアップさせる）

（買った分の値段を持ち金から引き、アイテムリストに記入）

●アメダスに向かう……⇩203へ　●武器店に行く……⇩182へ

157

シュライムゼリーは、口から液体を吐いた。毒か!?　ちくしょう、体がしびれはじめたぞ

（HPマイナス1）。

158

「ユーシス君！」ルドガーがボクを抱えて、近くのガラクタの陰に飛びこんだ。

「ヤツら、もう引き上げたみたいよ」アーミアがガラクタのすき間から様子をうかがった。

「ユーシス、大丈夫？」ネイがボクの手を握った。

「ああ、なんとかね。――それより、本当に怪物はもう行ったのか？　まだその辺にいるんじゃないのかい？」

ガタンと、何かが落ちる音がした。すかさず武器をかまえるボクたち。

157〜159

「ま、待っておくれや！　わいは、怪物やおまへんで」ガラクタの山のてっぺんから、大きなネズミが顔を出した。

なんだ、モタビアンか。

⇩91へ

159

アメダスからパセオにもどったボクたちは、ネイの弔いをした。本人の希望どおり、モタビア総督のいるセントラル・タワーを訪れた。

それが終わると、詳しい報告をしにモタビアは水びたしになるぞ！」

おや、何か玄関が騒がしいぞ。

「た、大変だぁ！」いきなり、入り口の所でわめいているタワーの職員と出くわした。

「湖の水があふれる！　アメダスで事故があって、本当なら雨になる水が全部湖に流れこんでしまったんだ。このままだと、モタビアは水びたしになるぞ！」

なんだって!?

「ユーシス君、大変なことになった。アメダスがつい先ごろ爆発してしまったのだ」

——ボクたちは、急いで総督の部屋にあがった。

もしや、ネイ・ファーストが死んだ後、使われなくなったエネルギーが急にアメダスのシステムに流れこんだためでは……。ボクは、アメダスであったことを総督に説明した。

「そうか……。しかし、バイオモンスターの件が片づいたと思えば、いきなりこの騒ぎだ。

せめてダムが開けられれば、最悪の事態は避けられるのだが、あいにくコントロールが効かないのだ。

「ボクにそれをやらせてください！」

「うむ……しかし……」総督は、顔をくもらせた。「実に残念なことだが、誰かが直接開けに行かなければ」

ザーブレインを狂わせた犯人として、キミたちの名前をあげた」

「な、なぜです!?　いったい、どうして!?」

「わからん……わからんが、逮捕命令が出ているのは事実だ。もはや、わが力ではどうにもならん。セキュリティシステム――ロボット警察は、やっきになってキミたちを探して

「でも、家でじっとしてたって、捕まってしまうでしょう」

ボクはダムを開けに行きます。……それにこの事件の背後にも、何かが潜んでいるに違いありません。今、目立つことをするのは危険だ」

「そうか。ならば何も言うまい。気をつけてな」

ボクらは、大樹の陰で一休みすることにした。

「ちょっと！　ルドガーさん、人のヒップに触るのお止めになって！」

160

⇩194へ

「ああ？　私は何もしてないが……」
「うそ！　むっつりスケベってあなたのことさん！　逃げろ！」
「ア、アーミアがルドガーの手だと思っていたのは大木の根で、しかもそいつはバイオモンスター！　お礼はさせてもらうわよ！」
「このスケベモンスター！　お礼はさせてもらうわよ！」
アーミアがルドガーをかまえた。
ライサーをかまえた。
ネオニルソニア　12＋バトルP（1のG）で戦います。
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のB）で戦います。
●敵よりPが上……⇩143へ

161

ライト・セーバーが、ボクの肩をかすめた！　焼けつくような痛みが走った！（HPマイナス3）
「運のいいヤツだね。だが、今度は逃がさないよ！」
ネイ・ファーストがまた跳んだ！
ネイ・ファースト　14＋バトルP（1のG）
●下……⇩112へ

ユーシスたち　戦闘P（現在の戦闘Pから3を引く）＋バトルP（2のD）で戦います。

●敵よりPが上……⇒207へ

●下……⇒237へ

162

T字路に出たが、東側の通路は途中で行き止まりになっている。

●東に進む（キーチューブを持っている場合のみ）……⇒135へ

●北に進む……⇒233へ

●西に進む……⇒193へ

163

進んで行くうちに、ボクたちはT字路に出た。

●北に進む……⇒53へ

●南に進む……⇒209へ

●西に進む……⇒117へ

164

「よし、テクニックを使うんだ！」

ボクは力を振り絞り、ナフォイエの呪文を唱えた。

ゴ――――！　正義の炎は、魔剣リビングブレードを包みこむと、アッという間にドロ

ドロにしてしまった（TPマイナス4。200メセタ入手）。

「さあ、長居は無用、早くここを抜け出そう！」

●B地区へ行く……⇩12へ

●左のビルへ行く……⇩280へ

165

警察の切札――アーミーアイ。

大小のドームを2個、はり合わせたようなメカだった。下部の小さなドームを床から1メートルほどの所に浮かんでいる。

「こいつらの弱点は？」

回転させ、

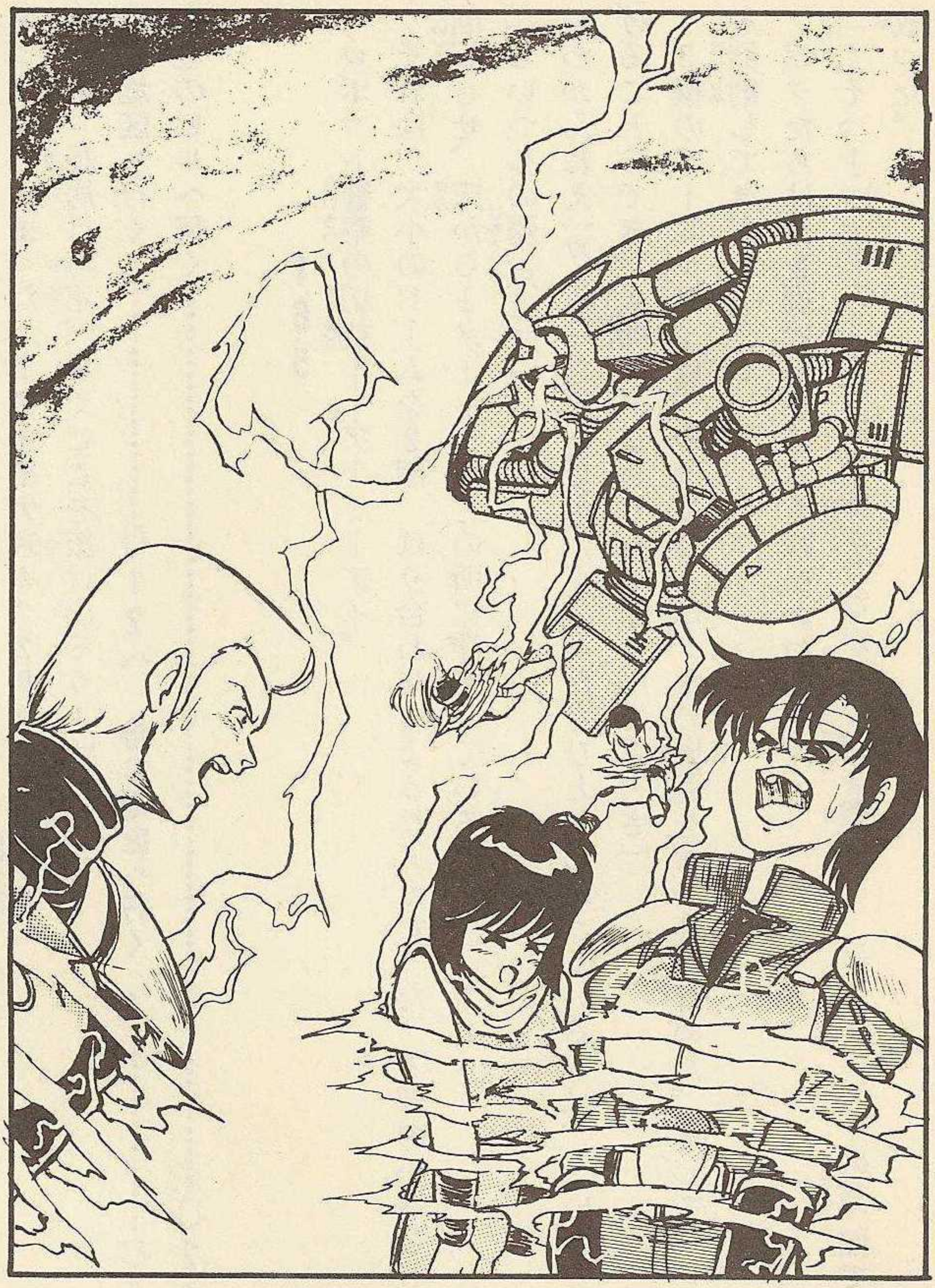
「わかんねえ」カインズは、首を振った。「ただひとつわかっていることさ」

「できた人間は、ひとりもいねえってこと

3機のアーミーアイは、ゆっくりとボクらの周囲をまわりはじめた。そして、レーザーを発射してきた！

ボクたちは身を投げ出して、それをかわした。

「くそっ！」ルドガーが、床を転がりながら、銃を撃った。アーミーアイの表面で火花が散った。



165●アーミーアイはプラズマリングを飛ばしてきた。それは、ボクらの体をくくり、自由を奪った。逃げられないぞ！

さらに、アンのメス、アーミアのスライサーが、敵ロボットを直撃！

よし！　ボクは満身の力をこめて、剣を振り降ろした！

だが――これだけの攻撃を受けても、アーミアイは倒れなかった。こいつら、いったい何でできているんだ!?

驚くボクたちに向かって、アーミーアイは、アーミーリングを飛ばしてきた。それは、ボクらの体をくくり、自由を奪った。

「ちっ！　プラズマリングだぜ。こりゃ、もうダメ……」

カインズの声は途中でとぎれた。ボクたちは、アーミーアイの出すガスに眠らされてしまった。

⇩250へ

「せっかくマルエラリーブが手に入ったんだ。こんなところで死んでたまるか！」

バーンウルフとレプタイルカイト　13＋バトルP（1のE）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のI）で戦います。

●下……⇩184へ

●敵よりPが上……⇩221へ

ボクたちは、ダイナマイトを使った。
「何かいるわ！」
爆煙の中でうごめく大きな影。トカゲをずんぐりさせたようなバイオモンスター、キャリアだ！　そいつは、飛び散った破片ものともせず、ボクたちに向かってきた。
キャリア　10＋バトルP（1のF）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2の1）で戦います。
●敵よりPが上……⇩60へ　●下……⇩86へ

167

一瞬のうちに、鋼鉄製のドアがけし飛ぶ。

168

道具屋に金を払い、ボクたちは潜水艇を手に入れた（**マイナス150メセタ**）。さっそく湖までくり出し、出発する。
「島まであと3キロ……。待って、何かが近づいてきたわ。たくさんいる！」ソナーを操作していたアンヌが言った。
「バイオモンスターか？　よし、ライトをつけるんだ」
潜水艇の頭にある水中ライトが、前方を照らしだした。湖底からエビの化け物――シーザースどもが浮上してくるのが見えた。

167～169

シーシザース多数　11＋バトルP（1のE）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のI）で戦います。
●敵よりPが上……⇩113へ　●下……⇩188へ

169

ルドガーが、パンツァアントに向けて銃を発射した。銃声とともに、土ぼこりが舞う。

怪物アリの姿は消えていた。

「地中に潜ったか！」

グラスアサッシンのほうは、ボクめがけてまっしぐらに襲いかかってきた！

ルもの高さから巨大なカマを振り降ろしてくる。

ガチッ！　ボクは、その攻撃を剣で受け止めた。グラスアサッシンのカマをはねのけ、後退しながらも、カマを投げてきた！

うわっ！　鋭い刃が、ボクの肩をかすめた。防具が裂け、血がふきこぼれた。かすめただけでこの威力だ。もし、まともに喰らっていたら……（HPマイナス2）。

「危ない！」アーミアが前に出たところを狙って、怪物はもうひとつのカマを投げてきた。

だが、彼女は首をそらすだけで、その攻撃をかわした。
「わたくしの前でそんな技を使うのは、10年早くてよ」
アーミアの手は、一撃でグラスアサッシンの首を切り落とし、彼女の手にもどってきた。
振り向けば、三日月型をした刃物が飛んだ！　スライサーだ！
めたところだった（**戦闘Pプラス1、プラス50メセタ**）。

●170

ミゾランガンマは、頭をぐるぐるまわしながら、ビームを発射！　クモのような足をうごめかし、ボクたちめがけてゆっくりと近づいてくる。
接近戦にもちこむしかない。ボクは捨身の戦法で、ヤツの足元に転がりこんだ。細い金属の足をはらった。
ミゾランガンマの大きな頭はバランスをくずし、自分の胴体にビームを浴びせた。火花を散らし、くずれ落ちる。
振り向くと、そのバンブードガーとカインズが共同で、バンブーを片づけたところだった。
●**カードを持っている……⇩200へ**

●**持っていない……⇩231へ**

アーミアの投げたスライサーをかわし、カイトカインドが急降下！ボクたちを襲おそった！（HPマイナス1）

「くそ、このボートの上じゃ、ろくに反撃もできやしない。

突然とつぜん、ボートがぐらりと揺ゆれた。シーシザースの体当たりだ。

「大変！　浸しんすいしてきたわ！」

「このままじゃ、不利だ！　引き返そう」

怪物かいぶつどもの攻撃こうげきを受けつつも、ボクたちはなんとか岸きしにたどり着いた。

171

「やっと見つけたぜ。きれいなねーちゃんと、悪いヤツらをやっつけてまわってるってのは、あんたろ。なんで、オレに声をかけねぇんだ」と、赤い服の男が言った。

172

「あなたは？」

「オレ？　あ、いけね、自己紹介じこしょうかいを忘わすれていた。オレはカインズ・アンっていうんだ。エンジニアになろうと思ってたんだけど、オレの触さわった機械はみんな壊こわれちまいやがる。しかたがねぇから、今はジャンク屋よ。ねとねと、じめじめの生き物は勘弁かんべんしてもらいたいが、メカをぶち壊こわすのなら任まかせてくれよ！」

⇩197へ

ここでカインズは、ちらりとアンヌやアーミアのほうを見た。
「誤解のないよう言っておくけど、オレは紳士だからな。女の子も安心して旅ができるぜ」
やれやれ、よくしゃべる男だな。でも、メカ相手の戦いには、十分戦力になりそうだ。
カインズを仲間にしたボクたちは、ダムの建物に突入した。もちろん、中はとてつもなく広い。早く、コントロール装置にたどりつかなくては……。まず最初のL字路を、

●南に進む ……⇨258へ

●西に進む ……⇨235へ

173

ビジョンスフィアが稲妻を落とし、エムゴフェンサーが針を放ってきた！
ボートの上では逃れようがない。ボクたちは一方的に攻撃された（HPマイナス1）。
飛び去る怪物どもに、ルドガーが銃を撃ったが、それは焼け石に水だった。
さんざんな目にあいながらも、何とかボクたちはウーゾ島に上陸した。

●南に進む ……⇨227へ

●西に進む ……⇨153へ

174

T字路に出た。いったい、アメダスのコントロール室はどこにあるんだ？

●北に進む ……⇨205へ

●西に進む ……⇨193へ

L字の曲がり角に出た。

●南に進む……⇩229へ

175

●東に進む……⇩130へ

176

「行き止まりか……」

誰も口にこそ出さないが、あせっていた。

「ねえ、この取っ手みたいなのなにかしら」

アーミアが壁からつきでた小さなノブのような庫になっており、その中には、ダムを開けるための制御カードが入っていた(**カード入手。ただし、初めてここに来た人のみ**)。

カードを手に、ボクらはさっきの十字路まで引き返した。

⇩198へ

177

ボクたちの見ている前で、ネイとネイ・フィーアストは戦いはじめた。

ね、姉さんだって!? ネイは、もともと自分と一緒だった姉と戦おうというのか! ボクたちは、その異様な迫力を前にして動けなかった。かたきをやっと見つけたルドガーに

しても、銃をかまえようとしなかった。
ネイとネイ・ファーストは、1秒たりとも同じ所にいなかった。猛スピードで跳び、鋭い特製の爪で互いの喉笛を狙う。並の人間では捕らえることができない超高速の戦い！
空中でふたりが激突！　ネイ・ファーストの右手から、クローが弾け飛んだ。さらに着地の体勢をくずすファースト。
すかさずネイのクローが、ファーストの喉を貫いた！　やったぞ！
だが――突然、ネイは体をくの字に曲げた。彼女の背中から、光る剣が飛び出していた。
ネイ・ファーストが死際に、ライト・セーバーを突き立てたのだ！
「ネイ!!」ボクは、血まみれの彼女のもとに駆け寄った。
「こ、これで良かったのよ……。もともとわたしたちは、同じ存在。たとえ、わたしが勝ったとしても、ファーストを殺すことは自分を殺すことなの……」

178

たちこめたガスのため、3メートル先でさえかすんで見えない。
ボクらは用心深く、奥へ奥へと進んだ。
しばらくすると、その白いもやの中に、うっすら銀色に光る物が見えてきた。
それは諸刃の剣だった。

⇩136へ

178〜181

●剣を拾う……⇩228へ

「さて、これからどっちに行こうか？」

●ゼマの隣にあるクエリスへ……⇩179

●アメダスへ（ボートを持っている場合のみ可能）……⇩144へ

●拾わない……⇩251へ

179

進んで行くと、T字路に出た。早く放水しないと、モタビア中が水びたしになるぞ。

●南に進む……⇩258へ

●北に進む……⇩235へ

●東に進む……⇩108へ

180

……⇩155へ

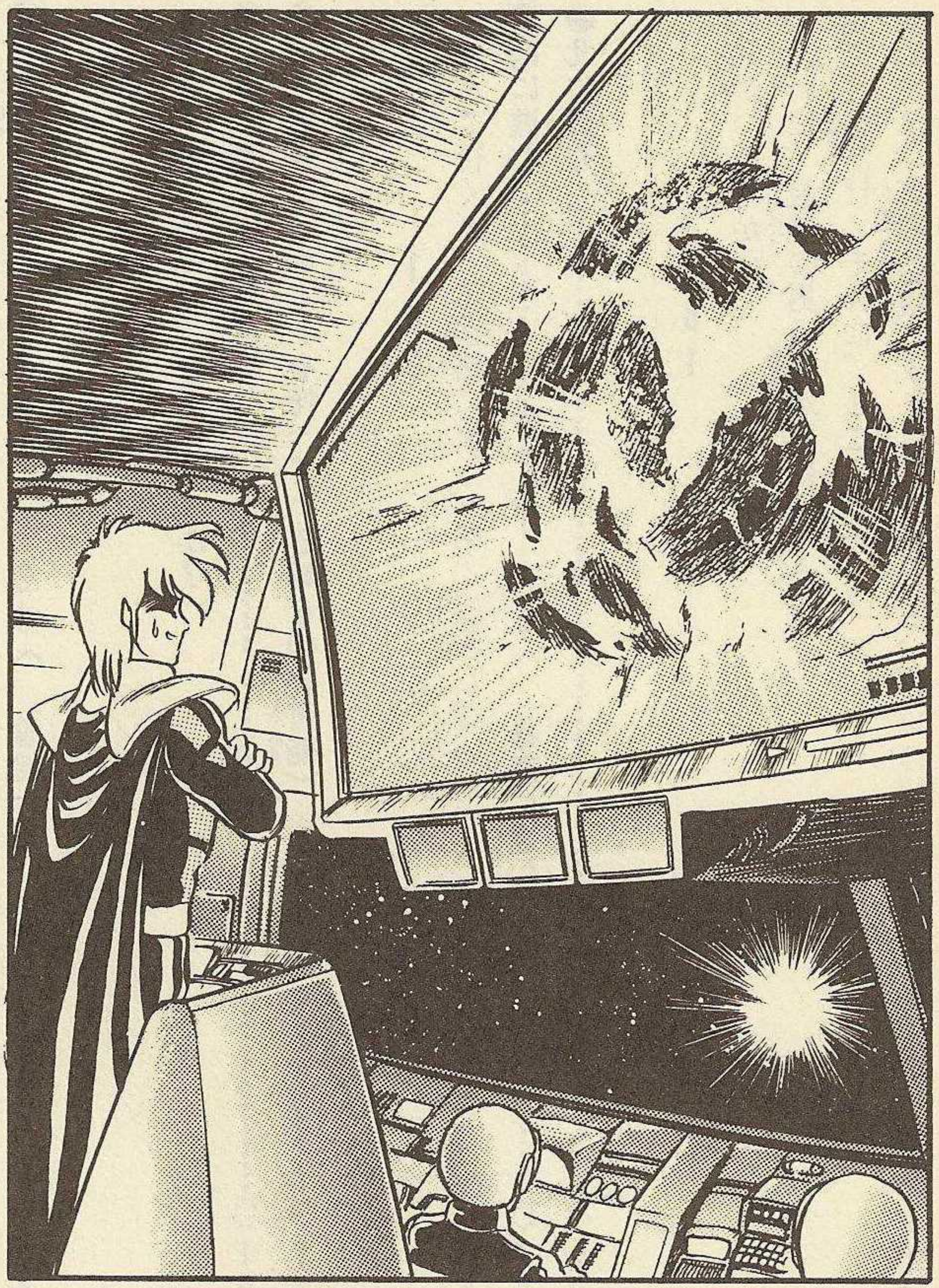
181

「気がついたか」

ふいに、金髪の男の姿が目に入った。

「だ、誰だ!?　それに、ここは!?」

「オレは、宇宙海賊のタイラー。ここは、オレの船の中だ。キミらは、『ガイラ』に閉じこ



181●スクリーンに映っていた青い星が砕け散った。何千年もの間、
アルゴル太陽系の中心だったパルマ星の最期だ……。

められていたんだろ。ちょうど近くを通りかかって良かったよ。キミの仲間たちも今、再生装置にかけている。じきに目覚めるだろう」

「たしかにタイラーは、壁のスクリーンを指さした。そこには、青々とした星――パルマ星が映っていた。だった星のな」

「パルマの中心地だの最期だ。我々の祖先が生まれた星。そして、何千年もの間、

ボクは、

「な、なぜ、パルマが？」

「星全体にエネルギーを供給していたのさ。何さな事故が重なっていたのに、誰も危険だとは思っておけば大丈夫と考えていたんだ」

「ここもマザーブレインが……」

「そういえば、マザーブレインを狂わせた犯人がいるとか。ユーシスという男だそうだけど」突然入ってきた女がそう言った。こいつら、ボクを売る気か!?

⇩127へ

アメダスには何が待ち受けているかわからない。装備を追加するため武器店を訪れた。

○ストームギア　50メセタ（頭の防具）
○セラミックシールド　60メセタ（セラミック製の盾）
○レーザーソード　60メセタ（レーザー剣）

（買った分の値段を持ち金から引き、アイテムリストに記入。ひとつ買うごとに戦闘Pプラス1）

●アメダスに向かう ……⇩203へ

●道具屋に行く ……⇩157へ

●西に進む ……⇩180へ

ポリツァイは、ヒザから小型ミサイルを発射してきた！

慌ててボクたちは、床に伏せた。ズガーンなんて物騒なヤツだ。

ロボットは、再び発射の体勢をとった。すかさずアーミアが、スライサーを投げた。まさに飛び出そうとするミサイルの弾頭を切断という音とともに、背後から爆風が押し寄せてくる。くそ、ヒザから小型ミサイルを発射してきた！

「まったく、場所を考えて武器を使って欲しいものね。――さて、どちらに行きます？」

●北に進む ……⇩204へ

182〜186

184

ビリビリ！

「うわあああ！」（HPマイナス1）

バーンウルフに斬りかかったはいいが、ヤツの電撃をくらってしまった。

そのうえ、頭上からはレプタイルカイトの猛火が迫る。

●TPが6以上ある……⇨149へ

●5以下……⇨213へ

185

今度はT字路に出た。

●東へ進む……⇨202へ

●北へ進む……⇨110へ

●南へ進む……⇨263へ

186

「ことは一刻をあらそうんだ。できれば、このままいっきに登ってしまいたいんだけど」

「お嬢さんがた、肩を貸そうか？」ルドガーが手をさし伸べる。

「……ちょっとジョークを言っただけなの。こんな坂道、なんともないわ。さ、行こう」

アンヌが強がる。その横でアーミアもうなずく。

普通の女の子ならとうにギブアップしているはずの、けわしい山道。頼もしいレディたちだ。

「ネイ、キミは大丈夫？」

「あたしは……。普通の人間じゃないから平気よ」

彼女は笑顔で答えてくれたが、横顔には、ちょっとさびしそうな影が浮かんでいた。

ともかくボクらは頂上をめざした（ＨＰマイナス１）。

⇩２０１へ

１８７

「ふふふ、もうおしまいかい？　あっけないねぇ」

「くそ、そう簡単にやられてたまるか！」

ボクたちは体勢を立て直した。要は、あの爪に注意すればいいんだ。

⇩１４１へ

１８８

イオモンスター！　と、かっこ良くいきたいところだが、この潜水艇には武器は装備されていなかった。悔しいが逃げるしかない。

「うわっ！」

シーシザースの体当たりをくらって、ボクたちはそれぞれの持ち場から吹っ飛ばされた。

それが何度も続く。

187〜189

死ぬ思いでクエリスにたどり着いた時には、潜水艇は浸水のためにもう使い物にならなくなっていた。

またなんとかそこー、150メセタ損しただけだった。

どることにした。対策を考えなくちゃならない。とりあえず、ボクたちはライブラリィにも

⇩35へ

189

「いくぜ、いきなりプロセダンだ！」

カインズは、対メカ用のテクニックを使った（TPマイナス2）。

「見たか、この威力！」

「何が威力よ、敵はピンピンしてるわ」

「ゲッ！　失敗だ」

いくら威力のあるテクニックだろうと、失敗しては意味がない。慌てふためいているうちに、トレーサーのレーザーをくらってしまった。ピンチ！（HPマイナス1）

だが、好運が起こった爆発のどさくさに紛れて、ボクたちはトレーサーから逃れることができたのだ。

角にあったハシゴを上り、上のデッキに出た。

⇩287へ

ゼマ市内に到着。さっそくライブラリィに足を運んで、アメダスの位置を調べてみた。

「アメダスはと……なんだこりゃ。ドーナツ湖のど真ん中？　どうやって行くんだ？」ボクはスクリーンに映った地図の前で首をかしげた。

なにか、ボートのような物が必要だ。しかし、テレポート・サービスが普及している現在、乗り物なんか持っている人がいるのだろうか？

「乗り物か……。昔、このゼマにはボートどころか宇宙船まであったのじゃ。昔はあちこちに宇宙空港があって、それ以来マザーブレインは宇宙船の司書の老人が、ボクたちの話を聞いて出てきた。

「宇宙船ですって？」

「さよう。このゼマには、かつて宇宙空港があって、数多くの宇宙船がパルマ、モタビア、デゾリスの間を飛びまわっていた。だが、10年前、宇宙船同士が衝突する大事故があって、それ以来マザーブレインは宇宙船の飛行を禁じた。今飛んでいるのは、無人の貨物船だけじゃよ」

「10年前の宇宙事故……」

「あれは、初めてアルゴル太陽系の外へ向かうはずの調査船じゃった。長い旅になるため乗員は家族ぐるみで乗りこみ、中には子どもも生まれたそうじゃ。しかし、乗員は全員死亡。痛ましい事故じゃった。――どうなされた？　顔色が悪いようだが」

「い、いや、大丈夫ですよ。どうもありがとう、それじゃ」

●武器店に行く……⇩152へ

●街で聞きこみをする……⇩104へ

191

「この地下、なにもニャイ。ニャがいは無用ニャン」

「キレイなネエちゃん、アンヨカジカジしたいニャン」

マジックハットをかぶったボクの耳にネコたちの声が聞こえてきた。

ネコたちに別れを告げると今度は……。

●東に進む……⇩94へ

●南に進む……⇩321へ

192

フェイリアはすごい生命力をもった怪物だった。ルドガーの銃撃をくらっても、ひるむことなく飛びかかってきた。

ふいを突かれたボクは、ヤツの棍棒をくらった（HPマイナス2）。打たれた肩がズキズキと痛む。なんてバカ力だ。もし防具がなかったら、今ごろ……。

●道具屋に行く……⇩126へ

フェイリアの背後から、ネイとアンヌが攻撃した。クローとメスが、ヤツの背中に突き刺さった。

今だ！

は、今度こそ怪物が声をあげて振り向いた。

フェイリアの倒れたあたりに、円筒形のカギが落ちていた（キーチューブ入手。アイテムリストに記入。2回目以降は関係ありません）。

●東に進む……⇩115へ

●北に進む……⇩175へ

●南に進む……⇩162へ

●西に進む……⇩252へ

193

気のせいか、ネイの顔色が悪いようだ。彼女は何でもないと首を振るが……。

やがて、T字の分かれ道に出た。

●東に進む……⇩174へ

●北に進む……⇩115へ

194

「何も、あなたたちまでついて来ることはないのに」

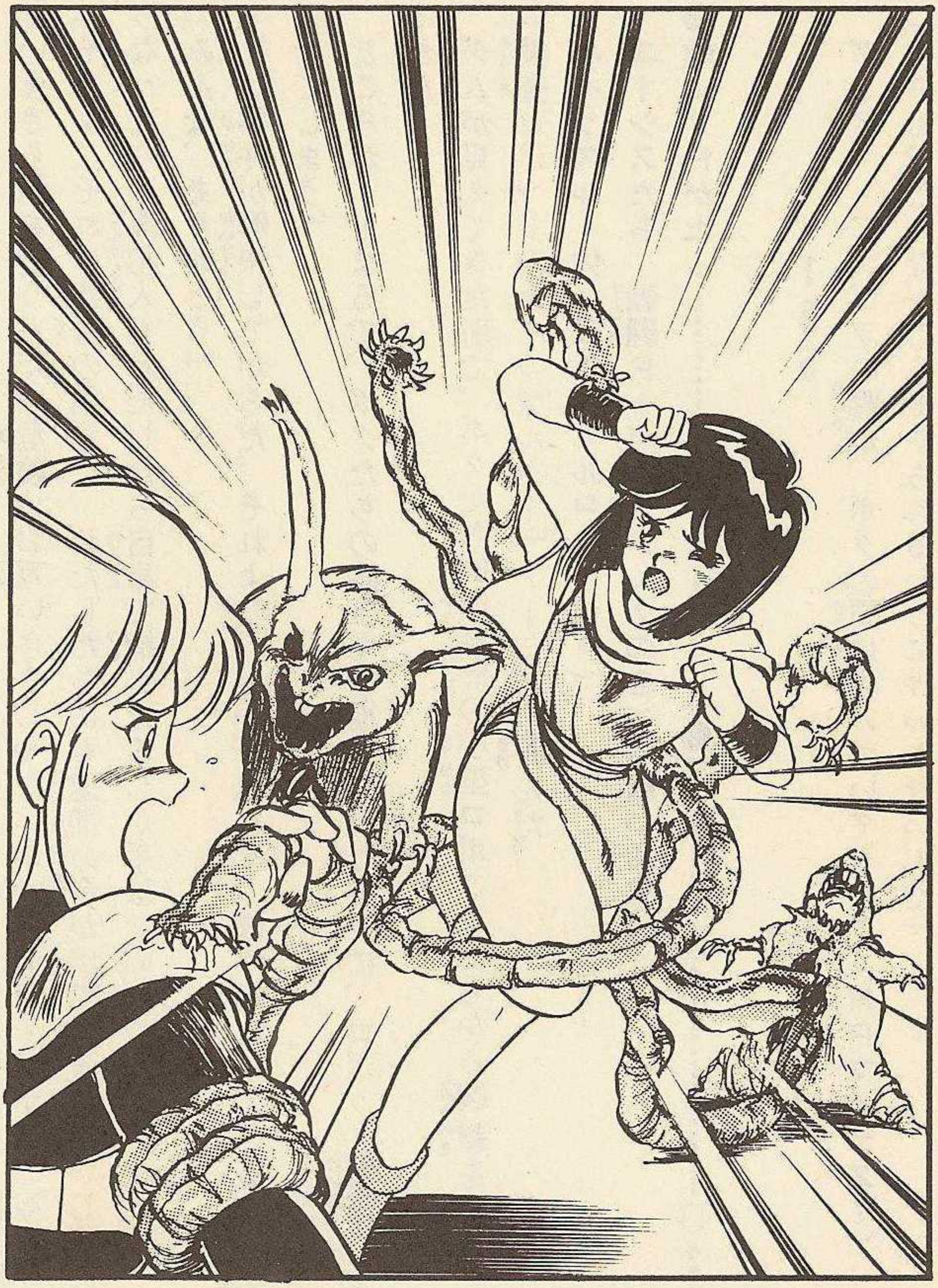
ボクは下からフェイリアの胸を貫いた！　急所を突かれたバイオモンスターはそもんどりうって倒れた。

193〜195

「いまさら何を言うんだ。危険はお互いさまじゃないか」ルドガーが言った。
「そうよ。それに総督の話だと、わたしたちにも逮捕命令が出ているみたいじゃない。こうなったら、真犯人をわたしたち自身で捕まえるしか手はないわ」とアンヌ。
「みんな、ありがとう」
「礼は事件が解決してからだ。それより、もっと急ぐぞ。ぼやぼやしていると、洪水が始まってしまう」
ところが――まるで、ボクたちの動きを予期していたように、ロボット警察の手が伸びてきた。
ダムが見えてきた所で、ボクたちは円錐形の小型ロボットどもから襲撃を受けたのだ！
「捜査ロボットのホイッスルよ！」アーミアが叫んだ。
ホイッスル4体　13＋バトルP（1のA）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のE）で戦います。
●敵よりPが上……⇩219へ
●下……⇩245へ

195

ダーティ・アンゴラの腸が、ボクの肩に嚙みついてきた！（HPマイナス2）
「くそお、こんなところでやられるわけにゃいかないんだ」



195●ゾンビウサギ――ダーティ・アンゴラの腸には、牙が生えていた。それが、ボクやアンヌの体に噛みついてきた。

196

剣を持ち直すと、思いきり床を蹴ってジャンプ！
ヤツの脳天に、剣を垂直に突き立てた。
ダーティ・アンゴラは声ひとつあげることなく、立ったままこと切れた。
「片づいたようね」
アーミアの声に振り向くと、床にダーティ・アンゴラの死体がいくつも転がっていた。
みんな、肩で息をしているものの、なんとか無事だったようだ（**戦闘Pプラス1**）。
「みんな、ケガはない？」
アンヌの問いかけにボクらはうなずいた。そのとき、
「ミャウーン♡」と、ネコの鳴き声が。
見ればボクの足元に、愛らしい白いネコがすり寄ってきてるじゃないか。
さて、どうしたものだろう？

●モジックハットを使う……⇩347へ
●どちらの帽子も持っていない……⇩369へ
●マジックハットを使う……⇩312へ

もたもたしている間に、さらにガスは濃くなり、息さえできなくなってきた。
ガスの毒で動けなくなったボクらに、魔剣リビングブレードが迫る。

196

ごめん、ネイ。キミが命をかけて守ってくれたってのに……。

197 END

「あれ、バイオモンスターどもは追ってこないぞ」
「あたしたんじゃないの」
「弱ったな。なにか別の手を考えなくちゃ、アメダスに近づけもしない」
ボクたちを追い返したことで満足したんじゃないの」
たような外見。この星の原住種族、水辺を何者かが歩いてきた。ネズミを大きくして立たせシャーキンな化石のような物を引きずっていた。本で見たことがある大昔の生き物——
「やあ、今日は大漁でんな。こんなにぎょうさんゴミが落ちているなんて」
「こらこら、ボクたちはゴミじゃないぞ」
「冗談や、冗談。——あんさんら、濡れたままじゃカゼひくで。わいらの住処で体を乾かしたほうがいいで」
「住処ってどこ？」
「この近くにあるゴミ捨て場や」

⇩91へ

197〜200

十字路に出た。
「よし、こっちだ！」
●東へ進む……⇨224へ
●南へ進む……⇨239へ
●西へ進む……⇨155へ
●北へ進む……⇨176へ

198

199

アーミアのスライサーが、ビジョンスフィアを切り裂いた！　球体生物は風船のように破裂し、海上に落下した。
もう1匹！　海面をはうようにエムゴフェンサーが迫ってきた。
怪物は曲げた尻から針を発射！　ボクはそれを弾き返し、さらに突っこんでくるヤツの胴体を真っ二つにした（**戦闘Pプラス1。プラス40メセタ**）。
何とか敵を片づけたボクたちは、ウーゾ島に上陸した。

⇨227へ

200

コントロール装置の差しこみ口にカードを入れた。まもなく、ダムのロックがはずれ、水の流れる音が聞こえてきた。

「やった！　これで、大洪水になるのを防いだぞ！」
「ユーシス君、喜んでいるヒマはないようだ！」
包囲しているルドガーの声に振り向き、ボクは足をすくませた。巨大な浮遊メカが3機、ボクたちを包囲しているのだ。
「こいつらは、アーミーアイか！　ロボット警察の切札だぜ。ちくしょう、こんなものまで乗り出してくるとはよ！」カインズが叫んだ。
●敵よりアーミーアイ3体　18＋バトルP（1のB）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のH）で戦います。
●下……⇩212へ
●敵が上……⇩165へ

201

ついにボクらは、ウーゾ山の頂上を極めた。そして、そこには……。
「博士に見せてもらったのと同じ木だ……」
そう、マルエラリーブが青々とした葉を広げ、ボクらを待っていたのだ。
苦労して登ってきたかいがあったというものだ。ボクは、さっそくその葉をとると、バッグに詰めこんだ。
「よーし、これで博士に酸素ガムを作ってもらえるぞ」

だが、安心するのは早かった。
ガオォォォン！
燃えるような！　上！　レプタイルカイトだ！」
「ユーシスくんたてがみを持った、バーンウルフが襲いかかってきたのだ。
ルドガーが叫ばなければ、ボクは空からきた化け物の爪に引き裂かれていただろう。
●Dにチェックがある……105へ　●ない……166へ

202

L字路だ。行くかもどるか……。
●西へ進む……185へ　●北へ進む……101へ

203

いよいよアメダスに出発だ。ボクたちは酸素ガムを噛んで、ドーナツ湖に飛びこんだ。
好運なことに、島に到着するまで敵に会うことはなかった。島の水中部分に開いた洞窟の中に入っていく。その奥は水中ドックになっていた。
水から上がり、近くにあった昇降リフターで上の階に出た。さっそく通路が2本あるが。
●西に進む……175へ　●南に進む……153へ

L字の曲がり角に出た。コントロール装置はどこだ？

●南に進む……⇨258へ

●東に進む……⇨223へ

205

L字の曲がり角に出た。

●西に進む……⇨235へ

●南に進む……⇨174へ

206

「いくぜ、いきなりプロセダンだ！」

カインズは、対メカ用の必殺テクニックを使った。トレーサーは、瞬間的に粉々になった。

「見たか、これがカイナス2、戦闘Pプラス1）。さすがカインズの威力！」

ボクたちは、角でハシゴを見つけた。それを使い、上のデッキに出た。

⇨287へ

204〜208

207

突然、ネイ・ファーストが横に吹っ飛んだ。
ルドガーの銃撃だ！
「どうだ、モンスター！　どう理由をこねようと、おまえが私の妻と娘を殺したことにはかわりがない。かたきを討たせてもらうぞ」
「ちっ！　なまいきな人間が！」ネイ・ファーストは、ユラァと立ち上がった。
ヤツの執念は、すさまじかった。アンヌのメス、アーミアのスライト・セーバーを振りかざし、ボクめがけて突進してきた。
だが――こっちだって負けるわけにはいかないんだ！
光の剣を紙一重でかわし、ボクはネイ・ファーストの胸を貫いた！
（戦闘Pプラス1、TPプラス2、プラス120メセタ）
⇩136へ

208

用心しながらボクたちは、部屋の中に入った。
やはり誰もいなかった。椅子がいくつかひっくり返っていた。床に本が散らかっている。何者かが荒したのか、それともここにいた人間が慌てて出ていったという感じだ。
開けっぱなしの窓からは、雪が舞いこんできていた。

「あれは…？」
アンヌが奥の本の山の中で、何かを発見したようだ。

209

通路の奥で、ぽっかりと開いた大穴を見つけた。
「上下にロープが伸びている。反重力を使った昇降リフターじゃなくて、ルドガーターの跡だな。昔、同じ物を見たことがある」と、ルドガー。
「ねえ、このロープを使って地下に降りられるんじゃない」ネイが名案を口にした。
さっそくボクたちは、実行に移した。ロープを伝って降りていくと、ちょど十字路の真ん中に着いた。

●東に進む……⇩76へ
●南に進む……⇩48へ
●西に進む……⇩148へ
●北に進む……⇩109へ
⇩277へ

210

「グフェッ！」
ハングリーエイプが、よだれをたらしながら体当たりをしてきた。
ふいをつかれ、ボクは道路に押し倒されてしまった。

209〜211

ボクを押さえつけたまま、ヤツは顔を近づけてくる。牙でボクのノドをかみ切ろうってわけか。させるか！

こん身の力をこめて、ボクはハングリーエイプの体をはねのけると立ちあがった！

「ギフェフェフェ！」ハングリーエイプは、一声吠え、ドウッと倒れた。

「ククク、なかなかのラブシーンだったぜ、ユーシス。ヤツァあんたに気があったりして」

「じょ、冗談じゃないですよ、カインズさん！」

さあ、先を急ごう（**戦闘Pプラス1、50メセタ入手**）。

⇩253へ

「ミキャキャ！」

「ウニャラ！」

「フー！」

カオスソーサラーに苦戦を強いられていたボクらの前に、ネコの大群が現われた。10匹や20匹なんてものじゃない。

「ニャゴ！（さがってて下さい！）」

ニャウを先頭に、ネコの集団はカオスソーサラーに襲いかかった。



211●ニャウの連れてきたネコの大群(たいぐん)が、カオスソーサラーに襲(おそ)いかかった！　さすがの魔道士(まどうし)もひとたまりもなかった。

212

腕にかじりつくものもいれば、顔を引っかくもの……。さらにネコの数は増え、次第にカオスソーサラーの体が見えなくなっていく。

しばらくしてネコがさあっと去ると、そこには、バラバラになった骨と、紫のマントが落ちているだけだった（**50メセタ入手**）。

「ありがとう、キミのおかげで助かったよ」

ニャウを抱き上げて、あごの下を軽くなでてやると、彼女（？）はゴロゴロいって、ボクの頬をなめてくれた。

そして、ボクの腕からするりと抜け、仲間とともにどこへともなく去っていった。

さあ、この荒れ果てた無人のビルを……。

●1階をそのまま進む……⇩306へ

●地下へ下りる……⇩292へ

212

ロボット警察の切札――アーミーアイ。

それは、大小のドームを2個はり合わせたようなメカだった。下部の小さなドームを回転させ、床から1メートルほどの所に浮かんでいる。

3機のアーミーアイは、ゆっくりとボクらの周囲をまわりはじめた。そして、レーザーを発射してきた！

「うっ！」何発かくらい、ボクらは床に転がった（HPマイナス2）。
「くそっ！」ルドガーは、横っ飛びして銃を撃った。アーミーアイの表面で火花が散った。
さらに、アンヌのメス、アーミアのスライサーが、敵ロボットを直撃！
だが——これだけの攻撃を受けても、アーミーアイは倒せなかった。こいつら、いったい何でできているんだ!?
満身の力をこめて、剣を突き上げた！
驚くボクたちに向かって、アーミーアイはリングを飛ばしてきた。それは、ボクらの体をくくり、自由を奪った。
「ちっ！　プラズマリングだぜ。こりゃ。も……うダメ……」
カインズの声は途中でとぎれた。ボクたちは、アーミーアイの出すガスに眠らされてしまった。

⇩250へ

213

「長引けば不利だ、テクニックを使おう！」
ボクはシビレる体をなんとか立て直すと、グラブトに耐えきれず、アッという間にレプタイルカぼてっ！　異常な重　力を生み出すグラブトにイトは地面に叩きつけられた。巨大な押し花なら
ぬ、押し翼竜のできあがりだ。

しかし、バーンウルフのほうはしぶとく、足を地面にめりこませながらも、なおも電流を放ってくる。

「セイッ！」――ボクはヤツの背に飛び乗ると、その額に剣を突きたてた！

ガオーン！　バーンウルフは一声上げると、その場にドウッとくずれおちた。

苦戦ではあったが、みんなとか無事なようだ（TPマイナス2、HPマイナス2）。

さあ、博士のもとへ急いで帰ろう！

⇩243へ

214

……暗闇の中に、怪物の姿が浮かびあがった。

ク・ブルーの巨体。

そして、その悪魔のような怪物を相手に戦う少女。

だが、怪物の力はあまりにも強大だ。剣1本で戦う彼女は、じわじわと追いつめられていった。

ボクは、すぐ近くでその戦いを見ていた。怪物のうなり声、彼女の息づかいがじかに伝わってくるような近さだ。しかし、少女を助けようにも指1本動かすことができない。

――ああ、また同じ夢を見ている。しかし、この夢は、いったい何を意味するんだ!?　あの怪物は!?　少女は!?　だれか教えてくれ!!

ボクの意識は、再び闇の中に落ちていく。

215

先制攻撃をかけたのは、ネイ・ファースト。
ファーストの左手から飛んだ爪が、ボクたちに突き刺さった！（HPマイナス3）
（ここでモノメイトを使うと、1個につきHPプラス2。スターアトマイザーを使うと、1個につきHPプラス5、TPプラス2）
●HPが6以上……⇩187へ
●5以下……⇩237へ

216

角にでたところで、ボクの足に1枚の紙がまとわりついた。
『★さびしい単身赴任生活をなぐさめるにはペットが最適！——ペットの店ウニャラハウス♡
★あなたもかわいいペットとお話をしませんか？——マジックハット。デザインも豊富にそろってます。
シャポーへ
※最近、マジックハットの類似品が出まわっております。ご注意下さい』
それは5年前の新聞広告の切れはしだった。

⇩181へ

215〜218

さて、この角を、

●東に進む……⇩249へ

●L字路(じろ)だ。ここを……。

●東に進む……⇩239へ

●南に進む……⇩268へ

●北に進む……⇩155へ

「アンヌ！」

力のない彼女が、真(ま)っ先(さき)に宇宙(うちゅう)へ飲(の)みこまれていった。カインズ、アーミア、ルドガーも続く。

「うわっ！」ボクもついに力つきた。アッという間(ま)に意識(いしき)を失(うしな)ったボクの体は、絶対(ぜったい)0度の宇宙を漂(ただよ)った。



END

先手必勝だ！　ボクたちは、ホイッスルが警告の決まり文句を吐く前に攻撃した。

「ば、ばか者ドモ、何ヲスルカ！　逮捕スルゾ!!」

「やれるものなら、やってみろ！」

ヤツらが戦闘体勢に入る前に、全機とも地面に叩きつけてやった。

「ザコ敵とはいえ、あっけないね。さあ、早くダムへ――うわっ！」

足元に鋭いビームが突き刺さり、ボクたちは弾き飛ばされた。横倒しになっていたホイッスルのビーム発射口が青白く光った！

そのホイッスルがふわりと浮き上がった。くそ、まだ生きているヤツがいやがった！

「抵抗シタナ。フフフ……ブチ殺シテクレルワ――グェ！」

いきなり、ホイッスルがバラバラになってくずれ落ちた。

「最近のロボットは、たちが悪くていけねぇな。おまえさん方も気をつけな」

彼がやったのか？　ホイッスルの残骸の間から、赤い服を着た男が現われた（**戦闘Pプラス1**）。

⇩172へ

ブーンと鈍い音とともに、ロボットのトレーサベースが現われた。

219〜221

「みんな、レーザーに気をつけるんだ！」
しかし、空中を自由自在に駆け攻撃してくるヤツに、どう戦ったらいいんだ！
トレーサベース　19＋バトルP（1のG）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のD）で戦います。
●敵よりPが上　……⇩289へ
●下　……⇩319へ

221

ボクはバーンウルフの放電を避け、ヤツの背中に飛び乗った。
ウルフは燃えるようなたてがみを逆立て、振り落とそうと必死だ。
「落とされてたまるか！　とどめだ！」
ボクは、ソードでヤツの首をかき切った。
首を失ってもなおバーンウルフは暴れ続けていたが、数分後、マルエラリーブに体当たり！　ドウとくずれおちた。
ヤツの背中から降りて振り向くと、ちょうどルドガーがレプタイルカイトを撃ち落としたところだった（**戦闘Pプラス1、TPプラス1、60メセタ入手**）。
「さあ、早く博士のもとにマルエラリーブを届けよう！」
⇩243へ

ボクらの攻撃は、サットマンの円形のボディにすべて弾き返されてしまう。

「こうなりゃ、運を天にまかせ……」

ボクは、ヤツの正面に立つと、愛剣で飛んできたビームを受け止めた。

ビームは反射し、サットマンの体を直撃！

爆発に巻きこまれないように、このL字路をボクらは……。

●東に進む……222

●南に進む……223

またL字の曲がり角に出た。

●南に進む……⇨252へ

●西に進む……⇨205へ

ズル、ズルルル。不気味な音をたて、デカホが現われた。

球状のヘッドから、無数のコードが伸び、タコのような形態をしたロボットだ。

デホ　14＋バトルP（1のD）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のH）で戦います。

●南に進む……⇨185へ

●東に進む……⇨101へ

222〜225

●敵よりPが上……⇩150へ

●下……⇩254へ

「まずは目を狙うんだ！」

ボクはジリジリっとヤツとの間合いをつめていった。

よし、今だと思った瞬間！

ボワーァアアアァ！

アーキドラゴンが火を吹いた!!

「うわちちちち！　そういうの使えるんだったら、最初っから教えといてほしいよな！」

なんてぼやいてるヒマはない。

炎に追われて逃げまどうしかない。

まさか、このまま丸焼きにされるのを、手をこまぬいて待っているわけにはいかないし。

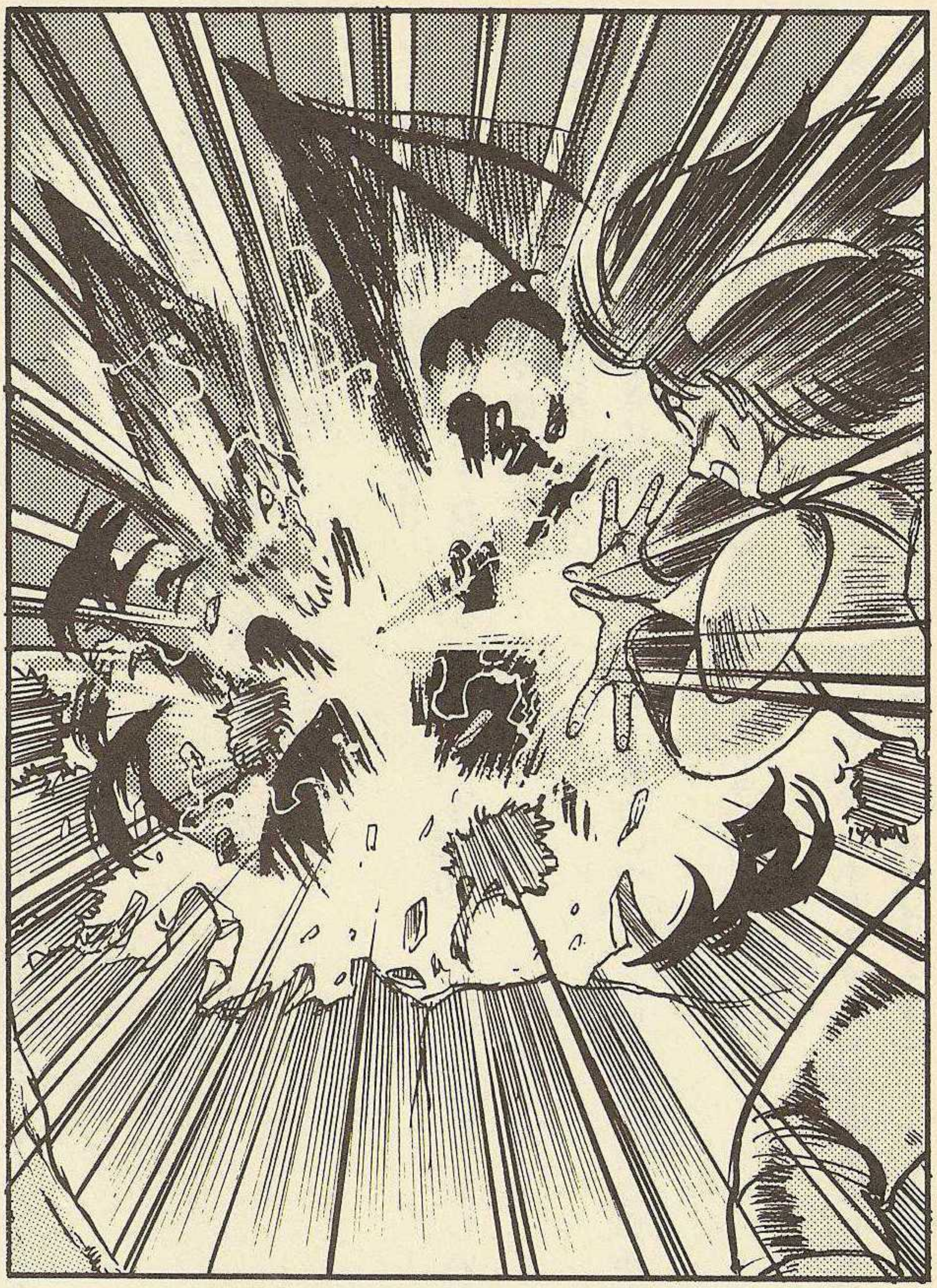
「そうだ、テクニックを使おう」

ボクは必殺のテクニック――メキドをアーキドラゴンに放った。

「ぎゃいいいいい！」

メキドのエネルギーはすさまじく、一瞬にしてアーキドラゴンを爆破してしまった。

「ふう、恐ろしい敵だったな」（TPマイナス5、HPマイナス2）



225●メキドだ！　ボクは、必殺のテクニックをアーキドラゴンに放った。さしもの強敵も一瞬のうちに吹っ飛んだぞ！

226〜227

炎ですすけた顔をふきながら、さっきの別れ道までもどると、左の裂け目へと進んだ。
もう、敵が待ち受けていることがないよう、祈りながら。
⇩325へ

226

次にボクらを待ち受けていたのは、宙に浮いた殺人メカ、バンリーダー 18＋バトルP（1のE）
ユーシスたち 戦闘P＋バトルP（2のF）で戦います。
●敵よりPが上 ……⇩279へ
●下 ……⇩308へ

227

ウーゾ島——千年ほど前は、大陸と陸続きにあり、砂漠だったともいわれている。
「これがウーゾ山か。かなり傾斜が急だな……」
ボクらは頂上にあるといわれるマルエラリーブめざし、急斜面を登りはじめたが、
「何か乗り物とかないのかしら？　足が棒のようだわ」
「アンヌ……。こんなところに乗り物なんかあるわけないでしょ？」
アーミアがアンヌをたしなめる。が、彼女もかなり苦しそうだ。
ちょうど目の前に、大きな樹が立っている。葉も茂っており、一息つくにはよさそうな

場所だが……。

●**一休みする**……⇨160へ

「すごい剣だな」ボクはその剣を拾い上げた。

すると、それはまるで意志でも持ったように、ボクに斬りかかってきた！

「しまった！　魔剣リビングブレードだったのか！」（**戦闘**Pマイナス1）

リビングブレード　19＋バトルP（1のC）で戦います。

ユーシスたち……⇨186へ

●**敵よりPが上**……⇨260へ

戦闘P＋バトルP（2のH）で戦います。

●**敵よりPが上**……⇨229へ

角を曲がったところで、怪物が待ちかまえていた。棍棒を持った茶色の巨人、フェイリアだ！

フェイリア　16＋バトルP（1のC）

ユーシスたち……⇨248へ

●**敵よりPが上**……⇨248へ

戦闘P＋バトルP（2のA）で戦います。

●**下**……⇨192へ

●**休まず登る**……⇨160へ

●**休まず登る**……⇨228

●**下**……⇨339へ

228〜231

バンの左右から突き出したガトリング砲が火を吹いた！

横っ跳びでそれをかわすアーミア。彼女の投げたスライサーは弧をえがき、バンのセンサーを切り落とした！　目標を見失ったバンの砲火は、味方のヘビーソルジャーを捕らえた。同志打ちだ！

カインズは、狂ったように撃ち続けるバンの後ろにまわりこんだ。エンジンに穴を開け、あっさりと動きを止める。ボロボロになったヘビーソルジャーにとどめを刺すのは、もっと簡単だった。

「さあ、早くカードを探さなきゃ。どっちに行く？」

●北に進む……⇩263へ

●東に進む……⇩202へ

231

「しかし、この装置はどうやって操作するんだ？」

「ここにカードの差しこみ口がある。どうやらコントロールは、カード式のようだな」

「それじゃ、まずカードを探さなきゃ」

そこに突然、巨大なロボットが2体も現われた！　歩行戦車型のヘビーソルジャーと浮遊攻撃型のバンだ！

●テクニックを使う（TPが9以上の人のみ）……⇩381へ
●普通に戦う……⇩283へ

232

「グフェッ！」ハングリーエイプが、よだれをたらしながら、体当たりしてきた。完全にふいをつかれた。ボクは剣を落し、道路に押し倒されてしまった。
「ううっ」ヤツの鋭い爪が、肩に食いこむ（HPマイナス1）。
さらにヤツは顔を近づけてくる。牙でボクのノドをかみ切ろうってわけか。させるか！
こん身の力をこめて、ボクはハングリーエイプの体をはねのけた。
「ユーシスくん！」
ルドガーが剣を投げてくれた。それを受けとめると、敵の額の目に突き立てた！
「ギフェフェ！」ハングリーエイプは、一声吠え、ドウッと倒れた。
「ククク、なかなかのラブシーンだったぜ、ユーシス」
「じょ、冗談じゃないですよ、カインズさん！　マジでやばかったんですからね」
さあ、先を急ごう（戦闘Pプラス1、50メセタ入手）。
⇩253へ

「この手のカギは、軍隊で見たことがあるぞ。たしか、キーチューブといったな」

ルドガーは、壁はゆっくりと上がっていった。

その奥はさっき拾った円筒を、壁の穴に差しこんだ。すると、

こうには大きな部屋だった。壁一面にコンピュータの装置が並び、

「ここは？　おまえたちが来たがっていたアメダスのコントロール室だよ」

暗がりの中から、女が現われた。ボクはその姿を見て、自分の目を疑った。

色のレオタード、そして尖ったネコのような耳！　ネイにうりふたつだ！

「おまえは、何者だ!?」

「わたしは、ネイ・ファースト。2年前に科学者どもは、人間と動物をかけあわせる実験をしていた。だがその最中に、バイオシステムで事故が発生した。なんでも、予想していなかった大量のエネルギーが送られてきたそうよ。――その事故の後に生まれたのが、このわたし」

「人間と動物のかけあわせだって？」

「でも科学者は失敗作だと言って、わたしを殺そうとした。けれど、わたしはバイオシス

テムから動物のDNAデータを引き出して、逃げた」
「DNAデータ……ということは、バイオモンスターに殺されたルドガーが叫んだ。
妻子をバイオモンスターを作ったのはおまえだな！」
「ふっ、そのとおりさ。自分勝手に自然をいじり、命をもてあそぶ人間に復讐するために
やったんだ！　――もっとも、わたしの中には、それをジャマするもうひとりのわたしが
いたけどね……」
「そ、それはひょっとして……」いやな予感が、ボクの頭をかすめた。
「そう。あなたたちがネイと呼んでいる、その娘のことよ！　あなたたちは、仲間だと思
っているかもしれないけど、本当はほかの醜いモンスターと同じなのよ」
「違う！　違うわ！」ネイが叫んだ。「わたしは、ネイ・ファーストの中にいるのがつらく
て分裂したのよ！　モンスターを作って復讐するなんて……。わたしは、そんなあなたを
認めるわけにはいかないわ！」
「生意気な！　このわたしと戦おうとでもいうのか、ネイ！」
ネイ・ファーストの背後に、オーラのようなものが浮かび上がった。それは、怒り狂う
彼女自身の顔となった。
「しかたがないわ。わかって、姉さん！」
ネイ・ファースト　13＋バトルP（1のE）

234～236

ネイ　戦闘(せんとう)P（現在の戦闘Pから5を引く）＋バトルP（2のJ）で戦います。

●敵よりPが上……⇨177へ

●下……⇨120へ

234

現在のTPにバトルP（1のD）を足(た)すと？

●12以上……⇨206へ

●11以下……⇨189へ

235

L字の曲がり角に出た。

●南に進む……⇨180へ

●東に進む……⇨204へ

236

「うにゃら！」「みーみー」「ゴロニャーゴ！」

ネコがうじゃいるL字(じ)路(ろ)に出た。

●マジックハットをかぶる……⇨125へ

●どちらの帽子(ぼうし)も持っていない……⇨269へ

「くたばれ、人間！」

ネイ・フーは間合いを

「ぐわっ！　ボクは腹を貫かれて、床に転がった。血の味を覚えたヤツの人間を憎む心が、ボクを破ったのだ。

たそのスピードに、仲間たちは逃れるすべがなかった……。

THE END

237

ーは間合いがつかめない！

普通の剣と違って、ライト・セーバーは、ほかの仲間にも襲いかかった。人間離れし

238

T字路に出た。さてと……。

●東に進む……⇨282へ

●北に進む……⇨268へ

239

「今度はT字路か……」

●西に進む……⇨318へ

237〜240

みんなの表情に焦りの色が浮かぶ。急がなければ……。

●西に進む……⇩217へ

●東に進む……⇩218へ

240

「よく来たね、ユーシス君。わたしの名は、ルツ。アルゴル最後のエスパーだ」

コールドスリープのカプセルから出てきた男は、そう名乗った。青い髪をたらしたすごい美青年だった。彼が、千年も前から生きているなんて……。

「わたしがなぜキミの名前を知っているのか、不思議に思っているようだね。キミは覚えていないだろうが、わたしたちが会うのはこれで二度目だ。キミは10歳の時、両親と宇宙へ旅する途中、事故にあった。そのときわたしは目覚め、光の力でキミを呼び寄せて蘇らせたのだ」

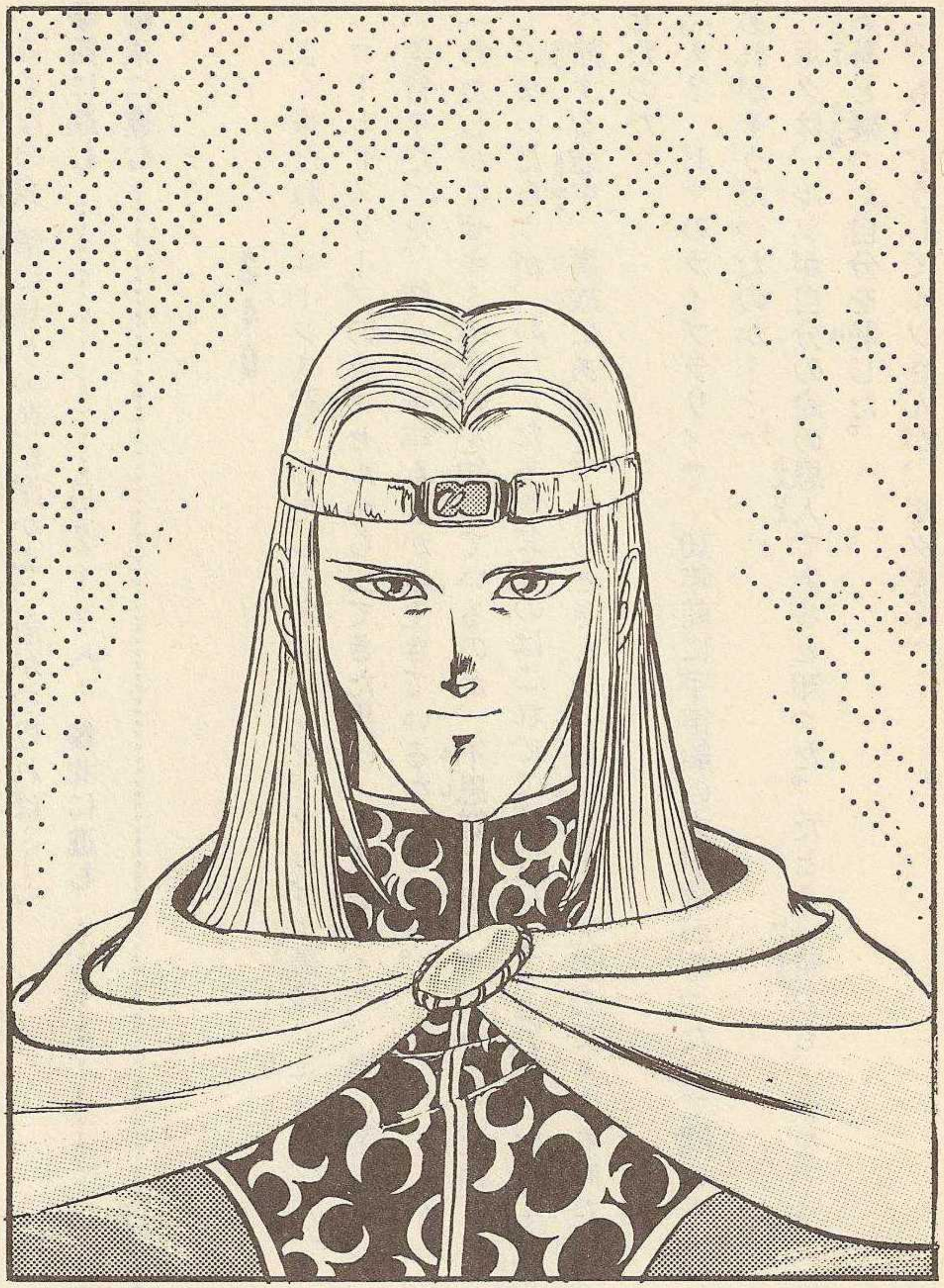
「え？　ゼマのライブラリィで、10年前に宇宙船の大事故があったって聞いたけど……。あれがそうだったのか……」

ボクは、ルツが自分の命の恩人であると知った。たとえ一時でも、彼をアルゴルを狙う黒幕と疑った自分を恥じた。

「でも、どうしてルツさんが、ボクを？」

●北に進む……⇩198へ

●278へ



240● 「よく来たね、ユーシス君。わたしの名は、ルツ。アルゴル最後のエスパーだ」千年間の眠りから覚めた男が言った。

「コールドスリープに入っていたわたしの目を覚ましたのは、アリサの悲鳴だった」

アリサ……？　聞いたことがある名前だ。とても懐かしい感じがする。

「そう、キミはかつてアルゴルを守るために戦ったアリサの子孫なのだ。ボクの祖先……。アリサが闇の力――ダークファルスと戦っているあの夢『光景』がまざまざと浮かび上がった。

そうか！　ボクの頭の中で、あの

「ダークファルスとは、かつてアルゴルを滅亡させようとした魔物。だが、アルゴルを滅亡させようと企む者は、いなくなったわけではないのだ。つまり――にあ、ボクの妹だった女の子の名だ。まさにその名にふさわしい。ネイ、アリサの前に敗れた。しかし、ネイ・ソードとネイ・シールドを！」

ネイ……。あの邪悪な者に打ち勝つための武器を手にしなさい。ネイ、

「それらをイクストーの地下迷宮から持ち出すことができたなら、わたしはキミに良からぬ者の企みを話すことにしよう」

「試験というわけですか……。ボクに邪悪な者と戦う力があるかどうか」

「そうだ。もしやる気があるのなら、まずエアロプリズムを見つけたまえ。それがなくては、ネイの武器は見ることもできない」

もちろん、ボクにやる気がないはずはなかった。

⇩302へ

ボクは地響きをたてて迫りくるネオ・マンモスに向き直ると、剣を抜いた。
「でかい耳だな。私が掃除してやろう！」ルドガーが横からショットガンをかまえる。
ネオ・マンモス　17＋バトルP（1のB）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のC）で戦います。
●敵よりPが上……⇩305へ

241

242

「くらえ！」ルドガーのショットガンが火を吹く。しかし、それは丸みを帯びたヤツのボディにすべて、弾き返されてしまった。
「こうなりゃ、跳弾となってボクらを襲った！（HPマイナス1）
おまけにそいつはちかばちかだ！」
ボクはヤツの正面に立つと、愛剣で飛んできたビームを受け止めた。
ビームは反射し、サットマンの体を直撃！
爆風に巻きこまれないように、このL字路をボクらは……。
●東に進む……⇩101へ
●南に進む……⇩185へ
●下……⇩329へ

241〜244

「これは、すごい！　本物のマルエラリーブじゃないか！」

マルエラリーブを届けると、クニヌ博士は興奮したように叫んで、しばらくする

「大成功だ！　さあ、これが酸素ガムだ。これさえあれば水の中でも、地上と同じように呼吸ができるよ」（酸素ガム入手。アイテムリストに記入）

ボクらは博士にお礼をいって、再び旅立つことにした。

●武器屋に行く……⇩182へ　●道具屋に行く……⇩157へ

●アメダスに行く……⇩203へ

243

素手のボクたちが、こいつに勝つにはテクニックしかない。しかし、そのパワーも残り少なかった。

ボクらがためらっているうちに、ポリツァイSSが先制攻撃をかけてきた。

「伏せろ！」

スクリーンが爆発し、グチャグチャになった部品が飛び散った。それらが、すごい勢いで外に吸い出されていく。

244

そ、外だって！　このバカロボット、ミサイルで壁に穴を開けやがった！
「みんな、何かにつかまるんだ!!」
外は真空だ。すさまじい気圧の差で、室内の空気が外へと流されていく。ポリツァイSも外へ吹っ飛ばされていった。

●HPが10以上……⇩267へ

245

●9以下……⇩218へ

ホイッスルは、いきなりビームを放ってきた！　その1発が腕をかすめた！（HPマイナス1）
「うわっ！　殺す気か!?　逮捕するんじゃなかったのか！」
「ヤカマシイ！　抵抗デキナイヨウニシテ運ブンジャ！」
「クタバレ、反逆者ドモガ。フフフ……グェ！」
ロボットたちは、ボクらを包囲した。ビーム発射口が青白く光る。
いきなり、1機がバラバラになってくずれ落ちた。残ったものもすぐに同じ目にあった。
「最近のロボットは、たちが悪くていけねえな。おまえさん方も気をつけな」
彼がやったのか？
ホイッスルの残骸の間から、赤い服を着た男が現われた。

⇩172へ

245〜248

バンの左右から突き出したガトリング砲が火を吹いた！　ヘビーソルジャーも、負けじとビームを発射してくる！

その猛攻撃の前に、ボクたちはまるで身動きできなかった。

――やがて、ボクたちも、ありとあらゆるものが、圧倒的な流れの中にのみこまれた。

ロボットもボクたちも、ありとあらゆるものが、圧倒的な流れの中にのみこまれた。

パセオ、クエリス、ゼマ、そのほかいくつもの都市が大洪水にのまれていった。

THE END

十字路だ。どの方向へ進もうか？

●東に進む……⇩321へ
●南に進む……⇩226へ
●西に進む……⇩340へ
●北に進む……⇩264へ

アーミアの放ったスライサーを、フェイリアはひょいとかわした。

得意げなポーズをとると、ボクめがけて襲いかかってきた。猛然と棍棒をボクの頭に振

り降ろす！
スイカみたいに頭を叩き割られ、ボクは床に転がら――なかった。
怪物は不思議そうに、ボクの顔と棍棒を見比べた。棍棒は根元からなくなっていた。
バカめ！　アーミアのスライサーがもどってくる途中で、棍棒を切り落としたんだよ。
ボクはうろたえているフェイリアの腹を貫いた！　あわれなバイオモンスターは、もんどりうって倒れた。
フェイリアの倒れたあたりに、円筒形のカギが落ちていた（**キーチューブ入手。アイテムリストに記入。2回目以降は関係ありません**）。
●東に進む……⇩115へ
T字路だ。どっちに行こうか。
●東に進む……⇩249
●南に進む……⇩296へ
●北に進む……⇩175へ
●西に進む……⇩216へ
……⇩31へ

う……。ここは……？　ボクは、薄闇の中で目が覚めた。いったい、どうなっているんだ？　アーミーアイに捕まったまでは覚えているのだが。

「ここは、『ガイラ』という人工衛星の中だ！　外は宇宙だから、もう逃げることはできないぞ！　マザーブレインを狂わせた罪は重い。死刑になるのをここで待つんだな」

あざ笑うかのような声が、天井から降ってきた。

「宇宙の牢獄というわけか。たしかに脱出は無理だな」と、起き上がったルドガー。ほかのみんなも、とりあえずは無事なようだ。

「いや、あきらめるのはまだ早い。マザーブレインのシステムを使って、モタビアを破滅させようとしているヤツがいるのは間違いないんだ。それが誰かを突き止められないで、死ぬわけにはいかない！」

それからしばらくした頃――ボクの執念が通じたのか、突然、『ガイラ』そのものを揺さぶるような、大きなショックがあった。不気味な警報サイレンが鳴りはじめる。爆発か？

「しめた、扉のロックが外れている。今のうちに脱出だ」

「でも、外は宇宙よ」

「『ガイラ』のどこかにシャトルがあるかもしれない。それを探すんだ！」

牢獄を出たボクたちは、赤いライトが点滅する通路を進んでいった。人工重力が働いて

いるため、歩くのに困難はなかった。やがて、分岐路に出たが。

●右に進む……⇨294へ

●左に進む……⇨272へ

251

「それはリビングブレードよ！　剣の形をした怪物だわ！」

アーミアが叫んだのと同時に、それは意志でも持ったかのように斬りかかってきた！

なんとかそれを左にかわし、剣を抜く。

リビングブレード　19＋バトルP（1のC）で戦います。

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のH）で戦います。

●敵よりPが上……⇨260へ

●下……⇨339へ

252

角を曲がったとたん、巨大な獣が現われた。

炎のようなたてがみを持つオオカミ――フレアウルフだ！

ユーシスたち　15＋バトルP（1のB）で戦います。

●敵よりPが上……⇨274へ

●下……⇨151へ

251〜254

無人のA地区。画一化された低い建物の中に、ふたつだけ高いビルがある。

「ねえ、ガス……大事故、全員退去……。これはいったい何なに？」

シルカが拾った。すでにボロボロで、大見出しの一部しか読み取ることができない。

「とにかく、調べてみよう。あのふたつのノッポのビルから当たってみるか！」

●右のビルに入る……⇩390へ

●左のビルに入る……⇩280へ

253

デホのビームが、腕をかすめた！

くうっ、なんて痛みだ。あと2ミリ、ビームが内側にずれていたら、ボクの手はスッパリと落とされていただろう（**HPマイナス1**）。

『ユーシス……』

ネイの顔が頭をよぎった。そうだ、彼女の死をムダにしないためにも、こんなところでぐずぐずはしてられない。

あのヤツの配線さえ切ってしまえば……。

ボクは姿勢を低くとると、タコの足のように伸びたデホの配線を、切り落とした。

254

ぐわっしゃーん！　デホは、バランスを失いその場にくずれ落ちた。
ふう、なんとか勝利をおさめ、ボクらは……。
●西に進む……⇩198へ

マザーブレインは、七色のまばゆい光に包まれ、ボクたちの前に立ちふさがった。
マザーブレイン　38＋バトルP（1のF）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のC）で戦います。
●敵よりPが上……⇩360へ

256

地下だというのに、この迷宮の中はちっとも暖かくはなかった。
モタビア生まれのボクにとって、この寒さはけっこうこたえる。
ここまで温度が低いと「冷たい」「寒い」という感覚とはちょっと違う。
「痛い」という感じだった。
この寒さにまいっているのは、みんなも同じようだ。
「ちくしょう、冷えやがるぜ。本当にネイなんとかってあるんだろうな？」カインズが、

●南に進む……⇩278へ
●下……⇩330へ

255～256



256●赤いフードとマントを身にまとった不気味な怪人たち。ギ・ル・ザークは、鉤爪から放電し、ボクたちに迫った。

白い息を吐きながら言った。
「多分ね」
「多分ってなんだってあ。とにかく早いとこ見つけなきゃ、シモヤケになっちまうぜ」
「シモヤケ程度で済むと思っているのかね」
「なんだって？　え？　今、言ったのは誰だ!?」
ボクたちは慌てて顔を見合わせた。今の声は、ボクたちのものではなかった！
薄暗い一角に、赤いフードとマスクに身をまとった怪人が立っていた。それも3人。
「我が名は、ギ・ル・ザーク3人　28＋バトルP（1のC）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のF）で戦います。
●敵よりPが上……⇩359へ　●下……⇩382へ

257

というわけで、ウラ技を使ったあとがきの続きです。ここでは協力者の橋爪啓氏の紹介をしませう。氏とは以前『桃太郎電鉄』で一緒に仕事をしました。『桃鉄』と本書『PS II』ではえらい違いのようですが、氏の特徴である「ヘンな擬音の使い方」はここでも見ることができます。『桃鉄』のときには、ふにゃらんこ（女の子の胸に触る音。編集からプ

257〜259

リリンにしなさいとクレームがついて直された）、プフーイ（おならの音）、レロレロウ
ッチュウ、ツンコ（キスの音らしい）、ズボリンコ（穴に落ちる音）、グニョグニョのベッタ
ラン（塩辛になる音）、ベトベトのドロロンバーイのプーン（カブの腐る音）などがありま
した。本書でそんなノリの所があれば、それは氏の書いた項目です。たぶん。

通路に追手のロボットが現われた！　スマートな人型ロボット――ポリツァイだ！

ポリツァイ　13＋バトルP（1のH）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のF）

●敵よりPが上　……⇩183へ

258

●下　……⇩276へ

●下　……⇩357へ

259

突然、角の所で床が裂けた！　赤い炎が噴き上がる。

「キングレムレス27＋バトルP（1のG）で戦います。

キングレムレス　27＋バトルP（1のG）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のA）

●敵よりPが上　……⇩309へ

「キングレムレスよ！　この下に潜んでいるんだわ！」シルカが叫んだ。

●下　……⇩357へ

リビングブレードの猛攻を右に左にかわし、チャンスを待った。
敵の動きが止まった。今だ！
「トオ！」わが愛剣は、見事にリビングブレードを粉砕！（200メセタを入手）
だが、喜ぶのは早かった。どうやらあたりにたちこめていたのは毒ガスだったらしい。
「い、息が苦しい……、早くここから出るんだ……」
ボクはルドガーに背負われるようにして、なんとかそのビルを抜け出した。

●B地区に行く……⇨122へ
●左のビルに行く……⇨260へ

ボクらは階段を上り、上の階へとやってきた。
階段を上りきったそこは、L字路になっていた。

●西へ進む……⇨238へ
●北へ進む……⇨296へ

ヴィ――ン！……⇨262へ

260〜263

ダークサイドのライト・セーバーと、ボクの剣が火花を散らした。鍔ぜり合いにもつれこんだのはいいが、押さえられぎみだ（HPマイナス2）。

●HPが18以上……⇩255へ

●17以下……⇩284へ

263

発見。止マレ、止マラナイト撃ツゾ」

ンがボクらの前に立ちはだかった。円筒をいくつも重ねあわせて作られたロボット だ。

「侵入者、

ボクらはとっさに立ち止まったが……。

ーン！　突如、サットマンは人型ロボに変形、足から小型ミサイルを撃ってきた！　ボクらの周囲でそれらは炸裂した！

「このウソつきロボ！　止まったのに撃ってくるんだもんな！」

「ウルサイ。止マッテモ、止マラナクテモ、指令ハヒトツ、殺ス！」

サットマン　14＋バトルP（1のA）

ユーシスたち　戦闘P（2のF）で戦います。

●敵よりPが上……⇩222へ

●下……⇩242へ

L字路に出た。

●西に進む……264

●南に進む……265

●南に進む……⇩220へ

こんな所でムダな力を使うことはない。ボクたちはトレーサーから逃れた。角にあったハシゴを上り、上のデッキに出た。

⇩247へ

ちょうど起こった爆発のどさくさに紛れて

⇩287へ

ネオ・マンモスの振り上げた足をかいくぐり、正面のビルに逃げこんだ。

「ふう、なんとか踏みつぶされずにすんだな。でも、これまたさびしいビルだな」

「ねえ、これなにかしら」

アンヌが拾ったのは、アウクバルとアルテプラノの地図だった（地図入手）。

「よし、これさえあれ――!!」

ズズーン！

ビル全体が激しく左右に揺れ、床と壁に亀裂が走った。

⇩293へ

穴の向こうは、絶対0度の宇宙だ。
ボクは、必死になってパイプの切れはしにしがみついた。腕がちぎれそうなくらい痛い。
ここでこうしていても、いずれは死んでしまうわけだが、ボクは最後まで抵抗した。頑張れば、万にひとつでもチャンスがあるはずだ。ほかのみんなも同じ考えのようだった。
部屋の空気もほとんどなくなり、ボクの意識は除々に薄れていった……。⇩214へ

267

「まあ、かわいいウサギさんたち♡」
アンヌの言葉に振り返ると、そこには確かにウサギが数匹。まてよ、そいつらは！
「アンヌ、そいつから離れろ！」ボクが叫ぶのとほぼ同時に、
「キキキー！」ウサギたちが牙をむきだしにして、飛びかかってきた。
「ちっ、ダーティー・アンゴラか！」
ルドガーがショットガンをかまえる。全員戦闘態勢だ！
ダーティー・アンゴラは、自らの腹を引き裂くと、腸をボクめがけて投げつけて来た！
その腸の先には鋭い牙が！　スプラッター怪物め！
ダーティ・アンゴラ　17＋バトルP（1のA）

268

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のJ）で戦います。

●敵より P が上 ……⇩291へ

●下 ……⇩195へ

269

「ニャーニャー！」

ネコたちが足にすり寄ってきた。連れていってやりたいが、そうもいかない。

ごめんよ……。心でわびつつボクらは進んだ。

●東に進む ……⇩94へ

●南に進む ……⇩321へ

270

「ははははははははは!!」

「ははは、なにものだ!?」

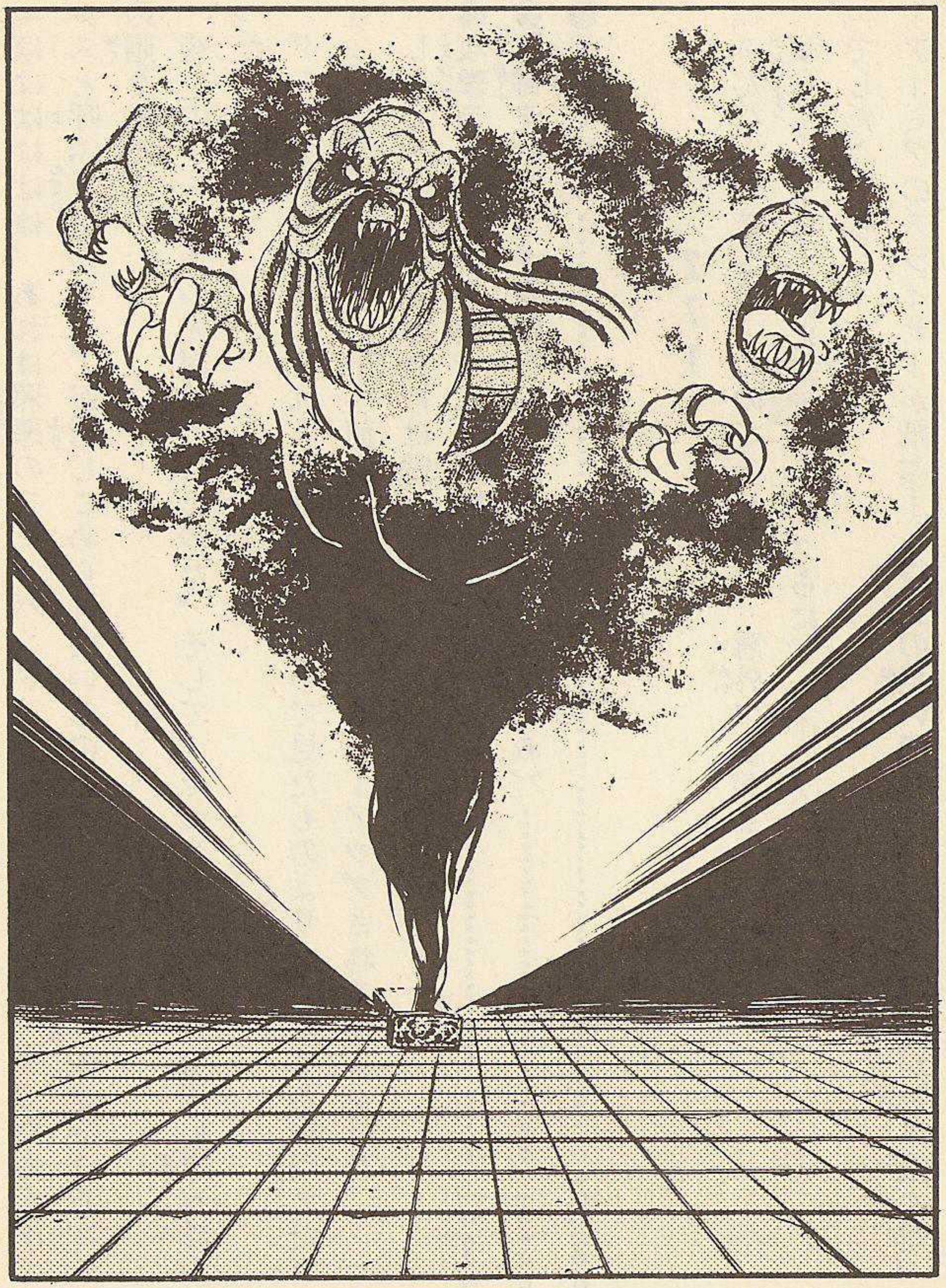
「ははは、ここまで来れる人間がいたとは思わなかったぞ。まずは誉めてやろう。だが、ここまでだ。まもなく、キミたちには死んでもらう」

「なんだと！」

「ユーシス、あれ」アーミアが広間の中央にある箱を指さした。

箱が、ゆっくりと開きはじめた。

269~270



270●箱の中から巨大な影が浮かび上がった。凶悪な怪物の姿に実体化する。千年前よりパワーアップしたダークファルスだ!!

「ははははは、あれは邪悪のワナ、パンドラの箱だ！　中には、キミたちがダークファルスと呼ぶ災いのすべてが封じこめられているのだ！　これは我々の世界からキミたちへの贈り物だ！」

箱の中から、赤い光がほとばしった。そして、その光の中に巨大な黒い影が浮かび上がった。

ダークファルス!!　それは、ボクが夢の中で見たものよりも、はるかに巨大だった。顔も3つに増えている。千年前より、はるかにパワーアップされているようだ。

しかし、今のボクたちには戦うしかない道はない！

●攻撃テクニックを使う（TP10以上の場合のみ）……⇨322へ

●防御テクニックを使う（TP6以上の場合のみ）……⇨354へ

●武器で戦う……⇨307へ

271

「みんな！　首だ!!　このヤツは、意外に首がもろいんだ！」

頑丈なクーリー61に苦戦するボクらに、カイトの指示が飛ぶ。

「でしたら、私が！」

アーミアのスライサーが飛ぶ！　彼女の狙い通り、クーリーの首が弾け飛んだ。

271～273

さて、この……。

●西に進む……⇩249へ

272

「きゃっ！」

「いてて、何だこりゃ！」

先頭を歩いていたアンヌとカインズが、いきなり飛び跳ねた。床に電流が流れていたのだ（戦闘Pマイナス1）。

これはまずい。ボクたちは、通路を引き返した。

●南に進む……⇩282へ

273

「あれは何かしら？」ネイがパイプのすき間から、白い大きな箱を見つけた。

「コンテナだな。野盗どもの物か？」

●カギがある……⇩39へ

●ない……⇩71へ



フレアウルフは尻尾の先から放電した！　青白い光がネイの足元で弾け、彼女はもんどりうって倒れた。

「こい、おまえの相手はボクだ！」

怪物は振り向きざま、跳びかかってきた。勝負は一瞬！　ボクは満身の力をこめ、フレアウルフの頭を叩き斬った！　怪物は血を噴き上げ、その場にくずれ落ちた。

「大丈夫かい、ネイ」ボクは妹を抱き起こした。

「ええ」彼女はにっこりと微笑んだ。

この先、ボクたちは、

●西に進む……⇩193へ

274

剣で何度も叩き落としても、スニフィラビットは、次から次へと牙の生えた内臓を投げつけてくる。

275

「痛っ！」そのうちのひとつが、肩にかみついてきた！（HPマイナス2）

なんとかそれを振り落としたものの、ボクの右手にはいく筋もの血がしたたり落ちる。

が、しばらくすると、ウサギたちの攻撃が鈍りだした。そう、内臓を投げすぎて、投げる

●北に進む……⇩223へ

274～276

ものがなくなってしまったらしい。
「……なんかマヌケな展開だなあ……」
「ユーシスタ入手）勝ったからいいんだよ！　それより、こいつらの金、いただこーぜ」（50メセとにかく、先を急ごう。

⇩378へ

276

ポリツァイは、ヒザから小型ミサイルを発射してきた！
まったく予想外の攻撃だった。慌てて床に伏せたが、背後からの衝撃をまともにくらってしまった（HPマイナス1）。
ロボットが飛んできた弾片が、ボクたちの背中を打った。
さに飛び出そうとするミサイルの弾頭を切断！　ポリツァイは自爆した！
「まったく、場所を考えて武器を使って欲しいものね」
ジャマ者を片づけたボクたちは、L字路を、

●西に進む……⇩180へ
●北に進む……⇩204へ

それは帽子だった。

その帽子のタグには、マジックハットと書かれていた（**マジックハット入手。ただし、2回目以降は関係ありません**）。

さっきの通路にもどると、今度は……。

●南に進む……⇨238へ　●北に進む……⇨249へ

277

L字路に出た。そこには、昇降リフターもあった。

●西に進む……⇨278へ　●北に進む……⇨224へ

●リフターに乗る……⇨299へ

278

ガトリング砲の雨あられをかいくぐり、カインズがヤツに飛び乗った！　そして、目にもとまらぬ早業で、バンリーダーを解体しはじめたじゃないか。

「よし、みんな伏せろ！」そう言ってカインズが飛び降りた瞬間、バンリーダーは物凄い爆発音を上げ、砕け散った。

279

277～280

まるでギャグだな……。とにかく敵を倒したボクらは、T字路を、

●東に進む……⇩342へ

●北に進む……⇩333へ

●西に進む……⇩247へ

280

主を失ったそのビルのフロアーを見てまわるが、特になんの異常もみられない。

「リフターで上の階に行ってみる？」

アンヌがリフターを見つけた。が……。

「なんでえ、これ壊れてて動かねえぜ。おっと、オレが壊したんじゃねえぜ！」

「ホホ、カインズさん。誰もそんなこと言ってなくってよ。とにかく、上に行きたければ、階段でどうぞってことね。それとも、ほかへまいりますか？」

アーミアが首を傾け、ボクにたずねた。

●上の階に行く……⇩261へ

●B地区に行く……⇩12へ

●右のビルに行く……⇩390へ

●C地区に行く……⇩2へ



「なんだ、行き止まりじゃないか――うわ！」

振り返ったボクらの目の前に、首をもたげたアーキドラゴンが現われた。

こいつは強敵だ！

テクニックで戦うか、それとも武器を使うか？（テクニックで戦うにはＴＰが14以上でなければなりません）

●テクニックで戦う……⇩225へ

●武器で戦う……⇩338へ

281

L字路に出た。そこには、さっき上ってきた階段があった。

さて、このまま降りて別のビルに行くか、さらにこのビルを調べるか。

●西に進む……⇩238へ

●別のノッポビルに行く……⇩296へ

●北に進む……⇩390へ

282

ボクたちは、ロボットども相手に戦闘体勢をとった。

ヘビーソルジャーとバン　17＋バトルＰ（1のＣ）

283

281〜285

ユーシスたち

●敵よりPが上

戦闘P＋バトルP（2のJ）で戦います。

……⇩230へ　●下……⇩246へ

284

カッシーン！、ダークサイドのライト・セーバーに、剣を弾き飛ばされてしまった！

なんてことだ、ああ、みんな、後のことはたのんだぞ！

頭上にヤツの邪剣が光る！

END

285

カインズとアーミアのスンヌの投げた刃物が、ダークファルスの額に突き刺さった！

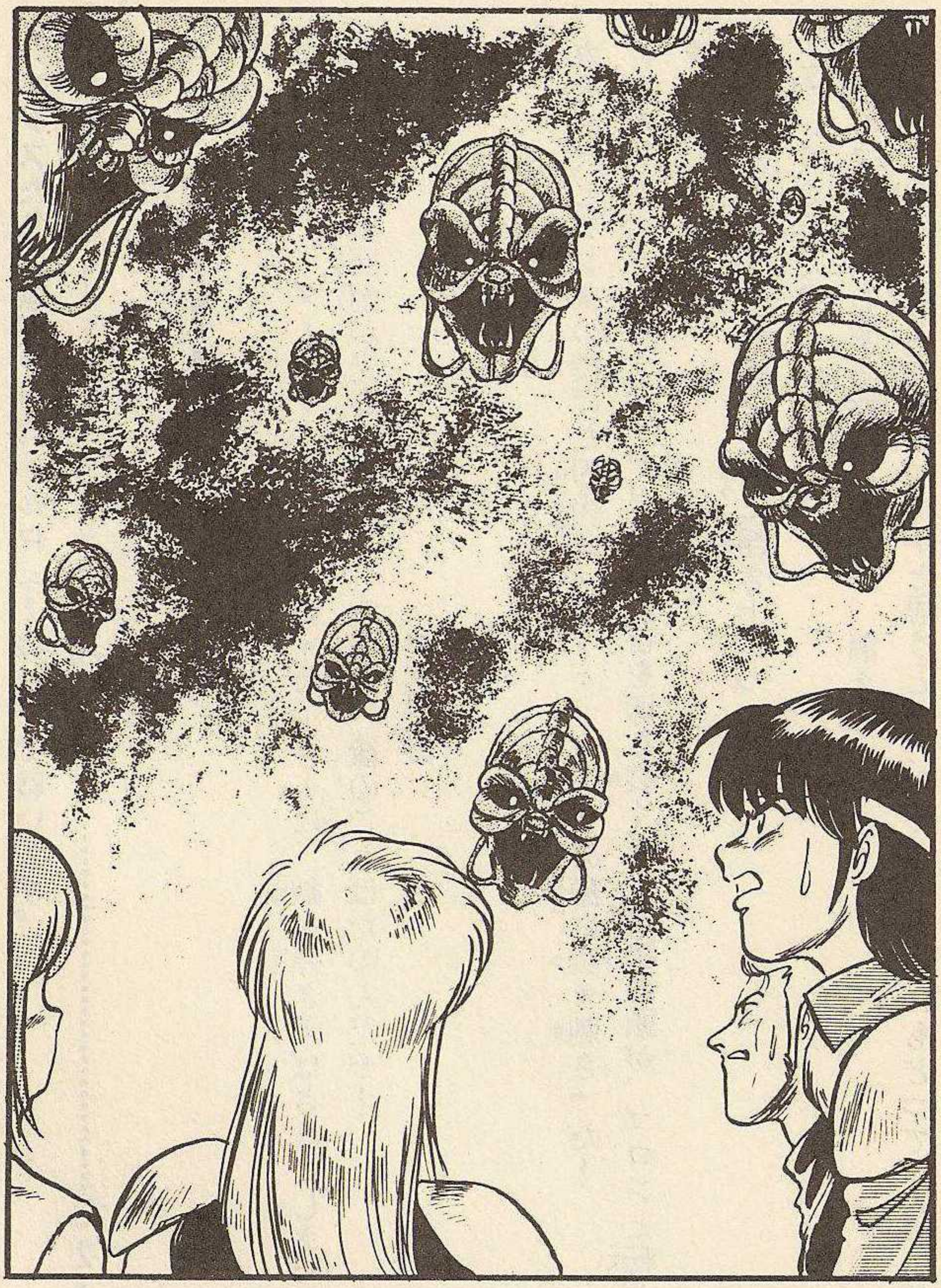
やったか！　ライサーが、ヤツの右の首を切り裂く！　怪物の頭が、ゴロンと転がった。

突然、落ちた、ヤツの頭が、宙に浮き上がった。

どういうことだ？

ダークファルスの頭が無数に現われ、消えていった。

そして、視界が真っ赤になったかと思うと、再びもとの状態にもどっていた。ちぎれた



285●いったいどういうことだ!?　ダークファルスの顔が無数(むすう)に現われては消えていく。幻覚(げんかく)を見せられているのか……？

はずの怪物の頭は、いつの間にかまたくっついている。
幻覚でも見せられたのか？
ほかの仲間も同じものを見たのか、口を開けて呆然といった顔をしている。
変だ。
ダークファルスは、不気味な表情でボクを見おろしているが……。
●テクニックで攻撃 ……⇩337へ
●様子を見る ……⇩370へ

286

ウーゾ島に向かって出発。ボクらは、ひとかたまりになって泳ぎはじめた。
島まであと1キロくらいに近づいた時。ボクは、アンヌの姿がないのに気づいた。
「ユーシス、大変よ！　囲まれている！」ネイが叫んだ。
波間のいたるところにエビ茶色の怪物の姿が見えた。バイオモンスターのシーシザースだ！　アンヌもこいつらにやられたのか!?
シーシザースどもは包囲をせばめてきた。アーミアのスライサーもルドガーの銃も水中では効果がない。ヤツらの攻撃の前にボクたちは、ひとたまりもなかった。
くそ、遠回りをしてでも乗り物を手に入れておくんだった。

END

そこは、巨大なスクリーンに、アルゴル太陽系の各惑星の運行図が表示されている。ルドガーが装置を操作し、『ガイラ』の現在位置をスクリーン上に映した。

「大変だ！　パルマ星に向かっているぞ！　もう時間がない」

ボクたちは、コントロール室を調べた。どこかに、軌道を変えるシステムはないのか!?

ガチャン。部屋に金色のロボットが入ってきた。

「無駄ダ。ココデ、オ前タチハ死ヌノダ」

●TPが8以上……⇩303へ

●7以下……⇩244へ

212

「いや……まだですが」

「ならばもう一度、迷宮の中に入りたまえ。言っておくが、この先待ち受けている『敵』に比べれば、この地下迷宮の怪物などかわいいものだぞ」

たしかにそうかもしれない。ボクたちは、ルドガーの迫力に押されるように、再び降りていった。最初の曲がり角を、

●南に進む……⇩355へ

●西に進む……⇩328へ

287

288

287～290

289

「かたまってたんじゃやられる、散るんだ！」

トレーサベースのレンズでも、6つの目標は追いきれない。

さすがのベースの目を欺くため、ボクらはそれぞれの方向から攻撃を開始した。

「今だ！」

ジ、バチ、ドガーン！

ボクはヤツのスキをついてその真下に潜りこみ、剣を突き立てた！

バラバラになったトレーサベースの破片が、ボクの頭上に降りそそいだ。

この後、

●東に進む……⇩264へ

290

L字の曲がり角を、

●東に進む……⇩259へ

またT字路だ。

●北に進む……⇩320へ

●南に進む……⇩334へ

●南に進む……⇩340へ



ボクはダーティ・アンゴラの腸をかわすと、ヤツの脳天に剣を垂直に突き立てた。

「片づいたわね」アーミアの声に振り向くと、床にダーティ・アンゴラは声ひとつあげることなく、立ったままこと切れた。

転がっていた〈戦闘Pプラス1〉。

「みんな、ケガはない？」

アンヌの問いかけにボクらがうなずいた。そのとき、

「ミャウーン♡」とネコの鳴き声が。

見ればボクの足元に、愛らしい白いネコがすり寄ってきてるじゃないか。

どうやら、ただのネコのようだ。

●モジックハットを使う……⇩347へ
●どちらの帽子も持っていない……⇩369へ

291

292

薄暗い地下に下りると、深くガスがたちこめていた。

奥の方へと通路は伸びているようだが……。

●マジックハットを使う……⇩369へ
⇩312へ

291〜294

●奥に進む……⇨178へ
●B地区に行く……⇨12へ

293

パオーン！
なんと、ネオ・マンモスが、仲間を呼び寄せてきたのだ！　ビルに体当りしてる。
●TPが6以上……⇨323へ
●5以下……⇨351へ

294

「この人工衛星、どこかに流されているみたいだが、そんなボクらをジャマするように、ロボットが現われた。円錐形の小型ロボット、トレーサーだ。
「どこかに、軌道をコントロールする装置があるはずだ。それを探すんだ」
ボクたちは、武器を取り上げられてしまっているが……。
●テクニックで戦う……⇨234へ
●逃げる……⇨265へ
●左のビルに行く……⇨18へ
●C地区に行く……⇨22へ

マザーブレインが、もう一度同じ攻撃をすることはわかっていた。だが、それをかわすことはできなかった。全員足をやられ、身動きすることさえできなかったのだ。

まともにエネルギー波をくらったボクたちは、その瞬間、心臓を止めていた……。

295

END

296

「へえ、産業ロボットだぜ、クーリー61だってよ。なんかまだ使えそうだな」

そこには、黄色のごっついロボットがあり、カインズが興味深そうに見回している。

ギュイン！　突如、ヤツの目に光が走り、巨大なマニピュレーターが、カインズを弾き飛ばした！

「うわあ！　くっそお、スクラップにしてやらあ！」

クーリー61　17＋バトルP（1のJ）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のF）で戦います。

●敵より上……⇨271へ　●下……⇨317へ

295〜299

T字路だ。

●西に進む……⇩321へ

●北に進む……⇩297へ

L字の曲がり角に来た。

●西に進む……⇩256へ

●北に進む……⇩298へ

●南に進む……⇩388へ

●北に進む……⇩355へ

●西に進む……⇩299へ

「うわあ！　ここは遊園地かあ？」

リフターは乗り落ちているといったほうがいいぐらいのスピードで、ボクらをさらに下のフロアーへと運んだ。

リフターを降りたところは、L字形に通路が曲がっていた。

●西に進む……⇩263へ

●南に進む……⇩202へ

●南に進む……⇩94へ

ボクらは、アルテプラノに向かって、クレバス（氷の裂け目）の谷底を進んだ。

300

「ありゃ、こんなところで人と会うとはねえ」

人なつっこそうな顔をしたデゾリアンが話しかけてきた。

「ボクらは、あやってきたのです」

「おお、このクレバスの奥に、聖なるお方が眠っておられるときくズラ。気をつけてな」

聖なるお方……？　とにかく、いよいよここでマザーブレインの謎を握る男と会えるかもしれないと思うと、自然と心臓の音が早くなる。

クレバスがふたつに分かれたところに出た。どちらかに進まねばならない。

●左へ進む……⇩325へ

●右へ進む……⇩281へ

301

よし、いっきに片をつけてやる。

ボクは、切札ともいえる攻撃テクニックを使うことにした。

「くらえ、ダークファルス！　――メキドだ!!」

ヴォ――ン!!　すさまじい音とともに、まれた！　そして、爆裂した！

300～301



301●くらえ、メキドだ！　ダークファルスの巨体(きょたい)がオレンジ色の光に包(つつ)まれた。そして、爆裂(ばくれつ)！　――だが、ヤツはまだ……。

一撃必殺の攻撃テクニック、メキド。こいつのすさまじい破壊力の前には、さすがのダークファルスもまいったようだ。

もっとも、このテクニックは使ったほうもこれでくたばってもらわないと、こっちが困る（TPマイナス5、HPマイナス2）。

「ひゃーっ！」

カインズがすっとんきょうな声をあげた。

「どうした？」

「ま、まだ生きているぜ、あいつ！」

「何っ！」

爆煙の中から、ゆらりとその姿を現わすダークファルス。体を引き裂かれているというのに、いったいなんてヤツだ。

「みんな、今度こそとどめだ！」

ボクたちは、ダークファルスを包囲し、いっせいに攻撃した。

ダークファルス29＋バトルP（1のB）

ユーシスたち戦闘P＋バトルP（2のE）で戦います。

●敵よりPが上……⇩391へ

●下……⇩361へ

302〜303

ルツに教えられ、ボクはイクトーの地下迷宮にたどり着いた。ルドガーたちも一緒だ。

「まさか、千年前からユーシス君の運命が決まっていたとはな」

「ボクはしかたがないけど、あなたたちまで、危険につきあうことはないのに」

「何を言ってるのよ、また。ここまで来て事件の黒幕を見ないで帰れってんじゃないでしょうね」と、シルカ。

「そうだそうだ。きっと、あんたの御先祖のアリサって娘は、美人だったに違いねぇ。そのためにも、オレは戦うぜ」などと、カインズも訳のわからんことを言う。

「よし、わかった。みんなで、アルゴルを守ろう！」

こうしてボクたちは、イクトーの地下迷宮に足を踏み入れた。

氷の階段を下りると、通路は2方向に分かれていた。

●西に進む……⇩328へ

●南に進む……⇩355へ

「ナガージ！」

対ロボット用のテクニックが、ポリツァイSSに炸裂！（TPマイナス2）

全身から火花を散らし、ロボットは転倒した。だが、その瞬間、すさまじい衝撃がコン

トロール室を揺るがした。
ポリツァSSに内蔵されていたミサイルが、誘爆したのだ！
のいていった……。このまま、パルマ星に激突して死ぬのか……。

L字の曲がり角に出た。

●東に進む ……⇩348へ

304

●南に進む ……⇩328へ

305

ガガーン！
ボクがネオ・マンモスの足に斬りつけたのとほぼ同時に、ルドガーの銃がヤツの耳を撃ち抜いた！
弾丸は右耳から左耳へ貫通。
ネオ・マンモスはズズズーンと音をたて、その巨体を横たえた（戦闘Pプラス1、TP100メセタ入手）。
プラス1。

「なるほどね。でかいヤツほど、もろいとこんな物を見つけたわよ」
「ねえ、こっちはもろいってわけだ」
近くのビルに逃げこんでいたアンヌが、なにやら紙きれを持って駆けてきた。

⇩214へ

再び意識が遠

「これは地図じゃないか。アウクバルとアルテプラノか……。かりが得られるぞ！」（地図入手）

と、先がやや見えたところで、Eにチェックはあるか？

●ある……⇩129へ

306

「おい、これ見ろよ、流出ガスに注意だってよ。この辺、ヤバイんじゃねえの」カインズが古い新聞を拾って読み上げた。

●左のビルに行く……⇩12へ

そこで、ボクらはこのビルを出ることにした。

●C地区に行く……⇩18へ

●ない……⇩353へ

●B地区に行く……⇩12へ

307

「くらえ！」

ルドガーは、ダークファルスの顔に弾を撃ちこんだ。アーミアもスライサーを投げた。

だが、ダークファルスは、うめき声ひとつ上げなかった。逆にビームを口から放ち、ボクたちを床に叩きつけた（HPマイナス2）。

⇩375へ

「うわあ！」

308

敵のガトリング砲から放たれた弾が、ボクの足をかすめた！（HPマイナス1）

さらに、ヤツのヘッドが開き、ビーム砲が現われた！

とっさにボクは、足元に転がっていたコンクリートの破片を、ビーム砲の発射口めがけて投げつけた！

ヴォォォ、チュドーンンンン！

異物によって出口をふさがれたビームは、バンリーダーを自爆へと追いこんだのだ。

「まるでマンガね……」アンヌがあきれたようにつぶやく。

なにはともあれ敵をやり過ごしたボクらは、T字路を……。

●東に進む……⇩342へ

●北に進む……⇩333へ

●西に進む……⇩247へ

309

炎が地をはい、向かってきた！

「ちっ！」

怪物がひらり横っ飛びでかわし、ルドガーが床の裂け目を撃った。

るんだスキを狙って、シルカがナイフを突き立てた！

ほかのみんなも攻撃を

かける。――ふいに、キングレムレスの姿が消えていた。

●南に進む……⇩379へ

●西に進む……⇩290へ

310

アウクバルに向かうボクらの行く手を、スニフィラビット4匹がさえぎった。

「アーン、もう！　毛皮は間にあってるわよ！」

アーミアがイラついたようにスライサーをかまえる。

スニフィラビット　19＋バトルP（1のD）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のA）で戦います。

●敵よりPが上……⇩332へ

●下……⇩275へ

311

突っ所に4つの人影が現われた。

みんな、長い髪を垂らし、長いマントをはおっている。

「あなたたちは？　ルツさんみたいな格好をしてるけど（顔だけ不細工だな）」

「わたしは、モツ」

「ハッ」
「タン」
「スナギモ」
なんなんだ、こいつらは？
「おや、『なんなんだ、こいつらは』と言いたそうな顔をしてますな」と、モッ。
「あんたらは、エスパーか？」
「とんでもない。わたしらはルツ様のようになりたいと思って、この地下迷宮で修行を積んでいるだけです。どうです、仲間になりませんか」
「い、いえ、けっこうです」どうもうさん臭い連中だ（Fをチェック）。
T字路の所にもどったボクたちは今度、

●西に進む……⇩334へ
●北に進む……⇩259へ
●C地区に行く……⇩22へ
●右のビルに入る……⇩390へ

「ミャウン」とネコはすり寄ると、そのまま走っていってしまった。
ボクらはビルの外へ出た。今度はどこへ行こう？

●B地区に行く……⇩12へ

312～314

「おらおら、どうもここの治療するんかせんのか、はっきりせんかい！」

クらはちょっとの医者は、かなり荒っぽいようだ。指をペキバシ鳴らしながらの応対に、ボ

○60メセタでＨＰプラス２　○１２０メセタでＨＰプラス４（**どちらかひとつだけ選ぶこ**

とができる。　**治療しなくても可**）

めまいを感じつつ病院を後にした。

●**武器店に行く**……⇩**３６６へ**

●**デゾリアンに話しかける**……⇩**３００へ**

３１３

アーキドラゴンはボクをくわえると、ゴツゴツとした岩肌めがけて叫きつけた。

薄れゆく意識の中で、ボクは夢の中に出て来る少女の、悲しげな顔を思い浮かべていた。

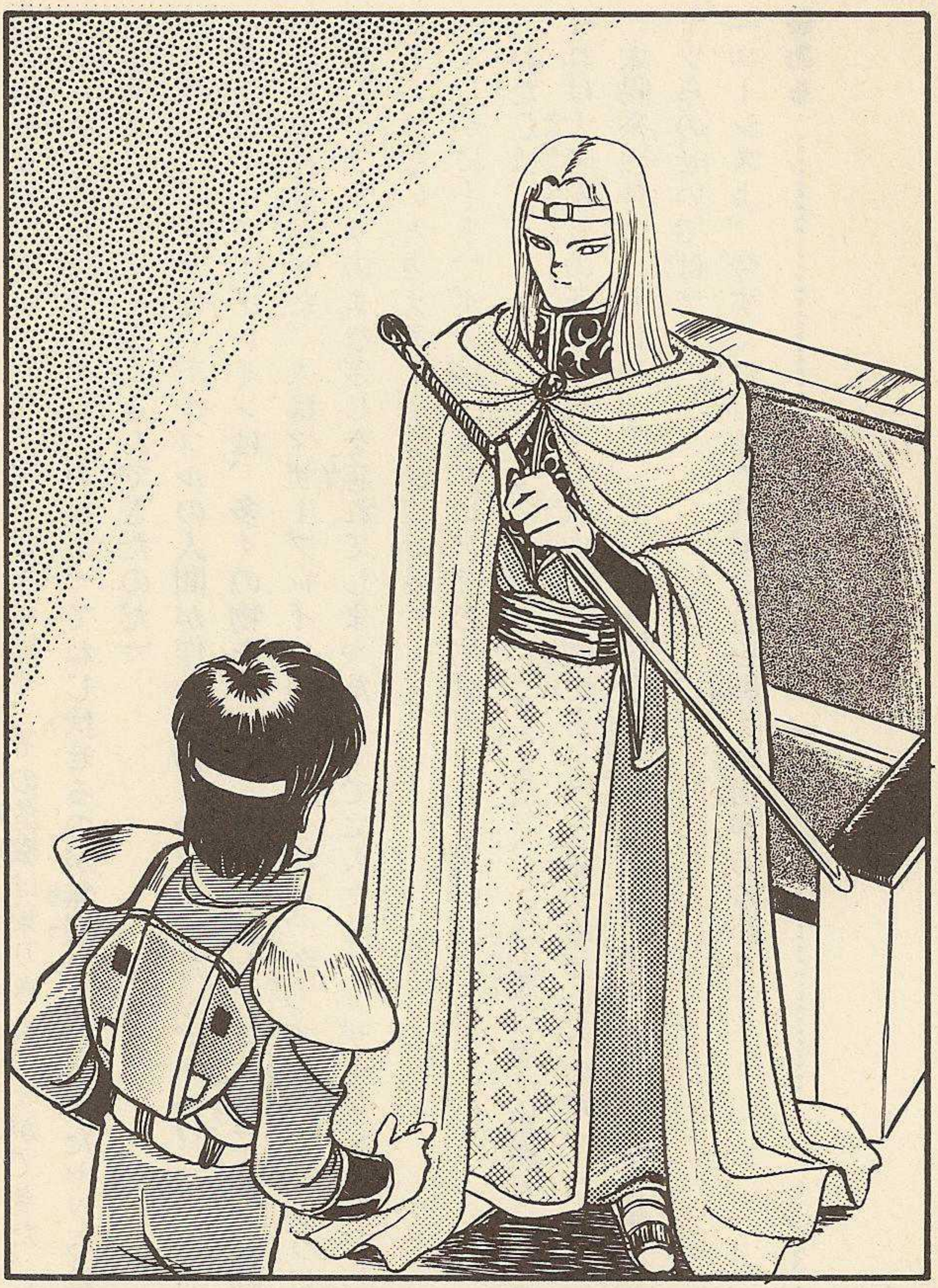
３１４

ＥＮＤ

（**ただし、ＨＰが14以上ならば、⇩１１９へ。さあ、ユーシスの運命はいかに？**）

「ここにありま
「でも……ネイ
「見つからない
「はい」
「そうか、見つ
何かを取り出し
「見つからないか」ここで、ルツは小さく笑った。そして
「見つからないのも、ムリはない。ネイ・ソードは、ここにあるの
「ああ！」
「だまして悪か
進するだけでは
のことはある。
ボクは、あら
プラス5）。
「それでルツさん、アルゴルを狙う者について、お話ししてくださるはずでしたが」
ルツはうなず
「千年前、アル
ゴルの滅亡を企む者は、邪教の仮面をかぶり、ダークファルスという悪の

315



315●「キミに光の力と闇の記憶を受け継ぐ資格があると認めよう」ルツはそう言い、ボクにネイ・ソードを渡してくれた。

力を送りこんできた。アリサたちのおかげで、ヤツらはあきらめなかった。力によってねじ伏せるのが無理だとわかったヤツらは、今度はマザーブレインを送りこんできたのだ」

「マザーブレインは、アルゴルの人間が作った物じゃなかったんですか!?」

「そうだ。マザーブレインは、多くの物を作り出し、我々にとって本当に必要な物が何であるかを見失わせた。人はマザーブレインの作り出す物を、争って奪いあうようになり、やさしいアリサのまなざしを忘れてしまった。すでに人々は、マザーブレインなしには生きていけないとさえ考えはじめている」

「たしかに……」ボクは、モタビアでの生活のことを思い出した。

「わたしは、マザーブレインやダークファルスをもたらした邪悪な者の出所で、それは太陽系外の所で、我々の滅亡への歴史をじっと見つめているのだ」

太陽系の外？　もしや、そこに行くはずの調査船――ボクの両親が事故を起こしたのもヤツらのせいでは？

「ユーシスよ。今すぐに、その邪悪な者を倒す自信があるか？」

●ある……⇩336へ

●ない……⇩365へ

316〜317

316

立ち上がろうとしたとたん、さらに1発くらった。
情け容赦のない攻撃が続く。仲間が次々にビームの餌食になっていく、こんな所で死ぬなんて！
「くそっ！」ボクは、最後の力を振り絞って飛び上がった。
だが、その一撃もあっけなく、受け止められてしまった。ついにボクは、
スの巨大な鉤爪に捕らえられた。
ボクは、その最期の瞬間に仲間たちの顔を思い浮かべた……。

END

317

ガガガガガガッ！
クーリー61の撃った弾が、ボクの剣を弾きとばした！（HPマイナス1）
それを拾おうとしたものの、手がしびれて言うことをきかない。
「首を狙うんだ！」カインズが叫ぶ！
ドヒュッ、ドヒュッ、ドヒュッ！
ルドガーのシュットガンが、見事にクーリーの首に命中。それは、ガッシャーンと音を

たて、ボクの足元に転がった。
さあ、このL字路を……。
●西に進む……⇨**249へ**
●南に進む……⇨**282へ**

突然、ボクの持っていたエアロプリズムが光りはじめた。その神秘的な光に照らし出され、今までなかったはずの箱が姿を見せた（**エアロプリズムを失う。リストから消す**）。
箱の中には、アルゴルの紋章の入った立派な盾が入っていた。これが、ネイ・シールドか！（**ネイ・シールド入手。戦闘Pプラス3**）
「ついにやったが……。いったい、どこに？」
角の所に地上へ通じる階段がある。あとは、ネイ・ソードだけど……。いったい、どこに？」
●階段を上る……⇨**343へ**
●引き返す……⇨**334へ**

トレーサベースの放つレーザーは、的確にボクらを追いつめた！
精一杯で、手も足もでない（**HPマイナス1**）。
「ヘーイ！　鬼さんこちら！」
319

突如、カインズが大声をあげて敵の前に飛び出した。そうか、おとりになってくれようっていうんだな。トレーサベースの冷たいレンズがカインズを捕らえた瞬間、ボクはヤツのすきをついてその真下に入りこみ、剣を突きたてた！

バラバラになったトレーサベースの破片がボクの頭上に降りそそいだ。

このL字路をどちらに進もうか。

●東に進む……⇨264へ

●南に進む……⇨340へ

●西に進む……⇨247へ

●北に進む……⇨236へ

T字路に出た。

●南に進む……⇨320へ

●東に進む……⇨367へ

●西に進む……⇨355へ

十字路に出た。

●東に進む……⇨297へ

●南に進む……⇨342へ

●西に進む……⇨247へ

●北に進む……⇨236へ

ボクたちは、それぞれのテクニックで攻撃した。
火炎を出すナフォイエ！　重力場を発生させるグラブト！　ビームを発するグラン
ツ！　次々とダークファルスに炸裂する！（TPマイナス4）
だが、ヤツはなんという怪物なんだ。これだけの攻撃をくらいながら、まだくたばらな
いなんて！

⇩375へ

322

「テクニックを使うんだ！」
ボクらは、シュネラの呪文で動きをすばやくした。そして、ネオ・マンモスの群れから
逃げだした（TPマイナス3）。

⇩129へ

323

●Eにチェックがある　……⇩129へ
●ない　……⇩353へ

324

いきなり、床全体に衝撃が走った！　ふいを突かれて、ボクら全員がダメージを受けた。

●HPが15以上　……⇩395へ
●14以下　……⇩295へ

分かれ道を左に進むボクらの目に、白亜の宮殿が現われた。
この中に、ボクらが探し求めていた答がある……。
息をのみ、そっと入り口の扉に手をかけた。
中は広々とした大理石のフロアーが広がっており、その中央にフードをかぶった男たちが、何かを囲むように立っていた。いいようもない厳粛な雰囲気にのまれ、ボクらはだまったまま、静かに進んだ。
彼らが囲んでいたのは、コールドスリープ（冷凍睡眠）用のカプセルだった。
「よくぞいらっしゃいました」
静寂を破ったのは、彼らのほうだった。
「あの、ボクらは……」
「存じております。ここに、かつてアルゴルを救うため戦った、尊いお方が眠っておられます。戦いが終り平和な時代になったとき、王にアルゴルの未来を託され、コールドスリープにつかれたのです。そう、ここの地に再び危機が起こったときに目覚めるようにと……。
マザーブレインというものがこの世に現われたとき、この方は排除されそうになった。そのとき、この方にお仕えしていた私たちの先祖は、このカプセルごと、この地に逃げのびてきたのです。それから私たちは代々、この方をお守りしてまいりました。この方は10年

前と、3年前に一度目覚められました。私達がこうして無事でいられるのです。そして、昨日、この方は私たちにこうおっしゃった。『もうすぐユーシスという青年がやってくる。そのとき私は真に目覚める』と……」

ボクたちの目の前で、コールドスリープのカプセルは、ゆっくりと開きはじめた。

240へ

326

ボクはカオスソーサラーが発した稲妻をよけると、ヤツの懐深く飛びこみ、その左胸に剣を突きたてた（**戦闘Pプラス1、50メセタ入手**）。

さて、荒れ果てた無人のビルをボクらは……。

●1階をそのまま進む……⇩306へ

327

ボクたちは、ダークファルスを包囲し、いっせいに攻撃した。

ダークファルス　34＋バトルP（1のJ）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のC）で戦います。

●下……⇩361へ

●地下へ下りる……⇩292へ

進んでいくと、T字路に出た。

●南に進む……⇩328

●東に進む……⇩256へ

●北に進む……⇩304へ

328

ブワシイイイ！

くそお！　ネオ・マンモスの鼻に、足払いをくってしまった（HPマイナス1）。

ボクを踏みつぶそうと、ヤツが足を上げた瞬間、

ガガーン！　ルドガーの銃が、ヤツの耳を撃ち抜いた！　弾丸は右耳から左耳へ貫通。

ネオ・マンモスはズズーンと音をたて、その巨体を横たえた（戦闘Pプラス1、TP

プラス1。100メセタ入手）。

⇩380へ

329

「なるほどね。でかいヤツほど、もろいところはもろいってわけだ」

「ねえ、こんな物を見つけたわよ」

近くの町に逃げこんでいたアンヌが、なにやら紙きれを持って駆けてきた。

「これは地図じゃないか。アウクバルとアルテプラノか……。ここに行けば、きっと手掛かりがえられるぞ！」（地図入手）

と、先がやや見えたところで、Eにチェックはあるか？

●ある……⇩129へ

●ない……⇩353へ

330

マザーブレインは、得意のエネルギー波攻撃に出た！　ボクたちは、一瞬早く気づいて飛び上がった。この攻撃は、タイミングよく床から離れれば安全だ。

だが、敵はそのことも読んでいた。ボクらが空中にいるうちに、ビームを発射したのだ。

時間差攻撃！　これでは、逃げようがない！

ボクたちは、ビームに叩き落とされ、さらにエネルギー衝撃波を浴びせられた！（HPマイナス5）

●HPが15以上……⇩360へ

●14以下……⇩295へ

331

いかん！　これは、マザーブレインの心理攻撃だ！

そうわかっていても、これは強力だった。ボクは、仲間たちから引き離され、女神像の体内――宇宙に吸いこまれていった。デゾリス、モタビアと、体ひとつで飛行し、気がついた時にはパルマ星の宇宙空港に立っていた。

330～331



331●アリサがよこしてくれたネイ。彼女たちのおかげで、ボクはマザーブレインの心理攻撃から逃れることができた。

「ユーシス！」
声に振り向けば、そこにはボクが見たことのないはずのお母さんが立っていた。
「母さん！」
ボクは、お母さんを抱きしめた。
「でも母さんは、宇宙船の事故にあったって……。どうして、ここに？」
「待って、ユーシス！　それは、本物のお母さんじゃないわ！」
ネコ耳の少女が現われた。ネイ！　ネイじゃないか！　でも本物のお母さんじゃないって？
「ちっ、ジャマが入ったか」
突然、母さんの手がコードの束になり、ボクの体を締めつけはじめた。
「ユーシス！」ネイの鋭い爪が、『母さんであったもの』を引き裂いた。ぐっ、咳こむボクの背中をさすってくれた。
ネイは、喉が！
「ネイ、会いたかったよ」
「でも、わたしはすぐに行かなくちゃ。ユーシス、これは夢なのよ」
「夢だって？」
「そう。だって、パルマ星は、もう爆発しているのよ。こんな所にいられるはずはないわ。早く目を覚ましてね」

そう言うと、ネイは迎えにきたもうひとりの少女と消えていった。あの栗色の髪の少女は……。

――ボクは、再び、現実の世界にもどった。マザーブレインの心理攻撃に勝ったのだ。

アリサがよこしてくれた、ネイによって。

「よし、全員、ヤツの心理攻撃から脱出できたぞ！　いっきに逆襲をかけるんだ！」ルドガーが叫んだ。

●メキドで攻撃（TP14以上の場合のみ使える）……383へ

●シフタで戦闘力アップ（TP6以上の場合のみ使える）……393へ

●武器で攻撃……255へ

332

ギャイイイーン！

牙の生えた内臓を投げつけてくるスニフィラビットが、悲鳴をあげた。

そう、アーミアのスライサーが、片っぱしからヤツらの耳を切り落としたのだ。

意外にあっさりと片がついた（**戦闘Pプラス1、TPプラス1、50メセタ入手**）。

「さあ、アウクバルに急ぎましょ」

まるでなにごともなかったかのように、アーミアが涼しい顔をして言う。⇩**378へ**

Eにチェックはあるか？ ……333

●ある ……386へ

●ない ……358へ

T字路に出た。

●西に進む ……379へ

●東に進む ……363へ

●北に進む ……290へ

334

「あの、ボクらはマザーブレインの謎を握る人物を探しているんですが」

「おお、そのお人だったら、アルテプラノにいるズラ。そうだ、クレバスのほうに進むと会えるズラ」

「それは本当ですか？　ありがとう！」

「そんなに強く手を握っちゃいやズラン」

思わず手をとったボクに、デゾリアンが頬を染めながら言った。

……と、とにかく有力な情報を得ることができたわけだ。

335

●病院に行く……⇩356へ
●アルテプラノ……⇩372へ

336

「もちろん、あります！」
「ならば、わたしはキミにアルゴルの未来を託す。タイロンとミャウの霊も、戦いを見守ってくれるだろう」
「タイロンとミャウ？」
「千年前、アリサやわたしとともに戦った仲間だ」
「千年前、ネイの魂もボクたちを見ていてくれるに違いない。仲間か。そうだ、ネイの魂もボクたちを見ていてくれるに違いない。
「よし、では行け!!　アルゴル太陽系の外まで！」

337

「ナフォイエ！」
ところが、この炎を出すテクニックは不発に終わった。使うのに必要な神経の集中ができなかったのだ。
そのスキを突かれ、ダークファルスのビームをくらってしまった（HPマイナス1）。

●武器店に行く……⇩300へ
●防具店に行く……⇩385へ

ふいにボクは、自分が弱気になっていることに気づいた。
ほかのみんなも自信をなくしたような顔をしている。
妙だ。もしや、怪物の精神攻撃をくらってしまったのでは……？
く、くそっ！　ボクは、できる限りの気力をこめ、ネイ・ソードをかまえた。

⇩399へ

アーキドラゴン　26＋バトルP（1のJ）で戦います。
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のE）で戦います。
●敵よりPが上……⇩364へ

338

ボクは、右にと左にと攻めてくるリビングブレードの刃をかわし、チャンスを待った。
が、どうしたというのだろう。足がもつれ、うまくよけられない。
んでくるじゃないか
そうか、このおまけに目までかすむ
●TPが12以上……⇩164へ

339

辺一帯にたちこめているこの白いガスに毒が……。
●11以下……⇩196へ

L字路に出た。
●東に進む……⇨247へ
●リフターに乗る……⇨362へ

340

いきなり、ダークファルスがビームを放った！　3つの口からの同時攻撃。よけきれるもんじゃなかった（HPマイナス5）。
（スターアトマイザーを使えば、1個につきHPプラス2）
●HPが18以上……⇨285へ
●17以下……⇨316へ

341

T字路に出た。どの方向に進もうか。
●東に進む……⇨226へ
●北に進む……⇨388へ
●西に進む……⇨321へ

342

外に出て驚いた。迷宮の入り口の所に、なんとルツが立っていたのだ。

「ユーシス君、来たかね？」

●持ってきた……ネイ・シールドは持ってきたかね？」

……⇩315へ

●持ってきていない……⇩288へ

343

344

「あの、ちょっといいですか……」ボクらはデゾリアンに話しかけた。

「なんら、オメーら。新興宗教のモンモン教かや？」

「よそものがなにしにきたズラ、話すことはなんにもネエダ」

「オラたちの星にひとつ情報を得ることはできなかった。

なんとかボディランゲージで話そうとしたが、デゾリアンはみんな一様にぶっきらぼうで、ボクらはなんの情報を得ることはできなかった。

しょうがないので、とりあえず……。

●病院へ行く……⇩366へ

●さらにデゾリアンに話しかける……⇩313へ

●武器店へ行く……⇩384へ

ボクたちの前に、淡い光に包まれた女が現われた。背後の彫刻から伸びた光線が、ホログラフィかなんかの立体映像を結んでいるらしい。

やはり、これがアルゴルを自由に操っているマザーブレインなのか!?　ボクは、この女のかもしだす妖しい雰囲気に押しつぶされそうになった。――いかん！　今、ボクたちの肩にはアルゴルの未来がかかっているんだ。のまれてはいけない。

「おや、おまえたちは、わたしを壊すつもりなのかい？」

女は、まるでボクの心を読んでいるみたいに言った。

「だけど、そんなことはできやしないよ。だってわたしは、おまえたちにとって、慈しみ、育ててきた母親と同じですもの。――わたしのかわいいアルゴル。これからわたしは、この子の手を引いて破滅への道を歩いていくのよ」

「何っ！」

「おほほほ、さあ、ここからお帰り。おまえたちにできることなど、何もないのだから」

それは、マザーブレインを壊し、アルゴルに再び平和をもたらすことだ」

「いや、ある！」

マザーブレインの像は、唇に薄笑いを浮かべた。

「くっくっくっ……。なんておバカさんなの。わたしを壊したら、世界中がパニックに陥るわ。わたしがいないと、アルゴルの人は何もできないのよ。それでもと言うのなら、壊



345●ボクたちの前に、淡(あわ)い光に包(つつ)まれた女が現われた。これがアルゴルを自由(じゆう)に操(あやつ)っているマザーブレインなのか!?

しなさい」

もちろん、この答はルツに送りだしてもらう時から決めていた。

「勝負だ、マザーブレイン！」

「そう、ならばこちらも容赦しない！」

立体像が消え、代わりにさらに巨大な像が浮かび上がった。４本腕の女神像――長い髪はコードのように背後へと伸びている。そしてブルーのダークファルスと対照的で、一番驚くのは、その色彩だった。冷たいメタリック・ブルーのダークファルスと対照的で、まばゆいばかりに七色の光を放っているのだ！

――こいつは、ただの映像じゃないのか!?

●マザーブレイン　35＋バトルP（1のA）
ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のD）で戦います。

●下……⇩395へ

346

「止めるんだ！」

ボクは、シルカの腕を取った。

「離せ！」

うっ！　ボクの腕に鋭い痛みが走った。シルカにナイフで切られたのだ（**戦闘P　マイナ**

●敵よりPが上……⇩324へ

ス1）。

くそ、シルカやルドガーを傷つけるわけにはいかない。

こうなれば、ダークファルスを倒すしか、みんなを正気にもどす手はないのか。

ボクは、ネイ・ソードをかまえ、怪物と向かい合った。

⇩399へ

347

モジックハットをかぶって、ネコを抱き上げた。が……。

「ミギャギャギャギャギャギャギャ！　ウニャランコ！」

「うわあ！」いきなりひとの顔を引っかきやがった！　ネコはボクの腕をスルリと抜け、どこへともなく走り去ってしまった（**戦闘Pマイナス1**）。

「ずいぶんと男前が上がったことよ」

十文字に傷ついたボクの頬を見て、アーミアがクスクスと笑っている。

なんとかこのビルから無事（？）出ることができた。さて、今度はどこへ行こう？

●**B地区に行く**……⇩**12へ**

●**右のビルに入る**……⇩**390へ**

●**C地区に行く**……⇩**22へ**

347～349

L字の角の所で、ボクたちは宝箱を見つけた。開けてみると、大きな宝石が出てきた。これがルツの言っていたエアロプリズムだ（エアロプリズム入手）。関係ありません。

●南に進む……⇩367へ

●西に進む……⇩304へ

●2回目の人は……⇩349へ

バリバリバリバリ！

カオスソーサラーの稲妻が、剣を直撃！

に動かなくなってしまった（HPマイナス1）。

「まかせろ！」

ルドガーのショットガンが火を吹くと、敵の頭は吹っ飛んだ（戦闘Pプラス1、50メセタ入手）。

荒れ果てた無人のビルをボクらは……。

●1階をそのまま進む……⇩306へ



●地下へ下りる……⇩292へ

アーミアが、戦闘力を上げるシフタのテクニックを使った（TPマイナス2）。
とたんに、体の中にパワーがみなぎり、神経がとぎすまされたようになる（戦闘Pプラス2）。
よし、いくぞ！

⇩350

「と、とにかく戦おう！」

⇩351

「マジ？　マジイ？　オレ、パスしたいなあ」
カインズの叫びも、もっともなことだった。なにせ、1匹でもご遠慮願いたい相手だってのにそれが束になって迫ってきているんだ。
「だが、戦うしかなさそうだ！」
八方をふさがれ、意を決したようにルドガーが銃を抜いた。
ネオ・マンモス23＋バトルP（1のH）
ユーシスたち戦闘P＋バトルP（2のI）で戦います。

●敵よりPが上……⇩392へ
●下……⇩374へ

350〜353

突っ当たりの所に4つの人影が現われた。さっきのヘンな4人組――モツ、ハツ、タン、スナギモだ。

「やあ、また会いましたな。ところで、お探しのものは見つかりましたか？」と、モツ。

あれ、さっきのことを話したっけ？　こいつらは本当にエスパーなのか？

「それにしても妙ですなあ。ネイ・シールドはここにはありませんぞ。ここで10年も修行しているわたしらが言うのですから間違いありません。それを探せとは……」と、スナギモが言った。

え？　どういうことだ？　もっと詳しく聞こうと思ったが、その時には彼らの姿は消えていた。まったく、気ままなヤツらだ。

T字路の所にもどったボクたちは今度、

●西に進む……⇩334へ

●北に進む……⇩259へ

●アルテプラノに行く……⇩300へ

352

アウクバルとアルテプラノ――。そこに行けば謎が解けるのだろうか？

考えていても始まらない。とにかく、行ってみよう。

●アルテプラノに行く……⇩310へ

353

「デバンド！」アンヌは、防御のテクニックを使った（TPマイナス2）。
空気密度の違う見えない壁を作り、ボクたちの前方にバリアーを展開する。
ダークファルスが口から吐くビームは、すべてこのバリアーが散らしてしまった。
⇩375へ

●南に進む……⇩298へ

●東に進む……⇩320へ

●北に進む……⇩380へ

氷の通路を進んでいくと、T字路に出た。

●南に進む……⇩298へ

●東に進む……⇩320へ

●北に進む……⇩380へ

354

355

356

「ハーイ、痛いの痛いの飛んでけー、しませうね」
異様（医用？）に明るい病院だ。

○30メセタでHPプラス2　○60メセタでHPプラス4（どちらかひとつだけ選ぶこと）

●武器店に行く……⇩300へ

●アルテプラノに行く……⇩335へ

●デゾリアンに話しかける……⇩372へ

354〜358

炎が地をはい、向かってきた！　不意を突かれたルドガーの足が、一瞬火に包まれた！
（HPマイナス2）
「くっ！」氷の床を転げまわり、火を消すルドガー。彼は起き上がると、床の裂け目を撃った。
怪物がひるんだスキを狙って、シルカがナイフを突き立てた！　ほかのみんなも攻撃を
かける。――ふいに、キングレムレスの姿が消えていった。
「大丈夫ですか、ルドガーさん」
「心配するほどの傷じゃないさ」

●南に進む　……⇩379へ

357

●西に進む　……⇩290へ

358

「おっと、行き止まりだ、引き返そう……ん？……なんか、人数が足りないような……」
「シルカだ！」ボクらはいっせいに声をあげた。
「カインズ、さっきまで彼女、あなたの後ろ歩いてましたわよね……」
「アーミア……、そんなこと言ったって……シルカ！」
「（ズルッ）……とにかく、ここにいてもしょうがない。さっきのとこまでもどろう。シル

カのことだもの、きっと無事でいてくれるさ」（Eをチェック）
ともかくT字路に引き返し、今度は、
●東に進む……⇩342へ

359

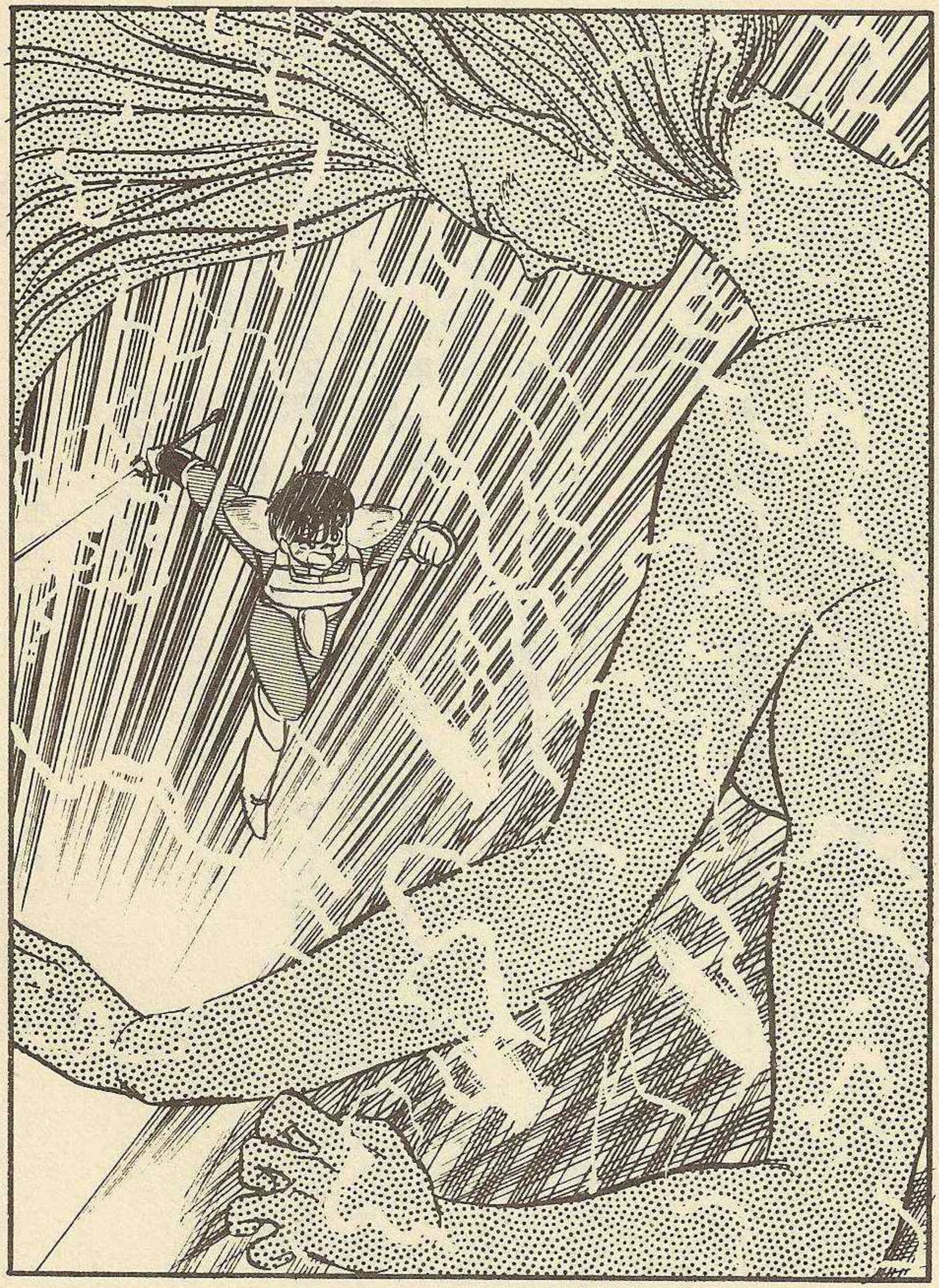
ギ・ル・ザークたちは、鉤爪になった手を前に突き出した。そこからほとばしる電光！
後ろの壁が砕け散った！
だが、その時ボクの体は空中にあった。ヤツらの真上から、剣を振り降ろす！
最初のヤツは、真っ二つになって倒れた。もルドガーとアーミアが片づけた。
残りの2人は、体が暖かくなったかな。……どっちへ行く？」
●北に進む……⇩247へ
●東に進む……⇩298へ

360

「バイオモンスター事件も、もとはと言えばおまえが黒幕だったんだな！」ルドガーがいつにない強い口調で叫んだ。
「くたばれ！」ルドガーの銃口が火を吹いた。

359〜360

「それに、犯人をわたしたちに仕立てようとしたのもね」
「やり口が汚いわよ！」
アンヌとアーミアが、同時に攻撃する。
「アメダスを破壊して、洪水を起こそうともした」
カインズが、女神像の髪を切った。
「そして、パルマ星を破壊した！　何十億もの人がいたパルマを！」
シルカが、いつの間にか手に入れていたクリスタフィールドで、グラブトのテクニックを使った。すさまじい重力場が、マザーブレインを押しつぶそうとした！
「この、生意気な人間めら！」
マザーブレインは、再びエネルギー波攻撃に出た！
そうはいくか！　ボクは、いち早く飛び上がった。ネイ・ソードをこん身の力をこめて振り降ろす！
「ネイと両親のかたき！　死ねぇ!!」
ネイ・ソードは、女神像の胸を貫き、背後の壁に突き刺さった！
「ぎゃあああああ――――っ!!」
女神像は消滅し、マザーブレインは完全に機能を停止した。
やった！　アルゴルは、ついにマザーブレインの支配から解き放たれたのだ。



360●マザーブレインはエネルギー波攻撃に出た。そうはいくか！
ボクは、いち早く跳び上がった！　とどめだーっ!!

でもこれで、マザーブレインがコントロールしていたアメダスやバイオシステムは、みんな役に立たなくなっている。何もかも失ってしまったアルゴルには、これから辛くて悲しい生活が待っているだろう。

けれどもボクたちは、新しいアルゴルに希望の光が宿っているのを感じていた。

「さあ、モタビアにもどろう。すべては、これから始まるのだから……」

ボクたちは、この宇宙船の脱出ボートを探しに歩きはじめた。——だが。

「ユーシス、待ちなさい！」

ルツの、いつになくこわばった声が、ボクたちの頭に飛びこんできた。

「その船の中には、まだ何者かがいる！　もどってきてはいけない！」

「な、何だって!?」

ダークファルスがビームを放った！　うわっ！

ボクは床に倒れた（ＨＰマイナス5）。

電撃を受けたようなショックを受け、

使えば、1個につきＨＰプラス5、ＴＰプラス2。モノメイトを

（スターアトマイザーを使えば、1個につきＨＰプラス2）

●ＨＰが17以上……⇩391へ

●16以下……⇩316へ

361

361

リフターが開き、ボクらは再び地上へもどった。今度はどこに行こう。

●A地区へ行く……⇨111へ

●B地区へ行く……⇨12へ

362

エアロプリズムを持っているか？

●持っている……⇨389へ

●持っていない……⇨318へ

363

アーキドラゴンは、ボクらを焼き殺すつもりらしい。とがった口から、紅蓮の炎を吹きつけてくる。

が、それがヤツには災いした。なんと炎にあおられて巨大な氷塊が溶け、ヤツの上に落ちてきたのだ！

ボクは剣を逆手に持ちかえると、氷塊で動けなくなったドラゴンの額に、ソードを突きたてた（戦闘Pプラス1、TPプラス2）。

ボクらは、先ほどの分かれ道までもどると、今度は左の道を進んだ。

⇨325へ

364

今までの戦いで受けたダメージがまだ残っている。ボクは、正直にそう言った。

「なるほど……。ならば、わたしは、キミたちのために祈りを捧げよう」

ルツは、天に向かって両手を掲げた。

「アルゴルの神よ！　この者たちに、勇気と力を授けてください！」

たちまちボクたちの体の中にパワーがみなぎってくるのがわかった。ほかの仲間たちも同じようだった。ボクたちは、互いに顔を見合わせた（ＨＰプラス５、ＴＰプラス２）。

「今度はどうだ？　自信はあるか」

⇩３３６へ

365

「ヒュー！」

武器店に入ると、思わず口笛を吹いてしまった。

なぜって？　異常に高いんだ。これが……。

○ラコニアソード　７００メセタ

○ラコニアシールド　６００メセタ

（買った値段を持ち金から引いて、アイテムリストに記入。ひとつ買うごとに戦闘Ｐプラス１）。こころもち懐にすきま風を感じつつ、店を出た。

366

⇩３３６へ

●病院へ行く……⇩313へ
●デゾリアンに話しかける……⇩300へ
●アルテプラノへ行く……⇩384へ
●北に進む……⇩348へ
●西に進む……⇩320へ

367

どこからか風が入ってくるらしく、足元に飛んできた粉雪がまとわりつく。
L字の角に来たボクたちは、

368

「愛する者を失うことの悲しみを、おまえたちにも味わわせてやる！」
ルドガーが、地球人たちに弾丸をばらまいた。将棋倒しのように、ヤツらは総くずれに
カインズのナイフが、逃げまどう地球人の背中に突き刺さった。
「ちくしょー、オレたちのアルゴルをメチャクチャにしやがってよ！」
アーミアやシルカたちも、残るすべての力を使って戦った。炎や竜巻、剣や銃が宇宙船の中を地獄にかえた。
だが、地球人の数は、ボクたちの20倍以上。やがて、現われた砲兵ロボット部隊の前に、

ボクらはひとりと倒れていった……。

「くそ、おまえだけは！」

ボクは、傷にもめげず、地球人のリーダーに喰らいついた！　満身の力をこめて、背中に剣を突き刺す。砲兵ロボットの一撃が、ボクとその男をまとめて吹っ飛ばしたのは!!

その時だった。宇宙船『モタビア』の大爆発は、遠くモタビアの街からでも見ることができたという。

UNHAPPY END

367〜369

ボクはマジックハットをかぶると、ウニャウニャウニャウニャすり寄ってくるネコを抱き上げた。

「わたしの名前はニャウ。昔は人間に飼われてたんだけど捨てられてしまったの」

「そうか……かわいそうに。がんばって生きるんだよ」

ボクはそのニャウの頭をそっとなでると、フロアーに降ろしてやった。

しかし、ニャウは人恋しいのか、そのビルを出ても、ちょこちょことボクらの後をついてくる。旅は道連れ、かわいいお供は大歓迎さ。とりあえず今度は？

●B地区へ行く……⇩122へ　●C地区へ行く……⇩220へ

●右のビルに入る……⇩390へ

突然、シルカが仲間の荷物をあさりはじめた。

「おい、どうしたんだ!?」

「うるさいわねダークファルス！　ジャマをするんならぶち殺すよ！」

ダークファルスを前にして、何をやっているんだ。いくら本業が泥棒だからって、こんなところで……。

うわっ、ルドガーさんまで！

これは、ただごとじゃない。もしや、ダークファルスの精神攻撃か？

時に、悪の心を植えつけられたのでは。

こうなっては、メチャクチャだ。あっちでは、臆病風に吹かれたカイトンズとアンヌが逃げだそうとしている。

●仲間を止める

……⇩346へ

●ダークファルスを攻撃

……⇩399へ

カオスソーサラーは、その指先から稲妻を放ってくる！

カオスソーサラー　18＋バトルP（1のI）

ユーシスたち　371

戦闘P＋バトルP（2のB）で戦います。

370〜373

●敵よりPが上……⇩326へ

「お兄さん、決まっとるだね、いい得物が似合いそうズラ。安くしとくズラン」

武器店は値段も良心的で、店員の態度も気持ち良かった。

○ラコニアソード　400メセタ

○ラコニアシールド　300メセタ

（買った値段を持ち金から引いて、アイテムリストに記入。ひとつ買うごとに戦闘Pプラス1）お次はどこだ。

●病院へ行く……⇩300へ

●デゾリアンに話しかける……⇩356へ

●下……⇩349へ

372

アーミアの放ったスライサーが、女神像の髪を切断！　そのとたん、女神像の姿がわずかに揺らいだ。

あの像は、完全な映像というわけじゃないんだな。

373

もっているようだな。なんらかのエネルギーによって形をた

「おのれ、こざかしいマネを！」
女神像の目が、ビームを発射した！　アーミアは左肩を押さえて、うずくまった。
「アーミアさん！」
「大丈夫よ、心配しないで」
「ユーシス君、今度はあの像の背後を攻撃だ！」と、ルドガーが叫んだ。

⇩139へ

374

ズドドドドド！
無謀――それは今のボクたちのためにある言葉だった。
剣を抜いたはいいが、あっさりとネオ・マンモスに踏みつぶされてしまったのだ。

GAME OVER

375

ダークファルスは、ユラァーッとボクたちに近づいてくる。
この怪物相手に、どうやって戦えばいいんだ!?
ダークファルス　32＋バトルP（1のE）

374〜376

ユーシスたち
●敵よりPが上

戦闘（せんとう）P＋バトルP（2のI）で戦います。

……⇩285へ

376

ボクたちは、ルツの声に誘導（ゆうどう）されて、宇宙船（うちゅうせん）の中を進んでいった。ような細（ほそ）い階段（かいだん）通路（つうろ）を降（お）りると、広間（ひろま）に出た。ボクは、そこまで来て、自分の目を疑（うたが）った。さっき、マザーブレインと戦った所より広い所だ。そこには、何百人のだ！　赤や黒のマントをはおった無表情（むひょうじょう）の男たちが！

「宇宙船『ノア』にようこそ、坊（ぼう）やたち」

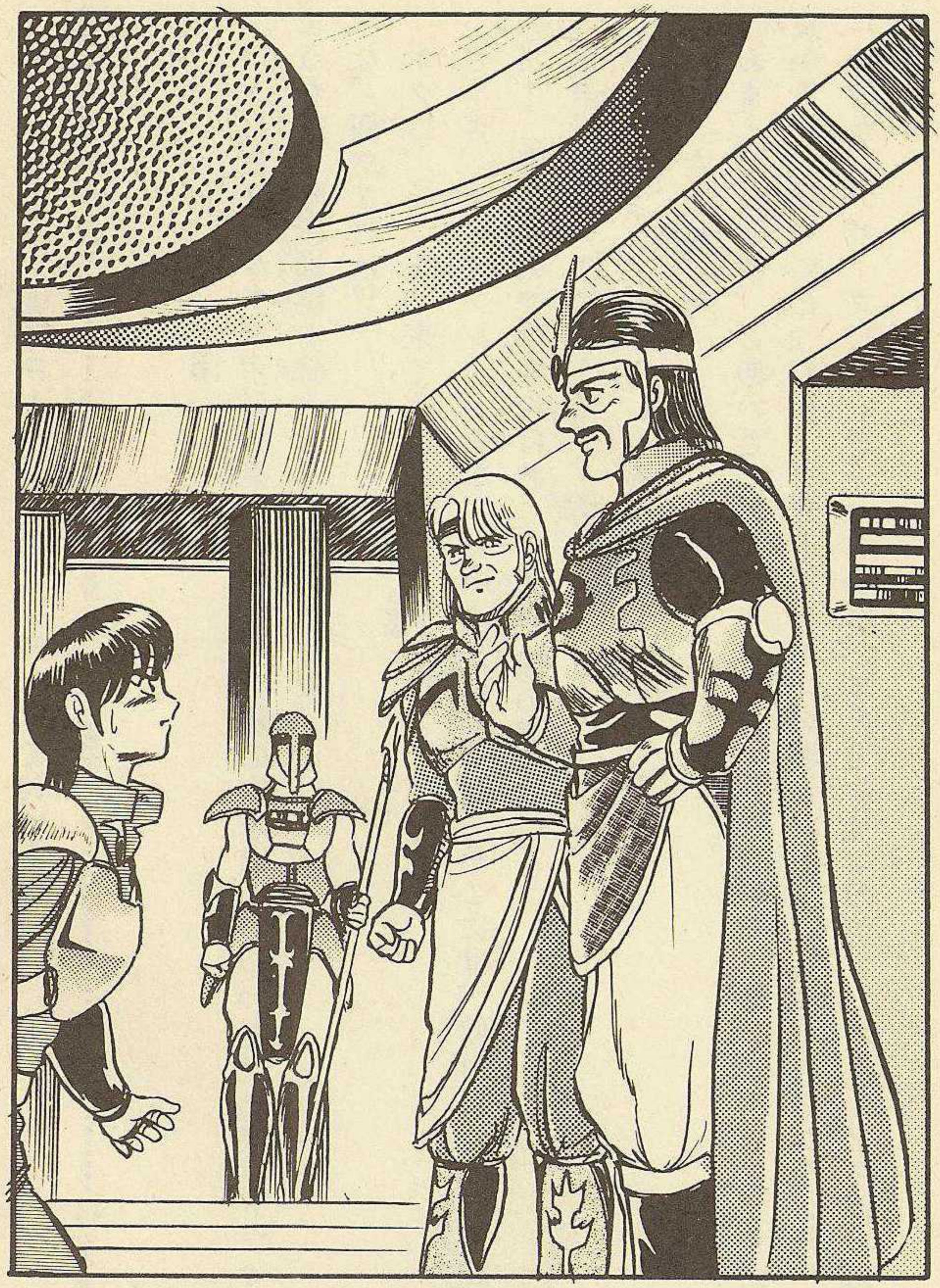
中央に立つリーダーらしい男が、重々しい声で言った。

「おまえたちは、ごあいさつだな。キミらは、我々（われわれ）を敵だと思っているようだが。――」

「おまえたちとっても、マザーブレインを壊（こわ）したキミらは憎（にく）むべきかたきだ」

良（ょ）かろう、我々にブレインを作ったのは、おまえたちなのか！　おまえたちは、何者なんだ？」

●下……⇩341へ



376●「我々は、アルゴルの人間ではない。我々の故郷は、銀河にひときわ青く輝き、高度な文明の花を咲かせた星――地球」

377～378

「我々は、アルゴルの人間ではない」ここで、男は上を見上げるようなしぐさをした。
「我々の故郷は、『地球』という星。銀河にひときわ青く輝き、高度な文明の花を咲かせた。我々は、その『地球人』の子孫なのだ」
「地球人だって……!!」
ボクたちは、よその太陽系から来た宇宙人と話しているのだ！

⇩387へ

ネイ・ソードの一撃を受けたにもかかわらず、ダークファルスはひるむ様子がなかった。
こいつは、予想以上の化け物だ。
しかし、ここで攻撃を止めるわけにはいかない。

●メキドでいっきにとどめ（TPが14以上の場合のみ） ……⇩301へ
●シフタで戦闘力アップ（TPが6以上の場合のみ） ……⇩350へ
●武器で攻撃 ……⇩327へ

378

アウクバルは、原住民のデゾリアンが住む、こぢんまりとした町だった。
デゾリアンは、顔こそ紫を帯びてはいるが、あとはボクらとなんら変わるところはない。

ぜひコンタクトをとりたいところだが。

●モジックハットがある……⇨396へ

やがて、ぜ

●西に進む……⇨334へ

●北に進む……⇨379へ

379

ボクたちはT字路(じろ)に出た。

●南に進む……⇨344へ

●ない……⇨344へ

380

階段(かいだん)のあるL字路(じろ)に来た。

この階段を上(のぼ)れば、迷宮(めいきゅう)の外に出るが……。

●南に進む……⇨355へ

●階段を上る……⇨343へ

●西に進む……⇨328へ

381

バンのガトリング砲(ほう)が、ガチャンと前方にエネルギー充塡(じゅうてん)を告(つ)げる音を発する。

突(つ)き出した。ヘビーソルジャーのビーム砲が

379〜382

ロボットどもの攻撃が、まさに始まろうという瞬間。いきなり、ヘビーソルジャーが爆発した！　カインズの対メカテクニック、ギガージだ！

「へへ、オレはやるな、カインズ。ボクもすかさず、ギフオイエを使った。強力な火炎が、バンの胴体をぶち抜く！　お人好しじゃないぜ！」

って吹っ飛んだボディに搭載されていた機関砲弾に火がまわり、ロボットはバラバラになきさまらの攻撃を待っているほど

（ＴＰマイナス３）。次は、

●北に進む……⇩**２６３へ**

３８２

●東に進む……⇩**２０２へ**

ギ・ル・ザークたちは、鉤爪になった手を前に突き出した。そこからほとばしる電光！

かわしそこねたカインズが、後ろの壁まで吹っ飛んでいった（ＨＰマイナス１）。

怪人たちは、今度はボクを狙った。

だが、その前にボクは跳び上がった。ヤツらの真上から、剣を振り降ろす！

最初のヤツが、真っ二つになって倒れた。

残りの２人もルドガーとアーミアが片づけた。

「いてて……寒いうえにこれじゃ、ぎっくり腰になっちまうぜ」アンヌに助けられて、カインズが起き上がった。心配するほどのことはないようだ。その後、Ｌ字の曲がり角を、

●北に進む……⇩328へ

383

（TPマイナス5、HPマイナス2）

「メキド！」
壁から鈍い爆発音が伝わってきた。女神像が一瞬かすれたが、すぐにもとにもどった。
だめだ、さすがの最強攻撃テクニックも、エネルギー体にはあまり効果がないらしい。
後ろの壁を少し壊した程度だ。
「ほほほほほ、そんなちゃちな攻撃でわたしに勝てる気？」
今度は、正面からおまえを倒してやる！」
「勝てるさ！
マザーブレイン37＋バトルP（1のI）
ユーシスたち戦闘P＋バトルP（2のH）で戦います。
●敵よりPが上……⇩360へ

●東に進む……⇩298へ

384

「あの、ボクらはマザーブレインの謎を握る人物を探しているんですが……」
ボクらはめげずに、別のデゾリアンに話しかけた。
「ああ？　おお、そいつなら、ウワサに聞いたことあるズラ。確かアルテプラノにおって、
●下……⇩330へ

383〜386

クレバス（裂け目）を、右に行った所におるそうズラ」

「そうですか！　どうもありがとう」

ふう、デゾリアンにも、気のいいヤツがいて良かった。さてと……。

●武器店へ行く……⇩366へ

●病院へ行く……⇩366へ

385

――次の瞬間、ボクたちは大きな広間のような所にいた。無数にある窓の向こうには、星の世界が広がっていた。

「ここが太陽系の外？　宇宙船の中なのか？」

「ははははは!!」

突然、笑い声が広間いっぱいに響きわたった。

386

行き止まりだ。まわれー右！　でもって、今度は……。

●東に進む……⇩342へ

●北に進む……⇩247へ

●北に進む……⇩270へ

●北に進む……⇩300へ

●北に進む……⇩313へ

●アルテプラノへ行く……⇩300へ

「地球人の……子孫だって……？」

「そうだ。地球は、我々の暦で2988年に滅びた。巨大になりすぎた物質文明を持て余し、お互いの憎悪と物欲のぶつかりあいの中で滅びたのだ。かろうじて生き残った我々は、この船に乗りこみ、宇宙をさまよった」

「そして、このアルゴルを見つけたってわけか！」

「ここの人々は、災いを知らずに暮らしていた。我々には、それがうらやましくもあり、ねたましくもあった。そして、我々は考えた。アルゴルも地球と同じ方法で滅亡させ、自分たちのものとしようと」

「なんだと！」

「ははは、ここまで話してやったのは、ほんのサービスだ。おまえたちも、星ひとつを破壊する力を持った我々に、逆らうほど愚かではあるまい。おとなしく死んでもらおうか！」

「うるさい！　黙れ！」

次の瞬間、ボクたちは、何百人といる地球人めがけて斬りかかっていった……。

最後の敵　37＋バトルP（1のA）

ユーシスたち　戦闘P＋バトルP（2のG）で戦います。

●敵よりPが上……⇩400へ　●下……⇩368へ

387〜390

「あれ、リフターがあるぞ。地上に続いてるんだろうか……」

●リフターに乗る……⇩362へ

●乗らずに北に進む……⇩388へ

その先は、行き止まりだった。

「待って、あそこに階段があるわよ」と、アーミアが言った。

おそらく地上に通じる階段だ。まだふたつとも武器はそろっていないが、いったん地上に出て体を休めようか……。

●階段を上る……⇩343へ

●引き返す……⇩342へ

「キエエエエ！」

ビルに入ったとたん、紫のマントを頭からすっぽりとかぶった怪人が襲いかかってきた！　魔道士、いっしょに戦う……⇩211へ

●ネコが一緒にいる……⇩371へ

●いない……⇩297へ

ダークファルスは、口をカッと開けた。ヤツがビームを吐こうとしたまさにその瞬間！

ボクの剣が、その口に吸いこまれるように突き刺さった！

「ぐおおお

391〜394

ルドガーの援護射撃を得て、ボクはネオ・マンモスの1頭に飛びのった。そのボクを目がけて、別のネオ・マンモスが、鼻を振りおろしてくる。とっさにジャンプ、今度は、別のネオ・マンモスにとびうつる。動作の鈍いヤツらは、狙いを定めることができず、ボクを狙って互いに相打ちをはじめた。

「さあ、今のうちに、早く逃げるんだ！」

ちょっとばかりセコイやり方でネオ・マンモスをかわし、ボクらはビルの外に出られた。

●Eにチェックがある……⇩129へ

●ない……⇩353へ

393

アーミアは、戦闘力を引き上げるシフタのテクニックを使った（**戦闘Pプラス2、HPプラス2**）。

たちまちパワーが、体中に満ちてきた（**戦闘Pプラス2、HPマイナス2**）。

よし、いくぞ！

⇩255へ

394

アーキドラゴンは、いきなり紅蓮の炎を吹き上げてきた！

「うわっちちっち！」（**HPマイナス3**）

くうっ、これじゃうかつに近寄れない。どうしたらいいんだ。

●HPが19以上……⇩364へ

●18以下……⇩314へ

395

「跳べ！」

ボクらが空中に飛び上がった瞬間、床全体が赤く光った。マザーブレインが、エネルギー波を流したのだ。

「ふう、危機一髪！」

「さあ、今度はこっちの番だぞ」

●女神像を攻撃……⇩373へ

●背後を攻撃……⇩139へ

396

モジックハットをかぶって、デゾリアンに話しかけてみた。

「これは異国のお方。オラたちは、コンピュータにはたよらず、のんびり狩りをして暮らしているズラ。人探しだか……。そういやあ、ほかのパルマ人が居なくなったっちゅうのに、まだ頑固に残っている人々がおると聞いておったが……」

紫色のゴツイ顔をしているが、デゾリアンは素朴で親切だった。さて、今度はどうする？

●病院へ行く……⇩356
●ほかのデゾリアンに話しかける……⇩356
●武器店へ行く……⇩372
⇩375
⇩335

397

いかん！　これは、マザーブレインの心理攻撃だ！

そうわかっていても、これは強力だった。ボクは、仲間たちから引き離され、女神像の体内――宇宙に吸いこまれていった。

デゾリス、モタビアと体ひとつで飛行し、気がつくとパルマ星の宇宙空港に立っていた。

「ユーシス！」

声に振り向けば、そこにはボクが見たことのないはずのお母さんが立っていた。

「母さん！」

ボクは、お母さんを抱きしめた。

「でも母さんは、宇宙船事故にあったって……。どうして、ここに？」

「それは、おまえを迎えにくるためだよ」

お母さんはボクの背中にまわした手に力を入れた。それは、人間の力ではなかった。ボキッという、背骨の折れる音が異様に大きく響いた……。

――コードに絡まったまま死んだボクを見て、アンヌが悲鳴をあげた。ボクは、その声

を最後まで聞くことができなかった。

Fにチェックはあるか？

●ある……⇩352へ　●ない……⇩311へ

END

398

399

「うおおおお！」

ボクは、ダークファルスめがけ、斬りかかった。

ズサッ！

再び振りかぶった時、突然、ネイ・ソードが光を放った。――おや？　心の中の重くよどんだものが、スッと消えていくようだ。

「あれ？　胸を斬られたヤツが後退する。わたし、何をやっているの……？」シルカが、たった今、目覚めたというような声を出した。

「怪物の精神攻撃にかかっていたんだ。気をつけろ、また来るぞ！」良かった。様子がおかしかったほかの仲間たちも、急にハッとした顔になる。

⇩377へ

398〜400

「わたしは、あなたたちの行いを決して許さない！」
アンヌが、グラブトのテクニックで、地球人どもを押しつぶした。
を起こし、逃げまどいはじめた。
「わたしは、運命の奴隷にはならないわ！　未来は、自分の手で切り開いてみせる！」
シルカの投げナイフが、逃げまどう地球人どもの首を貫いた。
アーミアやルドガーたちも、残るすべての力を使って戦った。炎や竜巻、剣や銃が宇宙船の中を地獄に変えた。だが、地球人の数は、ボクたちの20倍以上。やがて、現われた砲兵ロボット部隊の前に、ボクらはじりじりと押されていった……。
「くそ、おまえだけは！」
ボクは、あちこちで起きている爆発にもひるまず、地球人のリーダーに食らいついた！
満身の力をこめて、背中に剣を突き刺す！　おまえのために死んでいった人のかたきだ！
「ぐわっ！　こ、小娘にしてやられ失敗し……それからコールドスリープで千年。完全な計画のはずだったのに、また失敗するとは……」
男は死んだ。その直後、砲兵ロボットの一撃がすぐ近くで炸裂した！　ボクは爆発に巻きこまれ、意識を失った……。

HAPPY END（エピローグに続きます）

エピローグ

……ああ、また夢を見ている。ただし、いつもの夢とは違う。床には怪物――ダークフアルスがくずれ落ち、もはや動くことはない。そして、その脇には剣を高々とかかげる少女の姿。少女は長い髪をなびかせ、こちらを振り向いた。その顔は、勝利の喜びにあふれている。――アリサ。ボクは、彼女の名を呼んだ。

……ん？　ここは？

「よお、無事だったか。まったくなんてこったい。1日のうちに2度も――しかも同じ人間を釣り上げちまうとはな。仲間も生きているから気にするな」

タイラーの顔が目に入った。あの宇宙海賊の男だ。

「よくやってくれた。犠牲も大きかったが、これでアルゴルは救われた」

タイラーの後ろから、ルツが現われた。彼が名前を呼んだ。

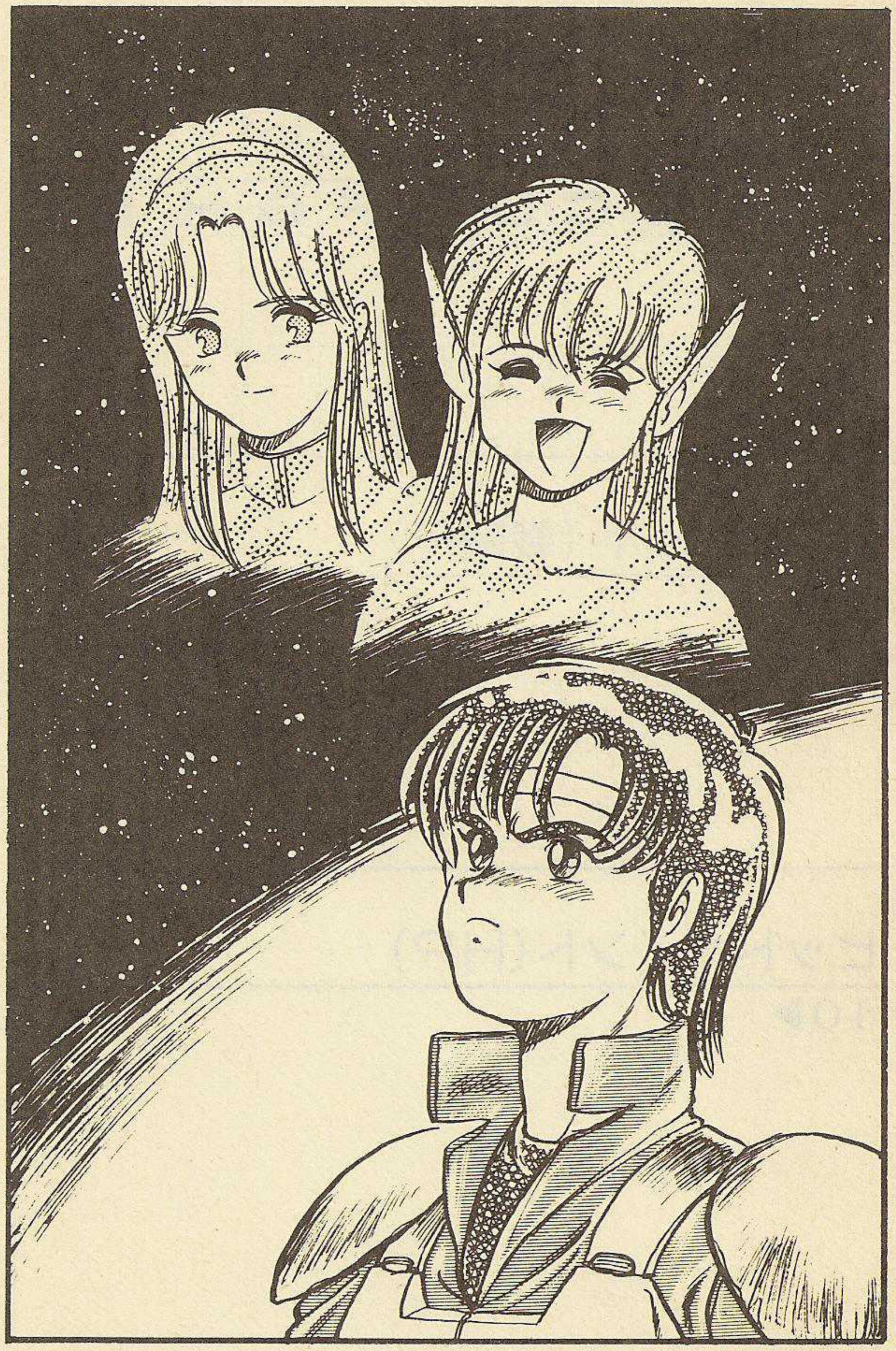
くれたのだ。

「見たまえ。あの地球人とやらの船が大爆発を起こすぞ」

スクリーンの中が真っ赤に染まり、やがてまた静寂の宇宙空間を映し出した。

これから、アルゴルは新しく生まれ変わる。いや、生まれ変わらしてみせる。星の光に浮かんだアリサやネイの顔にボクは誓った。

エピローグ



行動記録紙

バトルポイント表(バトルP)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2										

戦闘ポイント(戦闘P)

0▶

ヒットポイント(HP)

10▶

行動記録紙

テクニックポイント(TP)

O▶

お金(メセタ)

100▶

アイテムリスト

アルファベット・チェック

A	B	C	D	E	F

あとがき（大出光貴）

『ファンタシースター』（以下PS）の続編が早くも登場です。続編といってもシステムは、セガのメガドライブ用ゲームだけあって、並のRPGとは大違い。なんといっても、戦闘時に敵味方のキャラクターがそれぞれ動くのは感動もの！　さらにラストがすごいのだけど、まだ終わっていない人のためにここではナイショにしておきます（多分、家庭用TVゲームの世界でこんなことをやったのは「PSII」が初めてでしょう）。

さて、前回、SFとファンタジーの合わさった小説を紹介しましたが、もっとほかにもというモダン・ファンタジー。アクション場面とかはないんですが、ドラゴンの化身である人間がコンピュータ犯罪に巻きこまれるという設定がおもしろいです。ちょうどゲームの中にドラゴンが使われているといったパターンが逆転したみたい。

紹介ついでに、自分の本のお知らせもします。忍者ものオリジナル・ゲームブックを出します。ギャグいっぱいの楽しい作品になりそうです。

※大出光貴　1961年、北海道富良野市生まれ。好きなものは、星と船とヘンな生き物。

⇩257へ

編集部から

バイオモンスターの謎を探る『ファンタシースターII』いかがでしたか？キミは見事、謎を解きあかすことができたでしょうか？

当編集部では、今後ともゲームを素材にしたゲームブックを、次々と発表していく予定です。

つきましては、すでに発表しております「ゲームブックシリーズ」を含め、当シリーズに対する御意見、御感想をお寄せいただければ幸いです。また、これからゲームブックにして欲しいゲームの希望などもお待ちしております。

〒162　東京都新宿区東五軒町3番28号　(株)双葉社CTR「メガドライブ冒険ゲームブックシリーズ」編集部　ファンタシースターII係まで、あなたの御氏名、御住所、御年令、感想を書いていただいた本のタイトルを明記の上、お寄せ下さい。

お寄せいただいた方の中から抽選で、ゲームブックの最新刊をプレゼントいたします。

企画・構成／スタジオ・ハード　大出光貴
制作／大内めぐみ　木川明彦
文／大出光貴　橋爪　啓
作画／八雲ひろし　徳永　健
©セガ・エンタープライゼス

ファンタシースターII
還らざる時の終わりに

双葉文庫　冒険ゲームブックシリーズ　す02-48

著　者　大出光貴
　　橋爪　啓
制　作　スタジオ・ハード
発行者　清水文人
発行所　株式会社　双葉社
〒162　東京都新宿区東五軒町3番28号
TEL　東京(268)5111（代表）
振替　東京8-117299
印刷　大日本印刷株式会社
製本

©FUTABASHA1989©Mitsutaka Ode/ST・HARD 1989 Printed in Japan
ISBN4-575-76102-8　C0193（落丁・乱丁はお取りかえいたします）
定価・発行日はカバーに表示してあります

双葉文庫

FUTABASHA ADVENTURE GAME BOOK SERIES

ファンタシースターⅡ

還らざる時の終わりに



ストーリー

ラシーク対アリサ。あの壮絶な戦いから、およそ1000年の月日が流れた。その後アルゴル太陽系はさらに発展し続け、巨大なコンピュータ・マザーブレインが総ての星を管理し、平和で豊かな暮らしを築き上げるにいたった。

だが、ある日、アルゴル太陽系に不気味な怪物が出現した。バイオモンスター。バイオシステムの作り出した悪性動物だ。ヤツらは、平和な暮らしに慣れきった人々を襲い始めた！

総督から、バイオモンスターの秘密を探るように命令されたユーシスは、妹ネイを連れてバイオシステムへと旅出った!!

©セガ・エンタープライゼス

定価430円（本体417円）
ISBN4-575-76102-8 C0193 P430E 双葉文庫